

【表紙】

第2期 大野城市スポーツ推進計画
(令和7年度～令和10年度)

令和8年2月

大野城市教育委員会

【目次】

第1章 計画の策定に当たって

1 計画策定の趣旨	1
2 計画の位置づけ	1
3 計画の期間	2

第2章 計画の基本的な考え方

1 基本理念	3
2 めざすべき目標	3
3 スポーツの範囲	4
4 計画の視点	4

第3章 本市におけるスポーツの状況

1 こどものスポーツ実施状況	6
2 成人のスポーツ実施状況	6
3 高齢者のスポーツ実施状況	7
4 障がいのある方のスポーツ実施状況	7
5 スポーツ団体の状況	7
6 スポーツ施設の状況	9
7 地域のスポーツ活動の状況	13
8 スポーツイベントの状況	13

第4章 施策の展開

1 施策体系図	15
2 スポーツ活動の推進	16
基本施策 1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	16
施策 1-1 こどものスポーツ活動の推進	18
施策 1-2 成人のスポーツ活動の推進	19
施策 1-3 高齢者のスポーツ活動の推進	20
施策 1-4 障がいのある方のスポーツ活動の推進	21
施策 1-5 スポーツを通じた健康増進	22

基本施策 2 スポーツ推進のための段階的展開	24
施策 2-1 地域のスポーツ活動の促進	25
施策 2-2 スポーツ団体の活動促進	26
施策 2-3 アスリートの発掘・育成	27
施策 2-4 指導者等の育成・活用	28
基本施策 3 スポーツを推進する環境づくり	29
施策 3-1 スポーツ施設の整備と有効活用の促進	30
施策 3-2 スポーツに関する情報の提供	31
施策 3-3 スポーツにおける健全性の向上、事故の防止	31
施策 3-4 スポーツにおけるDXの推進	32
基本施策 4 スポーツを通じた地域の活性化	34
施策 4-1 大規模スポーツ大会等の誘致・開催	35
施策 4-2 スポーツを通じた魅力発信・観光振興	36
施策 4-3 スポーツを通じた国際的視点の拡大	36
施策 4-4 スポーツを活用した地域振興	37
施策 4-5 e スポーツを活用した地域の活性化	38
第5章 計画の推進体制	
1 関係機関等との協力・連携	40
2 計画の進行管理	40
資料編	
資料1 用語解説	41
資料2 運動・スポーツに関するアンケート調査結果	44
資料3 スポーツ推進計画後期計画達成度評価一覧	75
資料4 策定体制	76

資料1 用語解説は、計画本文中に(※)の表記をしている用語を掲載しています。

第1章 計画の策定に当たって

1 計画策定の趣旨

本市では、「個人」「家族」「地域」を豊かにするスポーツライフの実現をめざし、平成27年度に「大野城市スポーツ推進計画」を10年計画(平成27年度～令和6年度)として策定しました。その後、計画に基づき様々な取組を展開し、スポーツを推進してきました。

令和2年度からの後期計画期間内においては、新型コロナウイルスの影響で大会やイベント等が軒並み中止や延期となる状況が続きましたが、感染防止策を講じ、ルールなども見直したうえで開催するなど、スポーツ推進が途切れることのないよう取り組んでまいりました。

また、この間ラグビーワールドカップ2019^(※)、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会^(※)など、大規模な国際大会が日本で開催され、国内外のトップアスリートの活躍を身近で感じることができたまたとない機会となりました。

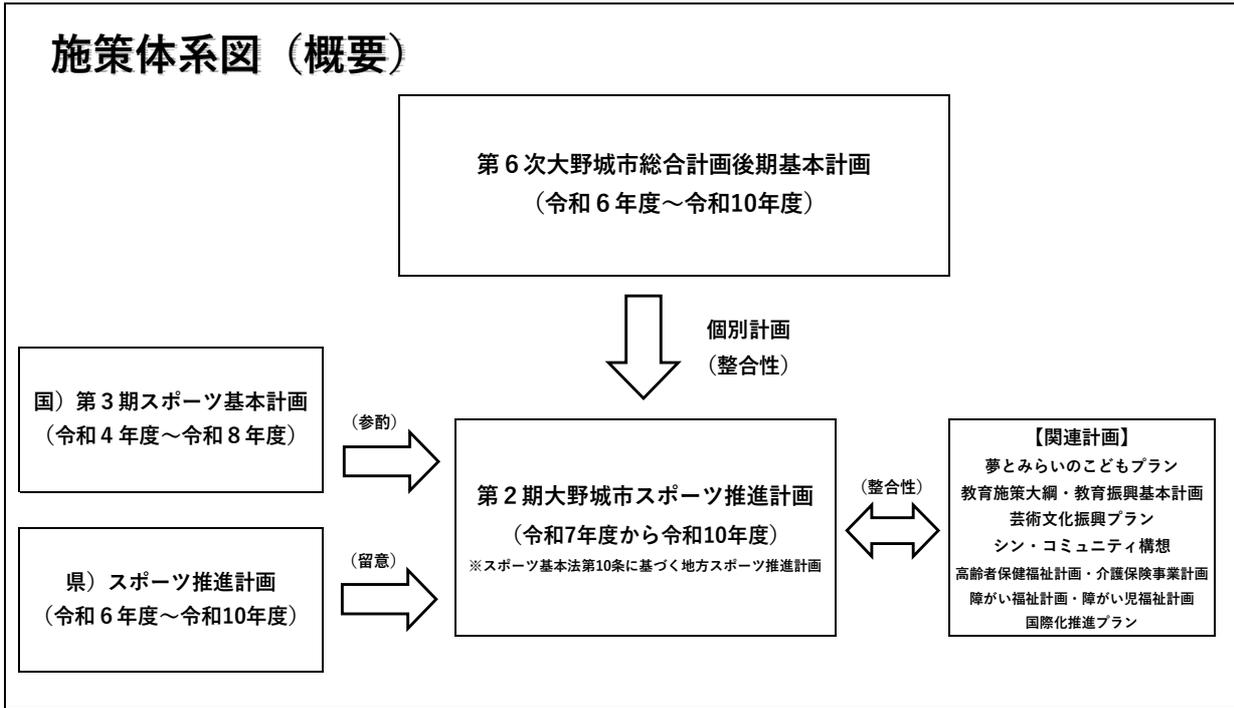
これらの大会は、コロナ禍での開催となり、観客数の制限などスポーツ界全体に深刻な影響があった一方で、インターネットによる配信の拡大などにより、デジタル化の飛躍的な推進につながりました。また、日常生活でも体を動かす機会が失われ、交流の減少や心身への悪影響が懸念されたことで、スポーツがいかに私たちの生活に大きな役割を果たしているかを、あらためて多くの人々が再認識する契機となりました。

このような状況の中、前計画が令和6年度に終了したことから、その計画内容や取組の検証結果を反映し、目標の進捗が十分でないものについては、引き続き必要な施策を確実に実行していくとともに、新たなスポーツニーズの広がりやスポーツがもたらす多様な効果を本市のまちづくりに活かしていくために、「第2期大野城市スポーツ推進計画」を策定し、スポーツのさらなる発展、推進を図ります。

2 計画の位置づけ

本計画は、スポーツ基本法(平成23年法律第78号)第10条に基づく「地方スポーツ推進計画」とし、「第6次大野城市総合計画後期基本計画」を上位計画として位置づけ、関連する他分野の計画等とも整合性を図りながら、本市のスポーツ施策を展開するための個別計画とします。

新たな計画の策定に当たっては、国の「第3期スポーツ基本計画(令和4年度～令和8年度)」(以下「国計画」という。)を参酌しつつ、また、令和5年度末策定の「福岡県スポーツ推進計画(令和6年度～令和10年度)」の内容にも留意し、本市の実情に即した計画として策定します。



3 計画の期間

令和7年度を初年度とし、終了年度は、市総合計画や県のスポーツ推進計画期間と合わせ、令和10年度までとします。

計画名	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
スポーツ推進計画	(第1期)	(第2期スポーツ推進計画)				(第3期スポーツ推進計画)				
大野城市総合計画	第6次総合計画後期基本計画					第7次総合計画前期基本計画				

第2章 計画の基本的な考え方

1 基本理念

スポーツは、急激に変化する社会情勢の下においても、その営みを止めることなく、人と人とのつながりを強めるなど私たちの生活に多岐にわたって多くの恩恵をもたらしています。

スポーツを「する」ことで、心身能力の成長、楽しさや喜び、悔しさなどの感情、健康維持や生きがいにつながり、スポーツを「みる」ことで、競技者の姿に勇気や感動をもらい、家族や友人、知人等がスポーツを「ささえる」ことで、競技をすることができ、多くの人に関わることで地域の絆が強固になり、まちづくりにつながることが期待できます。

これまで平成27年度に策定した「大野城市スポーツ推進計画」で掲げている各種施策に基づき、様々な取組を推進してきましたが、一定の成果を上げている項目はあるものの、新型コロナウイルス感染症の影響を受けるなど、目標の進捗が十分でないものも多くあり、引き続き必要な施策を確実に実行することが求められます。

そのため、本計画では、市の総合計画及び前計画の継続性を踏まえ、『～自分を、家族を、地域を豊かにするスポーツライフの創造～「市民皆(かい)スポーツの実現」』を基本理念とし、本市のスポーツによるまちづくりを引き続き推進していきます。

【基本理念】

～自分を、家族を、地域を豊かにするスポーツライフの創造～
「市民皆(かい)スポーツの実現」

2 めざすべき目標

市総合計画後期基本計画における政策体系では、スポーツは全てのライフステージに関連しており、全ての市民一人一人の生涯において必要な施策であると考えます。

本計画では、スポーツ活動に関する様々な取組を継続し、生き生きとしたスポーツライフを実現することで、(人生を楽しいものとし、)生涯にわたって健康で活力に満ちた生活を送ることをめざし、「生涯を通したスポーツ活動の推進」を基本目標とします。

【基本目標】

「生涯を通したスポーツ活動の推進」

3 スポーツの範囲

スポーツ基本法の前文において、「スポーツは、世界共通の人類の文化である」と示されており、全ての人がスポーツの楽しさや感動を分かち合うような「スポーツ文化」の成熟に向け、国や県の基本計画等を参酌、留意し、必要な方針や施策等を示すことが求められています。

本計画におけるスポーツの範囲は、一定のルールに基づいて勝敗や記録を競ったり、自らの限界に挑んだりする競技性のある身体運動だけでなく、健康の保持増進や体力の向上、心身の健全な発達を図る健康づくりや生きがいを目的とするジョギングやウォーキングなどの身体運動、自然と親しむ野外活動やレクリエーション活動などの身体運動も含むこととし、スポーツを幅広い範囲で捉えます。

e スポーツ^(※)については、様々なイベント等が開催され、新しい形態のスポーツとして社会的な認知が進んできていますが、一方でゲームへの依存性や健康リスクが生じる恐れがあることなどが報告されています。

それらを踏まえ、本市における e スポーツは、スポーツ分野の競技を中心として取り組むことを前提とし、e スポーツを通じて、障がいや年齢を問わず誰もが体験できるスポーツ推進を図っていくこと、実運動への誘導・屋内でできる運動の一つの手法として活用すること、併せて地域拠点施設等での交流を通じたイベント実施など、e スポーツを通じた地域活性化につなげていきます。

4 計画の視点

本計画におけるスポーツへの関わり方については、自ら身体運動を行う「する」スポーツだけでなく、観戦・見学といった「みる」スポーツ、団体運営やスポーツ指導、大会ボランティアといった「ささえる」スポーツという3つの視点から、より多くの市民がスポーツをさらに身近なものとして捉えることができるものと考えています。

また、スポーツは「する」「みる」「ささえる」といったそれぞれの活動の中において、楽しさや喜び、勇気と感動を人々に与え、生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で大きな役割を果たすものと考えます。

国計画においては、「する」「みる」「ささえる」ことを真に実現できる社会をめざすには、3つの新たな視点を必要とし、スポーツの価値をさらに高めることとされています。

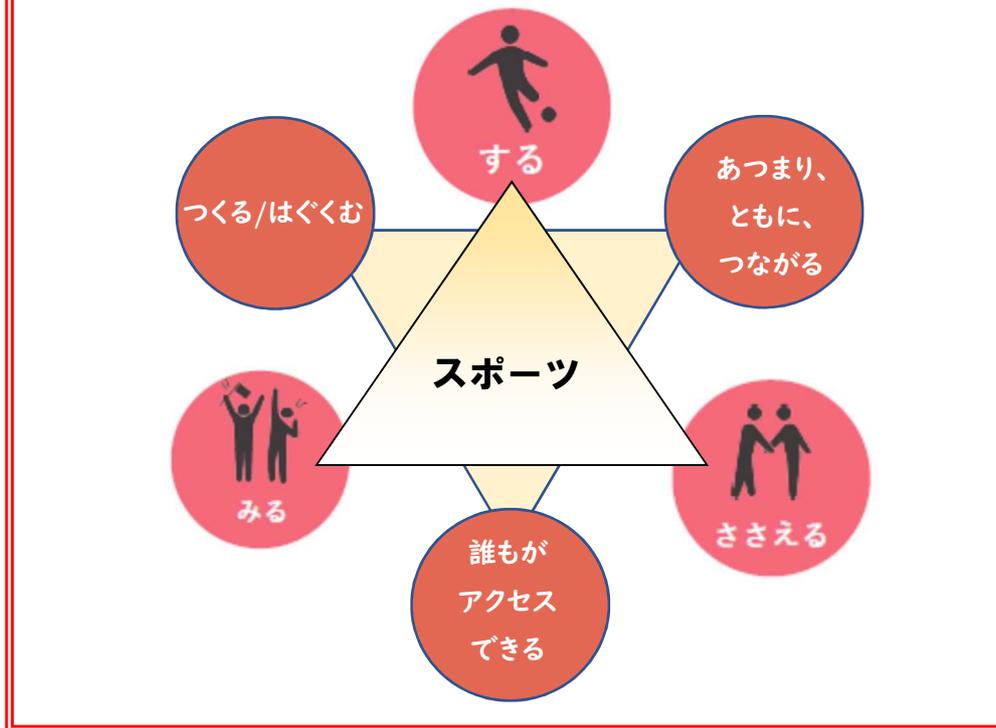
一つ目は、社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれず柔軟に対応するというスポーツを「つくる/はぐくむ」視点

二つ目は、様々な立場・背景・特性を有した人・組織があつまり、ともに課題に対応し、つながりを感じてスポーツを行う「あつまり、ともに、つながる」視点

三つ目は、性別や年齢、障がい、経済・地域事情の違い等によって、スポーツの取組に差が生じない社会を実現し、機運を醸成する「誰もがアクセスできる」視点

本市においても、これらの視点を踏まえ、スポーツに関わる施策を検討し、スポーツの力で活気に満ちた大野城市のまちづくりにつなげていきます。

「スポーツ」の価値・ポテンシャル



スポーツへの関わり方としては、スポーツを「する」ことだけでなく「みる」「ささえる」ことも含まれる。

スポーツを「みる」ことで、極限を追求するアスリートの姿に感動し、スポーツを「みる」人の人生に活力が得られる。

家族や友人等が一生涯懸命応援することでスポーツを「する」人の力になることができる。

スポーツを「ささえる」ことで、多くの人々が交わり共感し合うことにより、社会の絆が強くなっていく。例えば「みる」ことがきっかけで「する」「ささえる」ことを始め、「ささえる」ことで「する」ことのすばらしさを再認識したりすることもある。また、スタジアムやアリーナで多くの人々がアスリートの姿を間近に見ることでスポーツの価値を実感することができる。

スポーツは、「する」「みる」「ささえる」という様々な形での「自発的な」参画を通して、人々が感じる「楽しさ」や「喜び」に本質をもつものを基本として、スポーツを通じて、他の分野にも貢献し、優れた効果を波及したり、様々な社会課題を解決したりすることができる社会活性化等に寄与する。

さらに、スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを真に実現できる社会をめざすには、新たに「つくる/はぐくむ」「あつまり、ともに、つながる」「誰もがアクセスできる」の3つの視点を加え、全ての人々がスポーツに関わり、その価値を高めていくことができる。



全ての人々がスポーツに関わり、スポーツを日常生活に位置づけることで、スポーツの力により「人生を楽しく健康で生き生きとしたもの」にすることができる。

第3章 本市におけるスポーツの状況

1 こどものスポーツ実施状況

本市では、こどものスポーツの実施状況等を把握するため、令和6年3月に、市内の小中学生を対象とした「運動・スポーツに関するアンケート調査」を実施しました。

アンケート結果によると、こどもの週3日以上スポーツ実施率は59.5%であり、令和元年6月に実施した前回調査時と比較すると、0.7ポイント増加しました。

また、週1日以上スポーツ実施率は85.3%と前回調査(85.8%)に比べ0.5ポイント減少していますが、反対に「スポーツをしなかった」と回答したこどもは6.2%であり、前回調査(6.3%)時に比べ0.1ポイント減少した結果となりました。

運動部活動やスポーツクラブ等への加入状況については、小中学生ともに減少しており、特に小学生では平成26年度調査時と比較すると、約30%減少しています。

これらのことから、スポーツを実施するこどもが増加している一方で、運動部活動やスポーツクラブ等の加入率は、小中学生ともに減少傾向にあり、スポーツを実施するこどもが増加しているものの、継続したクラブ等の活動にはつながっていないことが伺えます。

図表1 こどものスポーツ実施率

	平成26年度	令和元年度	令和5年度
①週3回以上	59.7%	58.8%	59.5%
②週1～2回	29.6%	27.0%	25.8%
③週1回以上(①+②)	89.3%	85.8%	85.3%
④月3回～年1回	8.7%	7.9%	8.4%
⑤全くしなかった	2.0%	6.3%	6.2%
スポーツクラブ又はスポーツ少年団等加入率(小学生のみ)	91.4%	65.1%	61.8%
運動部活動又は社会体育 ^(※) 加入率(中学生のみ)	69.5%	69.6%	67.1%

※令和5年度実施調査

2 成人のスポーツ実施状況

こどものアンケート調査と同様に、成人のスポーツの実施状況等を把握するため、令和6年3月に、市内に居住する18歳以上を対象とした「運動・スポーツに関するアンケート調査」を実施しました。

アンケート結果によると、週3回以上のスポーツ実施率は22.8%であり、令和元年6月に実施した前回調査時と比較すると、2.6ポイント増加しました。

また、週1回以上のスポーツ実施率は40.0%と前回調査(39.8%)に比べ0.2ポイント増加していますが、反対に「スポーツを全くしなかった」と回答した人は42.8%であり、前回調査(42.6%)時に比べ0.2ポイント増加した結果となりました。

図表2 成人のスポーツ実施率の推移

	平成 26 年度	令和元年度	令和5年度
①週3回以上	20.2%	20.2%	22.8%
②週1～2回	22.2%	19.6%	17.2%
③週1回以上 (①+②)	42.4%	39.8%	40.0%
④月3回～年1回	28.5%	17.6%	17.1%
⑤全くしなかった	29.1%	42.6%	42.8%

※令和5年度実施調査

3 高齢者のスポーツ実施状況

令和6年に策定した第6次大野城市総合計画後期基本計画の人口推計によると、本市の人口に占める 65 歳以上の割合は、令和4年で 22.2%となり、今後も増加傾向で令和 24 年度には 30%を超える見込みとなっています。

なお、週3回以上のスポーツ実施率は、60 代で 25.3%、70代以上で 31.5%であり、令和元年6月に実施した前回調査時と比較すると、60 代は 4.0 ポイント増加、70 代以上は 2.2 ポイント減少しました。このような状況を踏まえ、スポーツを通じた健康づくりや介護予防がよりいっそう重要となっています。

現在、すこやか交流プラザ内にある健康増進室では、生活習慣病予防やフレイル予防などを目的に、常駐している健康運動指導士^(※)が、各人の健康レベルに合わせて運動プログラムを作成し、安全かつ効果的な運動の指導を行っています。

4 障がいのある方のスポーツ実施状況

障がいのある方のスポーツ(以下「パラスポーツ」という。)は、障がいのある方のために考えられたスポーツや障がいの有無に関わらず取り組めるスポーツについて広く表す言葉ですが、最近では障がいの有無に関わらず共に楽しめる点が注目されています。一般のスポーツのルールを一部変更したり、用具を用いて工夫したりすることで、楽しく安全にスポーツを行えるようにしています。

現在、MADOKAれくスポ祭のニュースポーツ体験コーナーでは、パリ 2024 パラリンピック競技であるボッチャを取り入れており、また、市内コミュニティセンターへのパラスポーツ用具の整備などを実施し、パラスポーツを推進しています。

5 スポーツ団体の状況

①大野城市スポーツ推進委員会

スポーツ基本法第 32 条の規定に基づいて教育委員会が委嘱したスポーツ推進委員により構成された委員会です。この委員会は、地域のスポーツ活動を推進するために、主にスポーツ関連事業の企画や立案などを行い、市民に対してスポーツの実技指導や助言を行うなど、スポーツ行政と地域のスポーツ活動の間に立って連絡調整を行う役割を担っています。

本市では、4つの地区コミュニティにスポーツ推進委員を配置し、各コミュニティの地域性を活かしながら、地域のスポーツ活動を推進しています。

②公益財団法人 大野城市スポーツ協会(以下「スポーツ協会」という。)

昭和 45 年に「大野町体育協会」として発足して以降、本市のスポーツ振興の中核的な団体として様々な地域スポーツイベントを実施するとともに、競技スポーツ団体及びスポーツ少年団やレクリエーション団体の統括から生涯スポーツの普及振興まで、スポーツを通じたまちづくりを推進している団体で、本市のスポーツの発展において重要な役割を担っています。令和2年度には創立 50 周年を迎え、令和3年度に大野城市体育協会から大野城市スポーツ協会に名称を変更しました。

③競技種目統括団体(スポーツ協会加盟団体)

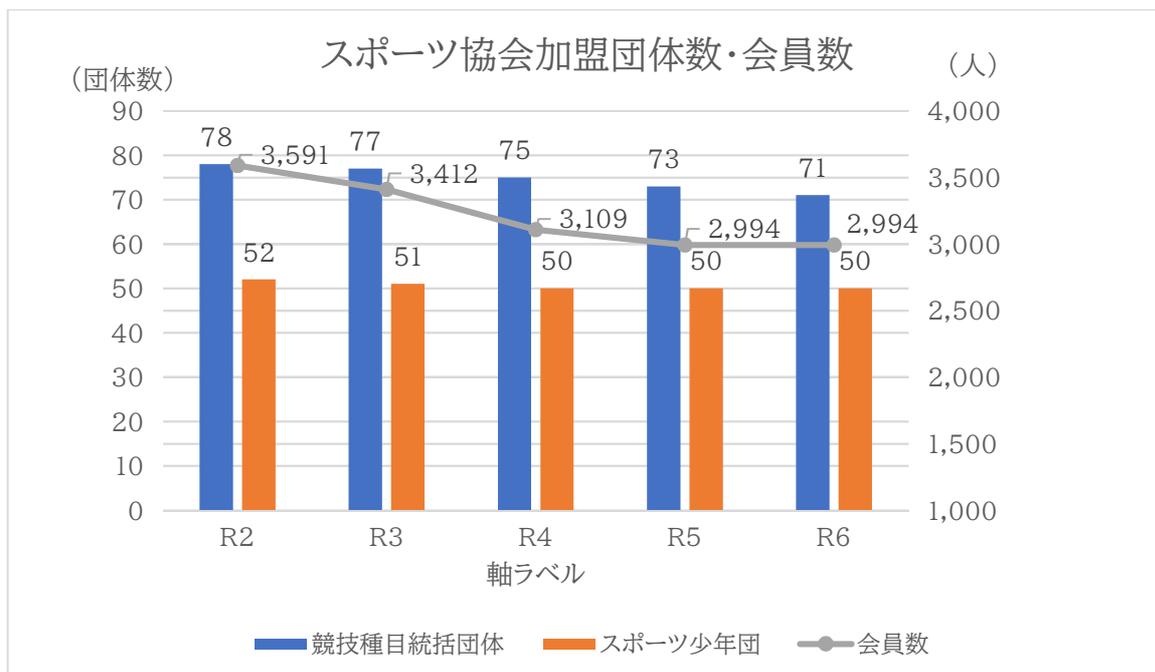
市民を対象とした各種目別競技大会の開催や市民の競技力向上のほか、地域スポーツイベントに対する協力支援など、本市の競技スポーツ発展のために日々活動している団体です。令和7年6月現在で 20競技種目統括団体(72団体)1,590人が会員となっています。

競技種目	団体数	競技種目	団体数
①野球協会	2	⑪剣道連盟	1
②ソフトボール協会	3	⑫柔道連盟	1
③バスケットボール連盟	4	⑬少林寺流空手道連盟	1
④バレーボール協会	8	⑭弓道連盟	1
⑤ソフトバレーボール連盟	6	⑮相撲協会	1
⑥テニス協会	13	⑯ゲートボール連合	1
⑦バドミントン連盟	7	⑰ボウリング協会	1
⑧卓球連盟	13	⑱ペタンク協会	1
⑨サッカー協会	1	⑲バウンドテニス連盟	5
⑩陸上競技協会	1	⑳少林寺拳法連盟	1
		合計	72

④大野城市スポーツ少年団(スポーツ協会加盟団体)(以下「スポーツ少年団」という。)

子どもたちに地域を基盤としたスポーツ活動の場を提供することで青少年の健全育成を図ることを目的とした社会体育の団体です。令和7年6月現在で 15 競技種目(51団体)1,339 人が会員となっています。

競技種目	団体数	競技種目	団体数
①野球	9	⑨ジュニアバドミントン	2
②ジュニアソフトボール	6	⑩剣道	5
③ミニバスケットボール	6	⑪柔道	1
④バスケットボール	4	⑫空手道	4
⑤ジュニアバレーボール	4	⑬少林寺拳法	2
⑥ジュニアサッカー	3	⑭ハンドボール	1
⑦ラグビー	1	⑮バトン	1
⑧ジュニアテニス	2	合計	51



6 スポーツ施設の状況

本市のスポーツ施設は、大野城総合公園(まどかパーク)を核として、赤坂・旭ヶ丘テニスコート、乙金多目的広場、北市民プールなど、多種多様なスポーツができる施設を整備しています。近年では、施設の老朽化や修繕箇所も増えていることから、計画的な改修工事を行っています。

また、施設の利用人数については、各施設により増減傾向は異なるものの、令和2～3年の新型コロナウイルス感染が広がった時期以降はおおむね回復傾向にあります。

I 大野城総合公園(まどかパーク)

所在地 大野城市乙金 618 番地 12

①総合体育館

設置年月 昭和 57 年3月

構造規模 鉄筋コンクリート3階建

延床面積 4,457.12 m²

施設内容 競技場、小体育室、武道室
健康体力相談室(トレーニング室)
会議室、研修室、ミーティングルーム



利用人数

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
51,536 人	60,531 人	72,965 人	98,117 人	70,718 人

※令和6年度(1月から3月まで)は改修工事のため利用中止

②テニスコート

設置年月 昭和 58 年3月
 構造規模 砂入人工芝コート(全天候型)
 面積(コート内) 3,191.30 m²
 施設内容 コート5面、夜間照明
 クラブハウス



利用人数

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
16,902 人	13,520 人	19,903 人	18,093 人	16,902 人

③市民球場

設置年月 昭和 60 年 10 月
 構造規模 軟式専用球場
 面積(球場内) 10,475.98 m²
 施設内容 夜間照明、審判室
 スコアボード、遮光ネット



利用人数

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
16,713 人	12,096 人	20,158 人	21,536 人	30,085 人

④多目的グラウンド

設置年月 昭和 60 年 10 月
 構造規模 全天候型舗装トラック(8コース)
 インフィールド(クレイ舗装)
 面積(走路内) 10,694.10 m²
 施設内容 全天候型 400mトラック
 インフィールド多目的グラウンド
 砲丸投サークル、走幅跳用助走路、観覧席



利用人数

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
28,032 人	27,785 人	33,689 人	32,996 人	34,491 人

⑤アーチェリー場

設置年月 昭和 58 年3月

構造規模 6 人立 70m

面積 1,593.90 m²

施設内容 的場、倉庫

利用人数



令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1,274 人	1,305 人	1,751 人	1,032 人	1,355 人

⑥弓道場

設置年月 昭和 63 年3月

構造規模 鉄骨造平屋建

面積 629.54 m²

施設内容 近的 10 人立、更衣室

弓立ロッカー室、観覧席

利用人数



令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
2,354 人	942 人	2,878 人	3,434 人	4,234 人

⑦相撲場

設置年月 平成 12 年8月

構造規模 鉄骨造平屋建

面積 144.00 m²

施設内容 土俵、軽量電動シャッター

利用人数



令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
250 人	0 人	220 人	210 人	190 人

⑧キャンプ場

設置年月 昭和 57 年3月

面積 22,977 m²

施設内容 テントサイト(20 か所)

貸出テント(10 張・6 人用)

調理所 2 か所、遊具施設

利用人数



令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
224 人	728 人	1,516 人	1,222 人	1,625 人

II 赤坂テニスコート

所在地 大野城市中二丁目5番1号
 設置年月 平成4年3月
 構造規模 透水型砂入人工芝コート(全天候型)
 面積(コート内) 2,166.44 m²
 施設内容 コート3面、夜間照明、管理棟
 利用人数



令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
4,521人	11,324人	14,226人	14,147人	14,969人

III 旭ヶ丘テニスコート

所在地 大野城市旭ヶ丘一丁目12番27号
 設置年月 平成12年3月
 構造規模 透水型砂入人工芝コート(全天候型)
 面積(コート内) 2,427.51 m²
 施設内容 コート4面、夜間照明、管理棟
 利用人数



令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
19,215人	16,600人	20,005人	16,597人	20,219人

IV 乙金多目的広場

所在地 大野城市乙金三丁目19番22号
 設置年月 平成25年11月
 構造規模 天然芝広場
 面積(広場内) 5,300.00 m²
 施設内容 多目的広場(芝生化 4,400.00 m²)
 夜間照明、クラブハウス
 利用人数



令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
10,868人	10,803人	12,545人	13,769人	15,204人

V 北市民プール

所在地 大野城市御笠川一丁目17番1号
 設置年月 平成4年3月
 構造規模 屋外プール(夏期のみ開場)
 面積(場内) 1,309.00 m²
 施設内容 大プール(25m)、小プール(幼児用)
 ウォータースライダー2基、管理棟



利用人数

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
0人	0人	13,359人	26,827人	22,415人

※令和2年、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により閉場

7 地域のスポーツ活動の状況

本市では、コミュニティや区ごとに地域のスポーツ活動が主体的に行われており、誰もが気軽にできるニュースポーツやレクリエーションの大会などが開催され、多くの市民がスポーツに親しんでいます。

地域の主なスポーツ活動

ユニカール大会、五目お手玉大会、グラウンドゴルフ大会、歩こう会、ペタンク大会、ボウリング大会、かけっこ教室、ロコモ予防体操教室など

8 スポーツイベントの状況

①大野城いこいの森ロードレース・中学校対抗駅伝競走大会

毎年4月に、市内牛頸ダム周回道路(1周 3.3 km)で大野城いこいの森ロードレース・中学校対抗駅伝競走大会を開催し、スポーツ協会加盟団体から派遣されたボランティアスタッフ約300人が運営に協力しています。

本大会には、毎年多くのランナーが参加しているほか、市内の団体や福祉関係団体のバザーの出店もあり、大変にぎわいのあるスポーツイベントです。

また、市内の中学校対抗駅伝大会も併せて開催しています。

参加人数

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
中止	中止	736人	979人	1,179人

※令和2年、3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止

②大野城市民水泳大会

毎年6月に、福岡県立総合プールにおいて、市民(市内事業所勤務者含む。)を対象とした競技スポーツ(競泳)大会を開催しており、小学生から高齢者まで約100人の参加者が、自己記録の更新をめざして出場しています。本大会は、毎年8月に開催される福岡県民スポーツ大会^(※)夏季大会の出場選手選考会も兼ねています。

参加人数

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
中止	中止	53人	104人	114人

※令和2年、3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止

③まどかリンピック

本市における競技スポーツ及び生涯スポーツの普及振興を図るため、毎年9月第2日曜日から10月のスポーツの日までの1ヶ月間を「まどかリンピック月間」としています。初日には大野城総合公園(まどかパーク)を会場として、市民陸上競技大会や市民綱引大会、市民テニス大会を開催し、その後も各種目別競技大会や様々なスポーツイベントを行っています。

参加人数

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
中止	中止	489人	794人	867人

※令和2年、3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止

※令和4年度は陸上大会、テニス大会は開催。綱引大会は中止

④MADOKAれくスポ祭

毎年10月のスポーツの日に「まどかリンピック月間」のフィナーレとして、各コミュニティセンター(市内4か所)を会場として、誰もが気軽に楽しめるニュースポーツの体験ができる市民参加型のスポーツイベントを実施し、こどもから高齢者まで多くの市民が参加しています。

参加人数

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
中止	中止	2,869人	4,294人	5,138人

※令和2年、3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止

第4章 施策の展開

1 施策体系図

第6次大野城市総合計画後期基本計画において、ライフステージ毎の取組を行うことから、本計画の施策体系は、基本理念及び基本目標の実現に向け4つの基本施策を設定し、各基本施策の課題解決に向け、さらに下記の18の施策を設定します。

基本理念	基本施策		施策内容	
「自分を、 家族を、 地域を豊かにする スポーツライフの創造」 「市民皆（かい） スポーツの実現」	基本 施策 1	ライフステージに応じた スポーツ活動の推進	1-1	子どものスポーツ活動の推進
			1-2	成人のスポーツ活動の推進
			1-3	高齢者のスポーツ活動の推進
			1-4	障がいのある方のスポーツ活動の推進
			1-5	スポーツを通じた健康増進
	基本 施策 2	スポーツ推進のための 段階的展開	2-1	地域のスポーツ活動の促進
			2-2	スポーツ団体の活動促進
			2-3	アスリートの発掘・育成
			2-4	指導者等の育成・活用
	基本 施策 3	スポーツを推進する 環境づくり	3-1	スポーツ施設の整備と有効活用の促進
			3-2	スポーツに関する情報の提供
			3-3	スポーツにおける健全性の向上、事故の防止
			3-4	スポーツにおけるDXの推進
	基本 施策 4	スポーツを通じた 地域の活性化	4-1	大規模スポーツ大会等の誘致・開催
			4-2	スポーツを通じた魅力発信・観光振興
			4-3	スポーツを通じた国際的視点の拡大
			4-4	スポーツを活用した地域振興
			4-5	eスポーツを活用した地域の活性化

2 スポーツ活動の推進

スポーツ活動の推進に当たっては、前計画で定めた目標の進捗が十分でないものもあり、引き続き必要な施策を確実に実行していくことが求められます。そのため、目標指数については、下記のとおり目標設定の整理を行い、より実効性のある計画として推進していきます。

目標設定の考え方	I 前計画期間で目標値に及ばなかったもので、前計画の目標値のまま又は見直して設定
	II 前計画期間で目標値を達成したもので、前計画の維持又は上回る目標値を設定
	III 既に取り組を進めていたもので、目標値を新たに設定したもの
	IV 本計画において新たに取り組を進めることとし、目標値を設定したもの

基本施策1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

年齢や性別、障がいの有無に関わらず、全ての市民がそれぞれのライフステージで生涯にわたって運動・スポーツを実施できるよう、様々な取組を進めます。

現状と課題

〈運動・スポーツの実施率〉

令和5年度に本市が実施したアンケート調査によると、成人における週1日以上運動・スポーツ実施率は、40.0%であり、前回(39.8%)に比べ上昇しているものの、国の調査による運動・スポーツ実施率52.0%を大きく下回った結果となっています。

年代別で見ると、週3回以上実施した割合は70代以上が最も高く、年代が上がるにつれて実施率が高い傾向となっています。一方で、30代の半数が「全くスポーツをしなかった」と回答しており、しなかった理由として「仕事や家事、育児等で忙しい」が最も高い結果となりました。

運動・スポーツをしなかった理由は様々ですが、若い世代から運動・スポーツに親しむ機会を提供し、環境を整えていく必要があります。

〈運動やスポーツを行うきっかけづくり〉

本市のアンケート調査では、成人のスポーツを全くしなかった理由の一つとして「始めるきっかけがない」の回答が上位に入り、「運動・スポーツが嫌い、興味がない」を上回った結果となりました。一方で、こどもの場合は「運動・スポーツが嫌い」が最も多く、次いで「一緒にする友達がいない」という理由が挙げられました。

これらの調査結果から、運動・スポーツを楽しむきっかけを提供し、興味や関心を持てる環境づくりが求められていると考えられます。そのため、スポーツの魅力を発信し、自分にあった運動・スポーツと出会う場を提供する取組が重要です。その一環として、「総合型地域スポーツクラブ」は、誰もが仲間とともに身近なところで運動・スポーツを行える場として多様目・多世代・多志向に対応した取組を行い、市民に運動・スポーツを行うきっかけを提供する重要な役割を担っています。

〈こどもの体力向上〉

福岡県が実施した「令和5年度福岡県児童生徒体力・運動能力調査」の結果によると、児童生徒が学校の体育授業以外で週3日以上運動やスポーツを実施する割合は53.6%となっており、年々増加傾向となっています。その調査項目(8種目)を合計した点数(体力合計点)についても、運動実施割合に比例して増加傾向であり、本市においても、運動・スポーツの実施率を上げていくことが児童・生徒の体力向上につながっていくと考えられます。

本市における週3日以上運動やスポーツを実施するこどもの割合は59.5%であり、福岡県の平均を上回っているものの、週1日以上の実施率は前回調査時から減少しています。今後も継続した運動・スポーツの実施率を上げていく取組が必要です。

〈スポーツによる健康づくり・生きがいづくり〉

運動・スポーツの大きな目的の一つとして、健康づくり・体力づくりがあげられます。本市の成人を対象としたアンケート調査では、「健康・体力づくり」がスポーツを行う理由として最も多く挙げられており、次いで「運動不足解消」が続く結果となりました。また、年代別に見ると、年齢が上がるにつれてこれらの理由の割合が高くなっており、特に高齢者ほど健康への意識が強いことが伺えます。

運動習慣を身に付けることで、生活習慣病の予防や介護予防など、健康寿命^(※)の延伸につながります。そのため、地域の拠点である公民館やコミュニティセンターなどにおいて、スポーツ教室等を行い、友人や仲間との交流の一つとしてもスポーツが親しまれています。

〈学校におけるスポーツ活動〉

子どもたちが生涯を通じて、スポーツに親しもうとする資質や能力を身に付けていくためには、学校や地域において、「する」「みる」「ささえる」といった様々な視点でスポーツに参画し、スポーツの楽しさを体感することが重要です。

そのため、家庭や地域と連携し、外遊びやニュースポーツの体験など、運動・スポーツに親しむ時間を確保していくことが必要です。

また、中学校の学校部活動においては、少子化や加入者の減少に伴いチームが組めない、指導者不足、教員の働き方改革などを背景に部活動の在り方が変化しており、学校部活動を段階的に地域へ移行していくことが推進されています。本市においてもスポーツ協会と連携し、土、日、祝日において、段階的に全校を対象として地域移行(展開)していくこととしています。今後も、本市の状況に応じて慎重に検討していく必要があります。

〈新型コロナウイルス等の影響〉

新型コロナウイルス感染症の影響により、大規模スポーツイベントの中止や公共スポーツ施設・公民館等の閉鎖など、地域においてもスポーツに親しむ機会が多く失われました。長きにわたり、施設の閉鎖やスポーツイベントが中止されたことに伴い、体力の低下や健康状態の悪化、また子どもたちの部活動やスポーツクラブも中止となり、身体的な健康の悪化のみならず、心理的なストレスや社会性の発達への影響なども大きな課題となりました。

このような状況下においても、運動やスポーツを継続していくために、オンラインレッスンや個人でも楽しめる運動が新しい選択肢として広がり、環境整備も進んできました。これらのことは、スポーツがいかに日常生活に大きな役割を果たしているかを再認識するきっかけとなりました。

〈共生社会の実現に向けたスポーツ〉

スポーツには、相手を尊重する心やチームワーク、フェアプレーの精神を養うなど、人間性や社会性を育てる力が秘められています。スポーツを通じて、人々がつながりを持ち、スポーツの価値を共有することができれば、人々の意識や行動が変わり、大きな力となり様々な社会課題の解決につながることも期待されています。

また、パラスポーツについては、パラリンピック等における日本選手の活躍により、認知度は向上してきていますが、本市においては、パラスポーツの更なる普及啓発が課題となっています。

今後は、障がいの有無に関わらず誰もが参加できるスポーツレクリエーションイベントの実施や、パラスポーツを始めるきっかけづくりとなるニュースポーツ、パラリンピックやスペシャルオリンピックス等の普及啓発の取組を行っていきます。

〈中学校部活動の段階的な地域展開〉

中学校の部活動においては、急激な少子化や教員の働き方改革を背景に、子どもたちがスポーツ、文化芸術活動に継続して取り組めるよう、学校生活主体の活動である部活動を段階的に地域全体で支える活動に移行する地域展開が推進されています。

本市では、スポーツ協会、スポーツ推進委員、中学校などと連携し、休日の部活動を令和6年度から令和8年度にかけて段階的に地域主体の活動である地域クラブ活動に移行しています。

また、部活動の地域展開については、指導者謝金などの費用に対する参加負担金の検討や、平日の部活動に関する方針検討などが課題となっています。

今後は、子どもたちがスポーツに親しむことができる受け皿となる環境づくりに、地域の現状や課題、市民ニーズを反映し、取り組んでまいります。

【施策 1-1 こどものスポーツ活動の推進】

幼児期から運動やスポーツを実施する習慣を身に付けることは、体の発育のみならず心の成長にも大きな影響を与えるため、こどもの発達状態に合わせたスポーツの取組を実施していきます。また、学校における外遊びや部活動、スポーツ少年団への支援等を行い、スポーツが継続して実施していけるよう取り組みます。

◆目標

目標指標	前回 目標値	現状値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 10 年度)	目標 設定
小中学生の週 3 回以上の スポーツ実施率	70%以上	59.5%	65%以上	I

❖具体的な取組

①親子で楽しめるスポーツイベントの実施

幼児期から、親と子が一緒になって笑顔で競い合うことのできる「親子参加型」のスポーツイベントを実施します。親子で参加することによって、家族との交流の時間も確保し、親世代の運動不足の解消にもつなげていきます。

②身近な外遊び環境の整備

こどもたちが身近なところで安全に安心して外遊びを楽しめるように、スポーツ施設や公園などに設置している遊具や防球ネット、フェンス等の定期点検を実施し、不具合等があった場合は早急に対応を行い、安全安心な環境整備を図ります。

③こどもの体力向上等への支援

スポーツ推進委員と連携し、学校における体力テスト測定時の教員のサポートや正しい測定方法の指導を行います。また、体力測定時に最大パフォーマンスを発揮できるようワンポイントアドバイスを実施します。

併せて、こどもの体力等の向上のために、身体の使いかたや筋力のつけ方などの指導を行えるような取組や筋力アップのトレーニング方法などを周知する方法を検討します。また、多くのこどもが少しでもスポーツを始めるきっかけとなるよう、ニュースポーツが体験できる取組を進めます。

④運動のきっかけづくりとなるスポーツ教室の実施

総合型地域スポーツクラブにおいて、スポーツが苦手なこどもや初心者を対象とした教室を開催し、運動の基礎となるプログラムを実施します。

⑤スポーツ少年団への支援

地域におけるこどもたちのスポーツの受け皿として重要な役割を担っているスポーツ少年団の活性化を図るため、各種イベント等においてスポーツ少年団への加入を推奨します。

また、スポーツ協会と連携を図り、スポーツ少年団に対して、こどもを対象としたスポーツイベントやスポーツ大会の開催を促進するとともに、スポーツ少年団同士の交流支援や市外及び県外の交流事業等への参加を通して、こどもたちが幅広い視野を育み、豊かなスポーツ体験を得ることができる機会を提供します。

⑥中学校運動部活動への支援

中学校の運動部活動において、専門的な指導ができる教員が足りないことへの対策として、スポーツ協会が実施しているスポーツ・レクリエーションリーダーバンク^(※)(以下「リーダーバンク」という。)を活用し、リーダーバンクに登録されている指導者を中学校の運動部活動へ派遣し、専門的な実技指導を行います。

【施策 1-2 成人のスポーツ活動の推進】

本市の成人のアンケート調査では、特に若い世代で、運動不足と感じていても仕事や家事・育児等で忙しく、スポーツを全くしなかった割合が高くなっています。成人のスポーツ実施を促

すためには、「楽しさ」を意識した家族・友人と参加できるイベントや仕事の合間でできる運動の啓発など、スポーツを行う時間を確保できる取組が必要です。

❖目標

目標指標	前回 目標値	現状値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 10 年度)	目標 設定
成人の週1回以上の スポーツ実施率	50%以上	40.0%	45%以上	I

❖具体的な取組

①家族参加型スポーツイベントの促進

親子で気軽にスポーツに参加できるよう、現在実施されているスポーツイベントにおいて、家族で参加できる種目や内容を取り入れ、スポーツ実施時間の確保に努めます。

②レク式体力チェック^(※)の普及

レク式体力チェックは、性別や年齢に関わらず「いつでも・だれでも・簡単に」実施することができます。自分に合ったスポーツを始めるための自分の体力をしっかりと把握することができます。スポーツ推進委員と連携し、自宅で気軽にできる体力チェックとして「レク式体力チェック」を紹介していき、自分の身体への関心を高めてもらうきっかけにつなげます。

③ゲーム感覚で参加できるスポーツレクリエーションイベントの実施

気軽にスポーツに取り組んでもらえるよう、健康や成果にとらわれず「楽しさ」に焦点をあてたゲーム感覚のスポーツレクリエーションイベントを実施します。レクリエーションの要素を取り入れることで、参加するハードルを低くし、継続してスポーツを実施できるよう取り組みます。

④市内の企業と連携したスポーツの推進

市内企業と連携し、職場内でのスポーツ推進を支援する制度を検討します。職場内でのスポーツ推進が広がることで、働く世代の運動不足の解消、健康増進や意欲向上につながるよう取り組みます。

⑤運動習慣形成のアドバイス

仕事や家事、育児等で忙しい世代へ向けての運動習慣形成アドバイスとして、子育て支援等のイベント時や、広報等において自宅で取り組める運動や、いつでもどこでも取り組める運動(スロージョギング等)を紹介します。

【施策 1-3 高齢者のスポーツ活動の推進】

運動やスポーツは、生活習慣病の予防やフレイル予防など健康寿命の延伸につながるため、継続した運動習慣を身につけることが重要です。無理なく継続して運動やスポーツを楽しめるよう、関係部署と連携を図り、生活習慣病やフレイル予防などに効果的な運動習慣の確立を推進します。

また、生きがいづくりや社会的孤立の防止の観点からも、運動やスポーツの推進を図ります。

❖目標

目標指標	前回 目標値	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和10年度)	目標 設定
60歳以上の週3回以上の スポーツ実施率	40%以上	28.8%	35%以上	I

❖具体的な取組

①生活習慣病の予防・フレイル予防のための健康教育の実施

シニアクラブなどの団体の要請に基づき、健康運動指導士による健康教育を実施し、ウォーキングや筋力トレーニング、ストレッチ体操など、取り組みやすく、効果的な運動の推進に努めます。

②高齢者の健康づくりをテーマとした教室の開催

健康増進室において、高齢者の筋力低下やロコモティブシンドローム^(※)等をテーマとした教室を開催し、高齢者向けの教室の充実を図ります。

【施策1-4 障がいのある方のスポーツ活動の推進】

共生社会の実現のためには、スポーツの持つ役割が重要であり、年齢や性別、障がいの有無などに関わらず、全ての人々がスポーツに親しむことができる環境をつくっていくことが大切です。パラリンピック、デフリンピックやスペシャルオリンピックスの普及により、パラスポーツを「見たり・聞いたり・行ったり」する機会が増加してきており、本市においてもパラスポーツの普及啓発を行うとともに、パラスポーツを通じて障がいのある方への配慮や理解を深められるように努めます。

また、障がいのある方がスポーツに参加することは、自身の心身の健康増進や自己肯定感の向上、社会生活の充実につながるため、障がいのある方もない方も一緒になって、スポーツ・レクリエーション活動を楽しむことができる取組を進めます。

❖目標

目標指標	前回 目標値	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和10年度)	目標 設定
障がいの有無に関わらず誰もが 参加できるスポーツイベントの 実施件数	—	0件	3件	IV

❖具体的な取組

①パラスポーツ用具の充実

パラスポーツ実施の環境整備のため、各地区コミュニティセンターにパラスポーツ用具を配置します。また、パラスポーツや障がいのある方への理解を深められるよう、パラスポーツ用具を活用した、障がいのある方もない方も一緒になって、スポーツ・レクリエーション活動を楽しむ

ことができる事業(スポーツ教室等)の実施を検討します。

②パラアスリートを活用したパラスポーツの推進

パラスポーツへの理解・関心を高めるために、パラアスリートの協力を得ながら、研修会やスポーツ教室の開催を検討します。

③パラスポーツ等の普及啓発

パラスポーツの理解を深め、認知度向上を図るため、市広報やホームページ、SNS^(※)等でパラスポーツやパラアスリートの紹介を行うなど、パラスポーツの普及啓発に努めます。

【施策 1-5 スポーツを通じた健康増進】

継続した運動やスポーツを実施することは、運動不足や肥満の解消、ロコモティブシンドロームの予防、健康寿命を延ばすことにつながり、ひいてはスポーツを通じた健康・生きがいづくりにもつながることから、関係部署と連携を図りスポーツを通じた健康増進の取組を行います。

❖目標

目標指標	前回 目標値	現状値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 10 年度)	目標 設定
健康増進室の年間利用者数	9,000 人以上	6,317 人	9,000 人以上	I

❖具体的な取組

①市民が主体的に取り組む健康づくりの推進

本市では、市民一人一人が健康な生活を送るため、より主体的に健康づくりの意識を高め、更なる健康づくり及び食育の取組を推進していくために「大野城健康・食育プラン」を策定しています。本プランを推進していくことで、スポーツを通じた健康づくりに寄与することから、関係部署と連携して、各種取組を推進します。

②健康増進室の利用促進

すこやか交流プラザにある健康増進室は、40 歳以上の人が利用できる運動施設です。常駐している健康運動指導士が、現在の体力年齢を知りたい人や自分に合った安全で効果的な運動を知りたい人などに対して指導や助言を行います。集団健診などを受診して健康意識が高まった人に対して、健康増進室の紹介や「かたつむりカード^(※)」の紹介を行い、スポーツを通じた健康意識の向上を図ります。

③ライフステージに応じた健康増進

かたつむりカードの提出や健診受診などで健康ポイントを付与し、運動や健康的な活動の継続を支援します。また、福岡県が推奨する「ふくおか健康ポイントアプリ^(※)」とも連携し、アプリを活用した運動習慣の定着を推進します。

④健康づくりの取組

本市では、各種計画において健康増進につながる取組を実施しています。第3期大野城市保健事業実施計画(データヘルス計画)、第4期大野城市特定健康診査等実施計画では、「運動によって健康増進を実現」するため、今より「10分多く」元気にからだを動かす取組+10(プラス・テン)を実践し、健康寿命を延ばすことを推奨しています。また、大野城市環境基本計画・地方公共団体実行計画(区域施策編)では、自動車に過度に依存しなくても暮らしやすく、安心して歩くことを楽しむことができるまちづくりを推進し、市民の健康づくりと脱炭素を同時に実現するような取組を進めています。運動不足の解消及び健康づくりにつながることから、これらの取組は、関係部署と連携して、普及啓発等を行い健康増進を図ります。

基本施策2 スポーツ推進のための段階的展開

スポーツの推進には、地域スポーツなどをきっかけにスポーツに興味を持ち、アスリートへと成長していく。また、スポーツ指導者へと進んでいくそれぞれの過程において、段階的な支援が必要です。スポーツ協会と連携し、アスリートとして成長していくために必要な様々な情報の提供やスポーツに携わる指導者として必要なスキルの習得などの取組を実施します。

現状と課題

〈スポーツ推進委員の役割〉

各地区から選出され、市内全域で活動するスポーツ推進委員は、市の非常勤特別職の公務員として委嘱され、スポーツ振興を目的に活動しています。委員の皆さんは、自身の仕事とかけもちで活動されている方も多く、活動に制限がかかる中でも、市内外を問わずスポーツ関係者や地域をつなぐコーディネーター役としても活躍されています。一方で、委員の高齢化や地域での担い手不足などの後継者の課題もあります。今後はスポーツ推進委員の魅力を発信し、地域スポーツの基盤となる人材育成を行いながら、更なるスポーツ推進に向けた取組を進めます。

〈競技スポーツの推進〉

本市における競技スポーツの推進については、スポーツ協会を中心に競技団体の支援や各競技大会の開催など、関係団体と連携を図りながら進めてきました。例年実施している、「いこいの森ロードレース」や「まどかリンピック」などのスポーツイベント参加者は増加傾向にあり、また、近年の県民スポーツ大会総合成績においては、本市が上位に入賞するなど、競技スポーツが盛んな地域と言えます。

しかしながら、市民のスポーツ実施率の低下に伴い、スポーツ協会への加盟登録者数も減少傾向にあることから、今後は、スポーツ活動団体への支援の強化など、加盟登録者数を増加させる新たな取組が必要です。また、競技団体においては組織体制や指導体制の基盤が弱く、選手強化に関する育成環境が十分でない団体も見受けられます。このような団体の課題を把握し、指導者育成を含めた適切な支援を行う必要があります。

〈ジュニア期の指導〉

主に6歳から14歳までのジュニア期は、肉体面や神経や脳などの様々な機能が発達していく成長期です。心身ともに、生涯を通じてスポーツと関わる習慣を身に付ける時期でもあり、この時期の指導はこどもたちの今後のスポーツライフに与える影響が少なくありません。

指導者は、競技力の向上のみならず、スポーツの楽しさやコミュニケーション能力、フェアプレーの精神などを伝える重要な役割を担うため、指導者に対する研修等を通じた人材育成も必要です。また、体罰を含む様々なハラスメントに対する適切な指導についても、人材育成と併せて指導者の学びの機会を創出していきます。

〈スポーツがもたらすシビックプライド^(※)〉

本市出身やゆかりのあるトップアスリートが、オリンピック・パラリンピックをはじめ、国際大会や

全国大会で数多く活躍することは、市民に大きな感動をもたらし、夢や希望を与えてくれます。そのようなトップアスリートが身近に感じられる存在であれば、市民の大会での応援の機運が醸成するとともに、スポーツに対する関心がより一層高まり、市民として本市への愛情や誇りを持つことにもつながることが考えられます。

しかしながら、トップアスリートの存在や出場大会の情報収集が統一できていないことが現状です。今後は、スポーツ協会や所属団体等と連携し、情報提供や情報収集に努めます

〈プロスポーツチームとの連携〉

プロスポーツチームと市との連携は、健康やスポーツ推進のみならず、地域振興の発展やまちづくり、地域活性化などにもつながる効果も期待されています。また、プロスポーツチームに所属するトップアスリートは、子どもたちの憧れや目標になります。トップアスリートとの交流は、アスリートを身近に感じることができ、シビックプライドの向上や競技人口の増加、競技者・指導者の育成など、スポーツの推進にも非常に有効だと考えられます。今後は、プロスポーツチームと市の連携を強化していく必要があります。

【施策 2-1 地域のスポーツ活動の促進】

スポーツを実施するきっかけづくりのためには、身近なところでスポーツにふれることが必要です。地域でのスポーツを推進していくために、各地区コミュニティに配置しているスポーツ推進委員を中心にスポーツの輪を広げ、地域スポーツの普及啓発及び活性化を図ります。

❖目標

目標指標	前回 目標値	現状値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 10 年度)	目標 設定
MADOKA れくスポ祭来場者数	7,000 人以上	4,855 人	6,000 人以上	I

❖具体的な取組

①MADOKA れくスポ祭の活用

毎年、各地区コミュニティにおいて開催しているMADOKA れくスポ祭は、子どもから高齢者まで、誰もが気軽に参加できるスポーツイベントとして市民に定着しています。各地区コミュニティ運営協議会が中心となって地域性を活かし、様々なニュースポーツ体験コーナーを設置しています。コミュニティによっては、来場者の世代に偏りがあることから、各地区コミュニティの開催状況を関係者で共有し、MADOKA れくスポ祭が運動・スポーツを行うきっかけとなり、ニュースポーツが市民に浸透し、楽しめる環境の整備に努めます。

②地域スポーツを支える人材の育成

地域スポーツを支える人材として、スポーツ推進委員や競技団体・スポーツ少年団などの指導者、スポーツ協会のリーダーバンク制度の登録者などが活動しています。スポーツ活動にお

ける多様化・高度化したニーズに対応できる人材の育成を図るために、講習会や研修会への参加を促進し、地域スポーツを支える人材の資質向上を図ります。

③スポーツ推進委員の活動支援

スポーツ推進委員と連携して、スポーツ推進に向けた事業を開催するとともに、スポーツ推進委員が各地区コミュニティで実施するスポーツ推進活動を支援することで、市民に広くスポーツ推進委員の活動への理解・協力を求め、将来的には地域スポーツの人材の確保につなげます。

④出前講座の活用

本市が実施している出前講座では、地域の子どもから高齢者まで幅広い世代を対象に、様々なニュースポーツの紹介及び体験会を実施しています。一人でも多くの市民がニュースポーツの楽しさを実感できるように、またニュースポーツをきっかけとして、スポーツに親しむ市民が増えるように、出前講座を活用したニュースポーツの普及に取り組みます。

⑤ニュースポーツ備品の整備

ニュースポーツには、多種多様な種目があり、数多くの専用の備品が存在します。スポーツをしていない人がスポーツを始めるきっかけとなるように、多種多様なニュースポーツ備品を各地区コミュニティセンターに設置することで、誰もがいつでもニュースポーツに触れる機会を創出します。

【施策 2-2 スポーツ団体の活動促進】

スポーツを推進するには、スポーツを実施する受け皿が必要不可欠です。本市では、スポーツ協会が中心となり、長きにわたってスポーツ活動団体を支え、今日まで脈々と受け継がれてきています。今後もスポーツの推進の中心的役割として、スポーツ協会とより一層連携を深め、スポーツ団体の活動促進に努めます。

❖目標

目標指標	前回 目標値	現状値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 10 年度)	目標 設定
スポーツ協会加盟登録者数	4,000 人以上	3,152 人	3,500 人以上	I

❖具体的な取組

①競技スポーツ団体等への活動支援

様々な競技スポーツから自分に合った種目を幅広く選択できるように、既存競技団体やスポーツ少年団に対する支援のほか、競技団体の紹介や大会結果等の情報発信などを行い、本市の競技スポーツの活性化を図ります。

②総合型地域スポーツクラブを通じた競技団体等の支援

総合型地域スポーツクラブにおいて、様々な競技種目を体験する機会を創出し、特定の競技

種目に興味を持った市民を既存の競技団体やスポーツ少年団に紹介することで、団体の活性化ならびにスポーツ協会の加盟登録者数の増加を図ります。

【施策 2-3 アスリートの発掘・育成】

スポーツの推進には、感動や夢、希望を与えてくれるアスリートや指導者などが必要です。アスリートは、様々なトレーニングや努力の積み重ねはもちろんですが、スポーツの身体的能力も必須です。アスリートを見出し、的確に指導を行いながら、人材を育てていくための取組が必要です。

◆目標

目標指標	前回 目標値	現状値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 10 年度)	目標 設定
トップアスリートに 触れる機会の創出	—	2件	2件	Ⅲ

◆具体的な取組

①選手育成環境の整備

選手の育成に必要な指導者の充実を図るため、技術指導研修会や講習会などへ参加する競技団体やスポーツ少年団の指導者に対して、スポーツ協会と連携して支援を行います。その他、福岡県が実施している事業等との整理を行い、本市の選手育成に必要な情報収集や事業周知、協力支援などを実施します。

②全国大会等出場支援制度の充実

競技スポーツにおいて予選を勝ち上がり全国大会等へ出場する市民に対して、スポーツ協会と連携して支援を行います。また、近年多様化しているオリンピック種目等に対応した効果的な支援方法も検討します。

③トップアスリートとの交流

スポーツ協会と連携し、様々なスポーツ種目のトップアスリートによるスポーツ教室や交流事業、トークイベント等を実施します。また、プロスポーツチームと連携し、試合観戦や選手交流の場などの機会を創出できるよう検討を進めます。

④トップアスリートの紹介

トップアスリートをより身近に感じ、めざすべき目標となるよう、オリンピックやパラリンピック、国際大会などに出場した本市出身やゆかりのあるトップアスリートを紹介し、広く知ってもらうことで選手のモチベーションの向上につなげ、応援する市民のスポーツの機運醸成につなげます。

【施策 2-4 指導者等の育成・活用】

指導者は、専門的な知識と技術のみならず、選手とのコミュニケーションやチームをまとめる力、心理的なサポート、教育者としての資質など多岐にわたって選手を見ていかなければなりません。選手たちが、心技体の全てにおいてスポーツを楽しみながら成長していけるよう、指導者の育成等の支援に努めます。

◆目標

目標指標	前回 目標値	現状値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 10 年度)	目標 設定
リーダーバンク登録者数	70 人以上	62 人	70 人以上	Ⅱ

◆具体的な取組

①ジュニア期の指導者の育成支援

こどもの人格形成に大きな影響をもたらす指導者に対して、青少年の健全育成に寄与するスポーツ少年団活動や中学校運動部活動を推進するため、競技力向上だけでなく、豊かな心を育む交流会やハラスメントや人権研修などを実施します。

②生涯スポーツの指導者の育成支援

生涯スポーツの推進にあたり、組織運営やスポーツ指導の在り方について学ぶ機会を創出するとともに、地域づくりを担うスポーツ指導者としての資質向上のために、スポーツ協会会員やスポーツ登録団体、レクリエーション団体、リーダーバンク登録者等の指導者を対象とした研修会を実施します。

③スポーツハラスメント防止の徹底

スポーツハラスメントの防止には、指導者個人のみならず、組織全体での取組が必須です。そのため、スポーツ協会やスポーツ少年団と連携し、「スポーツハラスメント防止ガイドライン」に基づいた取組を進めます。また、指導者に対して、定期的なハラスメント防止に関する研修等の実施や大会運営の先進事例等の周知を行います。

基本施策3 スポーツを推進する環境づくり

障がいの有無に関わらず、全ての市民が、それぞれの年齢や体力に応じて、安心かつ安全にスポーツを実施し、習慣化していくためには、パラスポーツやeスポーツを含む、スポーツ環境の充実が不可欠です。市民が楽しく、快適に身近な場所で様々なスポーツを楽しむことができるよう、利用者のニーズに対応した計画的なスポーツ施設等の改修及び設備や備品の更新など、利用者の利便性向上に取り組み、スポーツ環境の充実を図ります。

また、スポーツを実施することのみならず、スポーツをみる、ささえるなど、スポーツに触れる機会の充実を図るため、スポーツに関する情報の提供を行うなど、各種施策の推進に取り組みます。

現状と課題

〈スポーツ施設の現状と課題〉

総合公園(まどかパーク)をはじめ、市内のスポーツ施設の多くが老朽化により、大規模な改修又は修繕が必要な状況となっています。このため、平成27年度に「総合公園等中長期改修基本計画」を策定し、年次的にスポーツ施設の計画的な改修を進めているところです。今後も、引き続き、利用者が安全かつ安心して利用できるスポーツ施設の整備・維持管理を行っていく必要があります。また、時代とともに変わりゆく利用者の多様なニーズに応える取組が求められています。

令和8年度以降には総合体育館等の大規模改修事業を予定しており、改修期間における利用制限が行われるため、その期間中は、コミュニティセンターなどの屋内施設や小中学校などの屋外施設の利用ができるよう更なる連携を行っていきます。

また、小学校プールについては、プール授業を段階的に民間に委託していくことから、学校プール開放についても順次廃止していくこととなります。併せて北市民プールの老朽化も進んでいることから、今後はプール施設の在り方について、検討していく必要があります。

〈スポーツ施設等の備品の更新〉

社会体育活動を支援するために、学校教育に支障のない範囲で学校施設(運動場・体育館など)を開放しています。学校施設によっては、社会体育で利用する団体のために、夜間照明や防球ネットなどの社会体育備品を設置しています。しかしながら、社会体育備品の経年劣化による損傷や不良か所が散見されることから、適正な維持管理を継続していくとともに、社会体育備品の現状を確認し、学校施設の整備・維持管理に取組、環境を整えていく必要があります。

〈リニューアルオープンする大野城総合公園キャンプ場の利活用〉

令和8年度に大野城総合公園キャンプ場がリニューアルオープンすることで、キャンプ場利用者の集客が見込めることとなります。本キャンプ場は、フリーサイトエリア、広場エリア、森林活用ゾーンなどを備え、良好なアクセスや豊かな自然、眺望などの特性を活かし、ファミリー層やライトキャンパー、団体利用者などを取り込み運営していくこととしています。本キャンプ場の特性を十分に活用し、キャンプ場施設とスポーツを融合した取組が必要です。

〈総合的なスポーツ情報の提供〉

総合的なスポーツ情報については、機を逃さず情報の集約を行うことが困難であり、総合的な情報を提供できる仕組みづくりの検討が進んでいない状況にあります。現在、スポーツ情報を提供する手段としては、市やスポーツ協会の広報紙及びホームページ、スポーツ協会の公式 Instagram を活用し、情報提供をしていますが、本市のスポーツに関する総合的な情報を提供できる仕組みづくりが必要です。

〈パラスポーツや e スポーツの環境整備〉

パラスポーツや e スポーツを推進していく上では、備品や施設などの充実や普及員の人材育成などの環境整備が必要です。しかしながら、現状においてはその取組が進んでいないため、まずは、関係団体や所管課との連携・協力を強化し、段階的に環境整備を進めていく必要があります。

【施策 3-1 スポーツ施設の整備と有効活用の促進】

本市のスポーツ施設については、「総合公園等中長期改修基本計画」、「大野城市公共施設等総合管理計画」及び「大野城市公共施設等マネジメント計画」に基づき、計画的な修繕・改修を進めています。既存のスポーツ施設の有効活用を図っていくとともに、新たなスポーツ施設などの整備について検討していきます。

また、近年、全国的にアーバンスポーツ^(※)と呼ばれる「都市型スポーツ」の普及が進められており、本市においても空きスペースや公園などを有効に活用した取組を検討していきます。

❖目標 ※計画期間中に大規模改修工事が行われる予定であることから目標値は下方設定。

目標指標	前回 目標値	現状値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 10 年度)	目標 設定
大野城総合公園施設利用者数	165,000 人	204,326 人	200,000 人	I

❖具体的な取組

①スポーツ施設の安全点検

スポーツ施設の安全性の確保のため毎年、自主点検を行い、早期に改修が必要な施設については優先して改修するなど、各種計画の見直しを行いながら、施設の維持管理を行っていきます。

②既存のスポーツ施設の利便性の向上

スポーツが実施できる、限りある施設を効果的に活用していくため、施設の利便性の向上を図り、必要な調査研究等を行います。また、北市民プールや学校プールの在り方についても検討を進めます。

③総合体育館等の大規模改修事業

令和8年度以降に、総合体育館等の大規模改修工事を予定しており、利用できない期間が生

じることとなりますが、障がいの有無に関わらず、誰もが安全・安心して利用でき、使いやすい施設に改修していく予定です。

④大野城総合公園キャンプ場再整備事業

令和8年度にリニューアルオープンする大野城総合公園キャンプ場を活用したスポーツ大会やレクリエーション大会の実施について検討していきます。

⑤総合公園等キャッシュレス決済の導入の検討

施設予約に関し、オンラインや窓口でのキャッシュレス決済について、関係課と協議を進め導入について検討し、施設の利便性の向上を図っていきます。

【施策 3-2 スポーツに関する情報の提供】

スポーツに関する情報提供については、市及びスポーツ協会の広報紙やホームページにおいて定期的に周知を図っているところですが、まだ情報が不足しているとの声も聞かれます。

そのため、まずは、市及びスポーツ協会の広報紙やホームページ、SNS を有効に活用することとし、情報を集約したサイト等については、今後必要性を検討していきます。スポーツ情報の提供方法や提供内容を見直し、全市民が市のスポーツ情報を等しく享受できるような体制づくりを進めていきます。

◆目標

目標指標	前回 目標値	現状値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 10 年度)	目標 設定
市広報におけるスポーツ 関連記事の掲載件数	—	71件	80件	Ⅲ

◆具体的な取組

①スポーツに関わる人への情報発信

市民がスポーツに関する情報をわかりやすく手軽に入手できるように、市やスポーツ協会の広報紙、ホームページにおいて情報を発信していきます。また、スポーツを見ることや応援したい人に対しても、積極的に情報を提供していきます。

②国際大会などの情報発信

地域のスポーツ大会のみならず、国内において開催される各種競技の国際大会などの情報を発信し、スポーツを見ることや応援したい人に対しても、スポーツに関する様々な内容を発信していきます。

【施策 3-3 スポーツにおける健全性の向上、事故の防止】

「スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の維持・向上、人や地域間の交流による活力の醸成、経済の発展などの多様な効果をもたらすものである」と国のスポーツ基本法(平成

23 年法律第 78 号)で定義されており、本市においても、スポーツハラスメント防止の徹底や健全性の向上が求められています。また、スポーツハラスメント防止や健全性の向上、事故防止には、適切な予防策・教育・環境整備・技術導入など、様々な取組で実現できます。選手や関係者が安心して競技と向き合える体制を整えることが、スポーツの持続的な発展を支える重要な要素であるため、スポーツハラスメント防止の徹底や健全性の向上及び事故防止に取り組む施策を実施していきます。

❖目標

目標指標	前回 目標値	現状値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 10 年度)	目標 設定
スポーツ指導者に対する 研修等の実施件数 (市・スポーツ協会実施)	—	1 件	3 件	Ⅲ

❖具体的な取組

①青少年の健全育成のための研修

青少年の健全育成に寄与するスポーツ少年団活動や中学校運動部活動を推進するため、子どもの人格形成に大きな影響をもたらす指導者に対して、競技力向上の研修だけでなく、豊かな心を育む研修などを実施していきます。

②事故防止に係る研修及び啓発

昨今の気象条件の悪化(例えば、異常気象、猛暑、台風、大雨など)は、スポーツの実施に大きな影響を与えています。特に、夏季の猛暑による気温上昇に伴い、熱中症リスクが高まり、競技者のみならず、観客への健康被害も考慮する必要があるため、事故やけがの防止のために、指導者などに対する研修の実施や競技団体、スポーツ施設等への情報提供による啓発に取り組みます。

【施策 3-4 スポーツにおけるDXの推進】

スポーツにおける DX の推進は、技術が進化するにつれて更なる可能性を広げていくことが予想されることから、先進地や近隣自治体の取組を参考にするとともに、本市においてより効果的な手段・方法の情報を収集するよう努めます。

❖目標

目標指標	前回 目標値	現状値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 10 年度)	目標 設定
スポーツに関する 動画等の配信件数	—	1 件	4 件	Ⅲ

◆具体的な取組

①スポーツに関する動画等の配信

スポーツ競技者のみならず、スポーツをみる、ささえる人などスポーツに携わる全ての人に向けて、スポーツに関する様々な動画を配信していきます。

②デジタルサイネージ^(※)を活用した情報発信

スポーツに関する情報や取組など、広く情報発信を行っていくとともに、デジタルサイネージを活用したスポーツに関する情報発信も行っていきます。

③タブレット端末を活用した取組

各学校の授業において使用されているタブレット端末を使用したスポーツに関する情報発信を検討していきます。

④スポーツにおける競技力向上

競技スポーツにおいてトップをめざす意欲と相応の実績のある選手やチームが競技力の向上を目的として取り組む、新たな技術や手法の導入を支援していきます。

基本施策4 スポーツを通じた地域の活性化

スポーツ大会やイベントの開催は、市民のスポーツ活動への関わりを広げるといった効果だけでなく、本市の魅力を伝える機会でもあります。本市では、毎年「大野城いこいの森ロードレース」を開催し、1,000名を超えるランナーが市内外から参加しています。会場では、地元特産物販売やバザーなどが催され、レース後もにぎわいを見せています。

また、eスポーツを含めた大規模大会等の開催については、スポーツを通じた地域の活性化につながることから、会場設備などの環境を整えたいうで大会誘致に向けて検討していきます。

現状と課題

〈スポーツの可能性〉

スポーツは、競技力向上、個人の健康の維持増進や人間的な成長、社会性の向上が得られるなどといった側面のみならず、地域、経済、文化、娯楽、地域課題の解決など、スポーツとの掛け合わせで更なる相乗効果を生み出す可能性が大いにあります。本市においても、更なる地域活性化に向け、分野を超えて関係部署や地域、企業等と連携し、取組を検討していきます。

〈スポーツによる誘客〉

スポーツは、「する」「みる」「ささえる」3つの視点に「つくる/はぐくむ」「あつまり、ともに、つながる」「誰もがアクセスできる」を加えることで、全ての人々がスポーツに関わり、価値を実感することができます。トップアスリートが出場する大会やスポーツ教室など、トップアスリートを身近に感じる良い機会であり、大会等に関わり、「みる」「ささえる」ことで一体となって大会等を盛り上げることができます。

さらに、会場外では地元特産物の販売なども行うことで、地域全体で活性化が見込まれます。トップアスリートが出場する大会等は会場の整備や体制等、地元企業等との連携が必須であることから、大会等の誘致については、受け入れ態勢や施設環境を整えていく必要があります。大野城総合公園では、駐車場不足が問題となっており、今後大規模大会等の誘致と併せて、駐車場の増設が喫緊の課題となっています。

〈地域資源を活用したスポーツによる地域活性化〉

本市は、豊かな自然や歴史に恵まれ、交通の利便性もあります。多くのスポーツ施設がある大野城総合公園の近隣には、「ワンヘルスの森」を有する四王寺山や「まなびのやど福岡」などの地域資源が多く存在しています。大野城総合公園を拠点として、様々なイベントや大会等を実施することで、相互利用を図り、多くの人々が訪れる地域としてにぎわいが創出されるため、関係施設等と連携し、地域活性化を図っていきます。

また、本市では、全日本女子野球連盟が認定する「女子野球タウン^(※)」の認定を受けたことから、本市と包括連携協定を締結している女子硬式野球チーム「九州ハニーズ」と地域の活性化を図るため、様々な取組を進め地域を盛り上げていきます。

〈総合型地域スポーツクラブによる地域活性化〉

総合型地域スポーツクラブは、スポーツをしていない市民のスポーツを始めるきっかけとなり、かつ市民のスポーツ交流の拠点となるように、より市民の身近なところで開催することをめざし、運営を行っています。それぞれの教室におけるニーズ等を把握し、自分たちで教室の在り方を考え、よりよくすることができる運営スタイルとしています。一方で、参加者の固定化や地域によっては参加者の偏りが見受けられることから、それぞれ個人の体力にあった教室を受講できるようにすることや、教室の開催場所を広げることなど更なる支援・充実に努めます。

〈女子野球選手に配慮した施設整備〉

本市は、令和7年度に女子野球タウン認定を取得し、女子野球を通じたシティプロモーションやまちづくりなどを進めることとしています。女子野球タウン認定の基準には、安全性や女子トイレ更衣室の創設など、女子野球選手が使いやすい球場づくりが必要とされています。現在の市民球場は硬式野球が実施できる整備とはなっておらず、かつ女子野球選手に適した仕様とは全くなっていません。また、記録室等はエアコンの整備もなく、夏場の試合では使用できないような状況です。これらのことから、硬式野球場への転換や女子野球選手に配慮した設備とするための新設野球場を検討していく必要があります。

【施策 4-1 大規模スポーツ大会等の誘致・開催】

大規模スポーツ大会等の開催については、本市と同様な条件の自治体や過去の成功例などの情報を収集するとともに、会場の設備や受け入れ態勢等を整理したうえで、大会誘致の可否について検討を進めていきます。

❖目標

目標指標	前回 目標値	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和10年度)	目標 設定
大規模スポーツ大会等開催件数	—	0件	1件	Ⅲ

❖具体的な取組

①大規模大会等が実施可能な施設整備

大規模な大会等を誘致するには、開催可能な規格を有する施設の環境整備が必須となります。本市の市民野球場は硬式野球が実施できる規格となっておらず、大会開催ができないことから、女子野球選手の使用に配慮した市民球場の新設の検討を進めます。また、大野城総合公園での大規模大会は、駐車場の不足が課題となっていることから、市民球場と併せて駐車場の増設の検討を進めます。そのほか、本市のスポーツ施設は老朽化が進み、改修が必要な施設も多いことから、中長期改修計画に基づき、適切に施設の改修を進めます。

②他自治体との共同開催の検討

大規模スポーツ大会の開催に当たっては、開催が可能な施設が必要ですが、本市施設だけでは十分な対応ができない状況です。本市のみでの単独開催は困難な状況であるため、近隣の他自治体と連携することで、開催可能な大会等について調査・研究していきます。

【施策 4-2 スポーツを通じた魅力発信・観光振興】

本市において開催されるスポーツ大会及び本市にゆかりのあるアスリート、本市の豊かな地域資源など、様々なスポーツに関連する地域資源を活用し、本市の魅力を発信するとともに観光振興への取組を実施していきます。

❖目標

目標指標	前回 目標値	現状値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 10 年度)	目標 設定
スポーツ大会等を通じて 他分野と連携した事業件数	—	7件	10件	Ⅲ

❖具体的な取組

①スポーツと他分野を連携させた大会の実施

スポーツと地域、経済、文化、娯楽などの他分野との連携により、更なる相乗効果を生み出す可能性があることから、関係部署や企業等と連携し、他分野とスポーツを連携させた事業等の実施に向けて、検討を進めます。

②ターゲット層を意識した情報発信

SNS 等(LINE、X、YouTube 等)の情報発信ツールを最大限活用し、トップアスリートを活用した動画配信やスポーツ大会等の情報を、他分野に興味がある人達にも届くよう工夫することで、スポーツに興味がない人や市内外の方々にもスポーツを通じた本市の魅力が伝わるよう検討を進めます。

【施策 4-3 スポーツを通じた国際的視点の拡大】

今後、開催される国際大会を契機として大会の機運醸成を図ることのみならず、学校や関係団体などと連携し、学校教育やスポーツ行政と組み合わせてスポーツを通じた国際的視点を拡大する事業を実施していくよう努めます。

❖目標

目標指標	前回 目標値	現状値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 10 年度)	目標 設定
外国籍市民意識調査における スポーツ大会などの地域行事 への参加人数	—	23人	30人	Ⅲ

❖具体的な取組

①国際大会における視点を活かしたスポーツ教室等

前計画中に、ラグビーワールドカップ 2019 や東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会などの国際大会が開催され、そのような大会を契機に日本国内で、国際的なスポーツイベントに対する関心が高まりました。日本国内で開催される国際大会を、またとない機会と捉え、様々なスポーツ種目において国際大会の視点を活かしたトップアスリートによるスポーツ教室の実施を検討します。

②国際的視点を活かした地域・学校連携事業

近隣都市で開催される国際大会を契機に、海外から来場する選手との交流や多文化共生などを体感するために、積極的に強化合宿等の受け入れタウンとして学校や地域と連携して体制を整えます。受入れ可能となった際には、異文化交流や芸術活動など様々な角度で交流を深め、学校教育やスポーツ行政とを組み合わせた事業を展開します。

③外国籍の市民に対するスポーツ大会などの参加促進

外国籍の市民に対し、関係課と連携し、スポーツ大会などの参加を促進する取組を実施していきます。

【施策 4-4 スポーツを活用した地域振興】

スポーツを通じた交流によって生まれる一体感は、地区コミュニティの形成に寄与し、地域全体の活性化にもつながります。地域の様々な団体と連携し、地区コミュニティによるスポーツの推進をより一層進めるとともに、年齢や性別、障がいの有無に関わらず、全ての市民がそれぞれのライフステージに応じて継続的にスポーツを行い、世代を超えて交流できる場として、市民へのより一層の周知と参加促進を図ります。また、市民のスポーツ活動が地域での活動やボランティアに発展し、地域課題の解決及び次の世代を担う人材育成につながることで、地域活性化を図ります。

❖目標

目標指標	前回 目標値	現状値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 10 年度)	目標 設定
総合型地域スポーツクラブ の参加者数	—	531 人	600 人	Ⅲ

❖具体的な取組

①総合型地域スポーツクラブの支援・充実

総合型地域スポーツクラブが提供するスポーツ教室の内容について、より多くの人々が幅広い選択肢の中から自分に合ったスポーツ教室を選択できるように、教室参加者の意見を取り入れながら、多種多様な種目を検討するとともに、参加者が教室運営に携わるような仕組みを調査研究します。また、市内全域でスポーツ教室を開催できるように、各地区コミュニティセンターの

ほか、総合公園(まどかパーク)や学校施設、公民館などでの開催について検討します。

②地域活性化プログラムの活用

福岡県が市町村に対して進めているスポーツを活用した地域活性化を図る目的であるスポーツ関係者を対象とした研修会等により、国内外の最新情報を提供する等、新たな事業の創出や取組を継続的に支援するとともに、本市の課題に適したプログラムの企画立案を支援する取組の活用を検討します。

【施策 4-5 eスポーツを活用した地域の活性化】

e スポーツについては、国計画において、『IOC における指針等の国内外の動向を踏まえながら、引き続きスポーツ庁として「バーチャル」と「スポーツ」との関わり(いわゆる「e スポーツ」の捉え方を含む。)について検討していく必要がある』と示されているところです。

本市における e スポーツは、スポーツ分野の競技を中心として取り組むことを前提とします。e スポーツ競技を通じて、誰もが体験できるスポーツ推進を図っていくことや実運動へ誘導すること、地域拠点施設等での交流を通じたイベント実施などを検討し、e スポーツを通じた地域活性化につなげていきます。

❖目標

目標指標	前回 目標値	現状値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 10 年度)	目標 設定
eスポーツイベントの実施件数	—	0 件	10 件	Ⅲ

❖具体的な取組

①公民館等で実施する e スポーツ事業

e スポーツは、障がいの有無やこどもから高齢者まで、年齢を問わず誰もが体験できるスポーツとして、様々な可能性を秘めています。本市においても、地域の拠点施設である公民館やコミュニティセンターにおいて、こどもの居場所や高齢者の集いの場としても活用が図られています。これらの拠点施設において e スポーツ事業を実施することで、こどもと高齢者との交流の場の創出につながります。今後はそれぞれの関係部署と連携し、事業実施に向け検討を進めていきます。

②e スポーツの環境整備

e スポーツは、インターネット環境を必要とする場合もあることから、ゲーム機器と併せ Wi-Fi 環境などの整備も必要となります。地域拠点施設における e スポーツ関連機器の整備について、施設所管課等と連携を図り、整備に向けて検討します。

③大規模大会の開催

e スポーツは、誘客の可能性を大いに秘めている分野であることから、小規模事業により認知度が向上された暁には、大規模大会の開催も視野に入れ、施策を展開していくこととします。

大規模大会の実施に当たっては、地域や地元企業等とも連携し、地域経済や活性化に結びつくよう検討します。

第5章 計画の推進体制

1 関係機関等との協力・連携

本計画を推進するにあたっては、市教育委員会及び市の関係各課のほか、スポーツ協会をはじめとした市内のスポーツ関係団体が、互いに連携・協力していく必要があります。

また、スポーツの発展には民間企業との連携が必須であるため、必要に応じて官民連携を図り、スポーツのもたらす様々な効果を十分に認識し、互いに協力・連携し合いながら、本計画の取組を実施します。

2 計画の進行管理

本計画においては、施策の進捗状況や目標値の成果を確認するため、毎年取組内容等の進捗管理を行い、大野城市スポーツ推進審議会等で定期的に報告・検証を行います。

また、進捗管理の状況に応じては、市民ニーズを把握するため、市民アンケート等を実施し、取組内容の手法等を見直すなど、時代に即した手法で目標達成をめざし取り組みます。

資料編

資料1 用語解説

【あ行】

●アーバンスポーツ（都市型スポーツ）

都市環境を活用して楽しむスポーツや身体活動を指し、主に都市部における公園、広場、道路、公衆施設などのインフラを利用して行われるスポーツやアクティビティのこと。

●eスポーツ（イースポーツ）

エレクトロニック・スポーツの略。広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称とされている。

●SNS（エス・エヌ・エス）

ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略。人と人の繋がりをインターネットを通じて構築するサービスのことで、LINE、X、YouTube など様々な種類がある。

【か行】

●かたつむりカード

ウォーキングを推進するため、歩いた距離に応じてカードのメモリを塗りつぶし、運動した実績を記録するカードのこと。すこやか交流プラザやコミュニティセンターで配布している。

●健康運動指導士

スポーツクラブや保健所・保健センター、病院・介護施設などにおいて、人々の健康を維持・改善するために、安全かつ適切な運動プログラムを提案・指導する専門家のこと。

●健康寿命

日常的・継続的な医療・介護に依存しないで、自分の心身で生命維持し、自立した生活ができる生存期間のこと。

【さ行】

●シビックプライド

「Civic（市民・都市に属する）」と「Pride（自尊心・誇り）」が融合した言葉で、地域や自治体に対する住民の誇りや愛着、そして地域社会に貢献しようとする意識のこと。

●社会体育

地域や職場、家庭などにおけるスポーツ活動で、学校体育以外の体育の総称。

●女子野球タウン

全日本女子野球連盟が2020年9月にスタートした女子野球をシティプロモーションとして活用し、地域活性化をめざす自治体を「女子野球タウン」として認定し、連盟とともに女子野球を通じて自治体を盛り上げていくことを目的とした事業のこと。

●スポーツ・レクリエーションリーダーバンク

市民のスポーツに対する多様なニーズに対応するため、適切な指導を行うことができるスポーツ等の指導者を登録し、その登録者を市民へ指導者として派遣する制度。

●スロージョギング

歩く速度か、むしろそれより遅いペースで、無理をせず自分に合った適切な運動の強さで行う、最も効果の上がる有酸素運動のこと。誰でもラクに楽しく始めることができ、継続しやすいことが特徴。

●総合型地域スポーツクラブ

スポーツをしていない人がスポーツを始めるきっかけとなるように、平成7年度から国が推奨する地域スポーツの振興を図るための施策。誰もがいつでも気軽にスポーツに親しめる環境を地域につくりだすことで、子どもから高齢者まで自分のレベルに合ったスポーツを選択でき、生涯を通じてスポーツが身近な存在となる環境を整備するもの。

【た行】

●東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

令和3年7月23日から東京で開催された世界のスポーツの祭典。4年に1度開催され、平成25年の国際オリンピック委員会総会で東京開催が決定した。日本全国で同大会の気運醸成を図る取り組みが自治体・企業・学校・地域などで行われた。

●デジタルサイネージ

ディスプレイなどの電子表示機器を用いて、屋外や店頭、公共空間などで情報を発信するシステムの総称。

【な行】

●ニュースポーツ

生涯スポーツとして、いつでも誰でも気軽にできるスポーツや、考案されたのが比較的新しいスポーツ、又は起源は古いが普及されたのが比較的新しいスポーツのこと。（ペタンク・ユニカール・アジャタなど）

【は行】

●ふくおか健康ポイントアプリ

県民一人ひとりが日々の運動や食生活の改善、健（検）診の受診などに、積極的に、楽しみながら、継続的に取り組めるようにする福岡県が運用している健康アプリ。

●福岡県民スポーツ大会

スポーツに参加する機会を県民に広く提供することを目的に、夏季大会・秋季大会・冬季大会が毎年開催される県内最大級のスポーツイベント。

●ボッチャ

ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目となっている。ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競うスポーツ。

【ら行】

●ラグビーワールドカップ 2019

令和元年9月に日本で開催された第9回ラグビーの世界大会。日本での開催はアジアでは初めてで、全20カ国が参加し、のべ170万人の観客を動員した。

●レク式体力チェック

新潟県レクリエーション協会で考案された、性別や年齢を問わず、「いつでも・だれでも・簡単に」実施することが出来る体力テストのこと。着座体前屈や棒バランス、タオル絞り、ボトル巻上げなどの測定種目がある。

●ロコモティブシンドローム

運動器の障がいのために移動機能の低下をきたした状態で、筋肉、骨、関節、軟骨、椎間板といった運動器に障がいが起こって立つ・歩く機能が低下し、やがては日常生活や社会生活に支障をきたして要介護となるリスクが高くなる。

運動・スポーツに関する アンケート調査報告書 (18歳以上)

I 調査概要

1. 調査目的

本市民のスポーツの実態及びスポーツ推進に係る市民ニーズを把握することで、大野城市スポーツ推進計画（後期計画）の改定に必要な基礎資料を得ることを目的としたもの。

2. 調査対象

市内に居住する18歳以上（令和6年1月1日現在）の男女1800人を、年齢層及び居住行政区が均等になるように住民基本台帳から無作為抽出により選定

3. 調査方法

郵送調査（郵送配布・郵送回収）、WEBアンケート

4. 調査期間

令和6年2月15日～令和6年3月11日

5. 回収状況

郵送での回答425名（23.6%）

※ 有効標本回収数 861サンプルであるが、前回調査との比較のため郵送での回答数を本報告書の対象とした。

6. 調査結果の注意事項

- ・ 無回答は割合に含めない
- ・ 端数処理の関係で合計100%にならない場合がある
- ・ 端数処理は小数点第2位を四捨五入
- ・ グラフで1%未満は表示しない

Ⅱ 調査結果

1. 基本項目

(1) 性別・年齢別

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
男性	9	34.6%	13	23.2%	16	31.4%	24	33.8%	31	35.6%	34	30.6%	1	4.3%	128	30.1%
女性	14	53.8%	33	58.9%	23	45.1%	30	42.3%	28	32.2%	39	35.1%	3	13.0%	170	40.0%
無回答	3	11.5%	10	17.9%	12	23.5%	17	23.9%	28	32.2%	38	34.2%	19	82.6%	127	29.9%
合計	26		56		51		71		87		111		23		425	

(2) 居住地区別

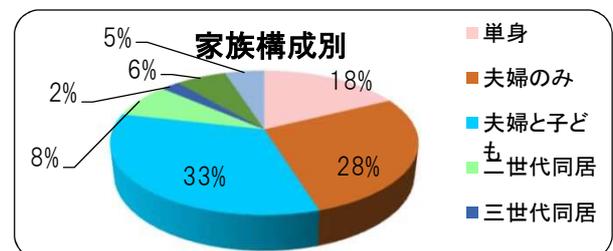
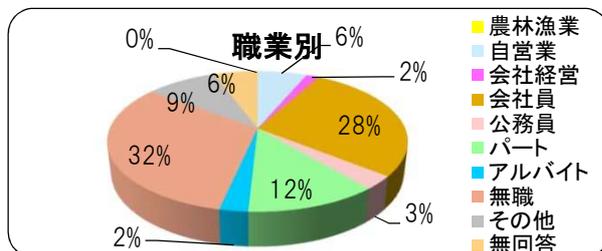
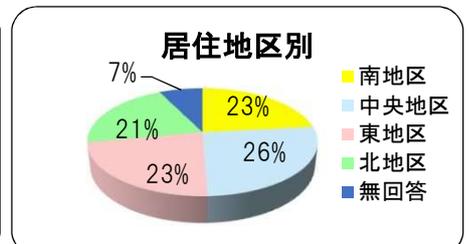
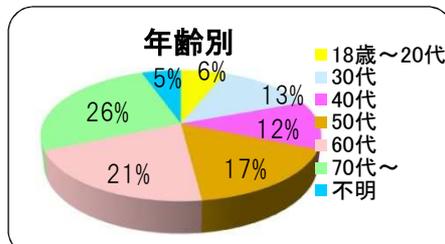
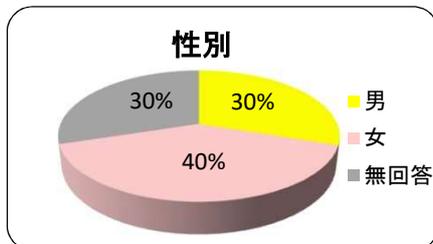
	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
南地区	6	23.1%	11	19.6%	10	19.6%	13	18.3%	23	26.4%	36	32.4%	0	0.0%	99	23.3%
中央地区	9	34.6%	11	19.6%	14	27.5%	22	31.0%	24	27.6%	26	23.4%	5	21.7%	111	26.1%
東地区	2	7.7%	13	23.2%	10	19.6%	16	22.5%	25	28.7%	26	23.4%	4	17.4%	96	22.6%
北地区	5	19.2%	16	28.6%	16	31.4%	16	22.5%	12	13.8%	20	18.0%	3	13.0%	88	20.7%
無回答	4	15.4%	5	8.9%	1	2.0%	4	5.6%	3	3.4%	3	2.7%	11	47.8%	31	7.3%
合計	26		56		51		71		87		111		23		425	

(3) 職業別

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
農林漁業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
自営業	0	0.0%	6	10.7%	5	9.8%	4	5.6%	7	8.0%	5	4.5%	0	0.0%	27	6.4%
会社経営	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	2	2.8%	4	4.6%	0	0.0%	0	0.0%	7	1.6%
会社員	15	57.7%	25	44.6%	26	51.0%	35	49.3%	13	14.9%	3	2.7%	1	4.3%	118	27.8%
公務員	0	0.0%	3	5.4%	1	2.0%	5	7.0%	3	3.4%	1	0.9%	0	0.0%	13	3.1%
パート	0	0.0%	7	12.5%	8	15.7%	17	23.9%	11	12.6%	8	7.2%	0	0.0%	51	12.0%
アルバイト	2	7.7%	1	1.8%	1	2.0%	0	0.0%	3	3.4%	4	3.6%	0	0.0%	11	2.6%
無職	0	0.0%	9	16.1%	4	7.8%	3	4.2%	28	32.2%	83	74.8%	8	34.8%	135	31.8%
その他	8	30.8%	2	3.6%	3	5.9%	4	5.6%	17	19.5%	5	4.5%	0	0.0%	39	9.2%
無回答	1	3.8%	3	5.4%	2	3.9%	1	1.4%	1	1.1%	2	1.8%	14	60.9%	24	5.6%
合計	26		56		51		71		87		111		23		425	

(4) 家族構成別

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
単身	5	19.2%	7	12.5%	6	11.8%	12	16.9%	16	18.4%	29	26.1%	0	0.0%	75	17.6%
夫婦のみ	4	15.4%	2	3.6%	5	9.8%	17	23.9%	38	43.7%	46	41.4%	5	21.7%	117	27.5%
夫婦と子ども	6	23.1%	40	71.4%	22	43.1%	28	39.4%	22	25.3%	22	19.8%	2	8.7%	142	33.4%
二世帯同居	3	11.5%	2	3.6%	6	11.8%	8	11.3%	6	6.9%	7	6.3%	1	4.3%	33	7.8%
三世帯同居	0	0.0%	0	0.0%	2	3.9%	2	2.8%	3	3.4%	2	1.8%	1	4.3%	10	2.4%
その他	7	26.9%	2	3.6%	8	15.7%	3	4.2%	1	1.1%	5	4.5%	1	4.3%	27	6.4%
無回答	1	3.8%	3	5.4%	2	3.9%	1	1.4%	1	1.1%	0	0.0%	13	56.5%	21	4.9%
合計	26		56		51		71		87		111		23		425	



2. 運動やスポーツの実施状況

●問1 運動不足であると感じているか（年代別）

日頃、運動不足と感じている人は「大いに感じる」「ある程度感じる」と回答した人で、全体の71.5%（前回77.2%）となっている。世代別でみると、30代が85.7%と最も高く、60代の78.2%、50代の77.5%となっている。

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
大いに感じる	7	26.9%	28	50.0%	24	47.1%	36	50.7%	31	35.6%	32	28.8%	5	21.7%	163	38.4%
ある程度感じる	7	26.9%	20	35.7%	14	27.5%	19	26.8%	37	42.5%	36	32.4%	8	34.8%	141	33.2%
あまり感じない	6	23.1%	3	5.4%	6	11.8%	8	11.3%	13	14.9%	30	27.0%	4	17.4%	70	16.5%
ほとんど感じない	3	11.5%	4	7.1%	4	7.8%	5	7.0%	3	3.4%	9	8.1%	1	4.3%	29	6.8%
無回答	3	11.5%	1	1.8%	3	5.9%	3	4.2%	3	3.4%	4	3.6%	5	21.7%	22	5.2%
合計	26		56		51		71		87		111		23		425	

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			合計		
	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
大いに感じる	39.0%	26.9%	-12.1%	48.3%	50.0%	1.7%	54.0%	47.1%	-6.9%	49.1%	50.7%	1.6%	34.4%	35.6%	1.2%	18.4%	28.8%	10.4%	39.2%	38.4%	-0.8%
ある程度感じる	42.9%	26.9%	-16.0%	34.2%	35.7%	1.5%	26.6%	27.5%	0.9%	33.6%	26.8%	-6.8%	39.5%	42.5%	3.0%	44.9%	32.4%	-12.5%	38.0%	33.2%	-4.8%
あまり感じない	14.3%	23.1%	8.8%	10.8%	5.4%	-5.4%	12.9%	11.8%	-1.1%	8.6%	11.3%	2.7%	20.4%	14.9%	-5.5%	27.2%	27.0%	-0.2%	16.0%	16.5%	0.5%
ほとんど感じない	3.9%	11.5%	7.6%	6.7%	7.1%	0.4%	6.5%	7.8%	1.3%	8.6%	7.0%	-1.6%	5.7%	3.4%	-2.3%	9.5%	8.1%	-1.4%	6.9%	6.8%	-0.1%

●問2 この1年間でスポーツを行ったか

成人の週1回以上のスポーツ実施率は40.0%であり、5年前に行った調査（39.8%）に比べ0.2%増加している。一方で、この1年間に「全くスポーツをしなかった」と回答した人は42.8%と、5年前（42.6%）に比べ増加している。また年代別でみると、30代の若い世代で半数が全くスポーツをしていないと回答しており、今後は若い世代である働き盛り・子育て世代を対象としたスポーツ環境の充実が求められている。

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
週3回以上	7	26.9%	8	14.3%	11	21.6%	10	14.1%	22	25.3%	35	31.5%	4	17.4%	97	22.8%
週1～2回	5	19.2%	7	12.5%	4	7.8%	15	21.1%	15	17.2%	20	18.0%	7	30.4%	73	17.2%
月1～3回	2	7.7%	5	8.9%	7	13.7%	9	12.7%	9	10.3%	6	5.4%	0	0.0%	38	8.9%
3月に1～2回	2	7.7%	5	8.9%	1	2.0%	3	4.2%	4	4.6%	1	0.9%	1	4.3%	17	4.0%
年1～3回	3	11.5%	3	5.4%	6	11.8%	4	5.6%	2	2.3%	0	0.0%	0	0.0%	18	4.2%
全くしなかった	7	26.9%	28	50.0%	22	43.1%	30	42.3%	35	40.2%	49	44.1%	11	47.8%	182	42.8%
合計	26		56		51		71		87		111		23		425	

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			合計		
	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
週3回以上	16.7%	26.9%	10.2%	14.6%	14.3%	-0.3%	14.4%	21.6%	7.2%	13.4%	14.1%	0.7%	21.3%	25.3%	4.0%	33.7%	31.5%	-2.2%	20.2%	22.8%	2.6%
週1～2回	19.2%	19.2%	0.0%	15.4%	12.5%	-2.9%	17.3%	7.8%	-9.5%	21.0%	21.1%	0.1%	18.8%	17.2%	-1.6%	22.7%	18.0%	-4.7%	19.6%	17.2%	-2.4%
月1～3回	15.4%	7.7%	-7.7%	11.4%	8.9%	-2.5%	10.1%	13.7%	3.6%	12.6%	12.7%	0.1%	10.6%	10.3%	-0.3%	4.9%	5.4%	0.5%	9.9%	8.9%	-1.0%
3月に1～2回	7.7%	7.7%	0.0%	2.4%	8.9%	6.5%	7.2%	2.0%	-5.2%	4.2%	4.2%	0.0%	1.9%	4.6%	2.7%	0.6%	0.9%	0.3%	3.6%	4.0%	0.4%
年1～3回	3.8%	11.5%	7.7%	6.5%	5.4%	-1.1%	8.6%	11.8%	3.2%	2.5%	5.6%	3.1%	0.6%	2.3%	1.7%	1.2%	0.0%	-1.2%	4.1%	4.2%	0.1%
全くしなかった	37.2%	26.9%	-10.3%	49.6%	50.0%	0.4%	42.4%	43.1%	0.7%	46.2%	42.3%	-3.9%	46.9%	40.2%	-6.7%	36.8%	44.1%	7.3%	42.6%	42.8%	0.2%

●問2-1 この1年間に行ったスポーツの種目（複数回答）

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
ウォーキング・散歩	4	12.1%	9	19.6%	9	20.9%	16	22.5%	26	31.0%	28	30.4%	6	31.6%	98	25.3%
ジョギング・ランニング	5	15.2%	5	10.9%	6	14.0%	10	14.1%	10	11.9%	14	15.2%	3	15.8%	53	13.7%
ゴルフ	1	3.0%	0	0.0%	2	4.7%	7	9.9%	10	11.9%	1	1.1%	3	15.8%	24	6.2%
スポーツジム	3	9.1%	4	8.7%	0	0.0%	6	8.5%	3	3.6%	3	3.3%	1	5.3%	20	5.2%
筋力トレーニング	2	6.1%	5	10.9%	8	18.6%	4	5.6%	5	6.0%	2	2.2%	1	5.3%	27	7.0%
水泳	1	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	5.6%	1	1.2%	4	4.3%	2	10.5%	12	3.1%
ヨガ	1	3.0%	2	4.3%	3	7.0%	1	1.4%	4	4.8%	1	1.1%	0	0.0%	12	3.1%
ストレッチ	1	3.0%	0	0.0%	1	2.3%	3	4.2%	2	2.4%	4	4.3%	1	5.3%	12	3.1%
登山	0	0.0%	1	2.2%	1	2.3%	1	1.4%	4	4.8%	1	1.1%	0	0.0%	8	2.1%
体操	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.2%	5	5.4%	0	0.0%	6	1.5%
その他	15	45.5%	20	43.5%	13	30.2%	19	26.8%	18	21.4%	29	31.5%	2	10.5%	116	29.9%
合計	33		46		43		71		84		92		19		388	

※その他：バドミントン、バスケットボール、テニス、ダンス、卓球、サイクリング、野球、ソフトボール、サッカー、バスケットボール、グラウンドゴルフ等

●問3 スポーツを行った理由（複数回答）

スポーツを行った理由としては「健康・体づくり」が最も多く、次いで「運動不足解消」となっており、共に全体の20%以上を占める結果となった。特に「健康・体づくり」については、70代以上の高齢者で30%以上を占めており、スポーツを通じて病気・介護予防を図っている高齢者が多い現状が伺える。健康寿命を増進し、一人でも多く市民の生活にスポーツが定着するような取り組みが必要である。

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
健康・体づくり	8	19.5%	21	26.9%	19	25.3%	34	29.8%	41	29.1%	51	35.4%	11	32.4%	185	29.1%
楽しみや気晴らし	8	19.5%	14	17.9%	11	14.7%	21	18.4%	28	19.9%	25	17.4%	6	17.6%	113	17.8%
運動不足解消	6	14.6%	16	20.5%	17	22.7%	27	23.7%	38	27.0%	40	27.8%	9	26.5%	153	24.1%
友人や仲間との交流	8	19.5%	4	5.1%	8	10.7%	7	6.1%	12	8.5%	13	9.0%	2	5.9%	54	8.5%
家族との触れ合い	0	0.0%	9	11.5%	5	6.7%	4	3.5%	3	2.1%	2	1.4%	1	2.9%	24	3.8%
ダイエット	4	9.8%	11	14.1%	11	14.7%	12	10.5%	10	7.1%	9	6.3%	4	11.8%	61	9.6%
仕事のつきあい	3	7.3%	2	2.6%	2	2.7%	3	2.6%	4	2.8%	1	0.7%	1	2.9%	16	2.5%
地域の行事	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.6%	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.6%
試合・技術向上	4	9.8%	1	1.3%	2	2.7%	3	2.6%	4	2.8%	3	2.1%	0	0.0%	17	2.7%
その他	2	4.9%	0	0.0%	2	2.7%	0	0.0%	4	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	8	1.3%
合計	41		78		75		114		141		144		34		635	

※その他：自己タイムの更新が楽しみ、学校行事、犬の散歩。

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			合計		
	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
健康・体づくり	22.1%	19.5%	-2.6%	17.9%	26.9%	9.0%	22.4%	25.3%	2.9%	27.5%	29.8%	2.3%	31.4%	29.1%	-2.3%	31.0%	35.4%	4.4%	26.4%	29.1%	2.7%
楽しみや気晴らし	21.3%	19.5%	-1.8%	19.6%	17.9%	-1.7%	19.0%	14.7%	-4.3%	17.4%	18.4%	1.0%	16.7%	19.9%	3.2%	14.9%	17.4%	2.5%	18.0%	17.8%	-0.2%
運動不足解消	19.1%	14.6%	-4.5%	21.2%	20.5%	-0.7%	21.4%	22.7%	1.3%	20.4%	23.7%	3.3%	24.5%	27.0%	2.5%	24.5%	27.8%	3.3%	22.1%	24.1%	2.0%
友人や仲間との交流	10.3%	19.5%	9.2%	11.7%	5.1%	-6.6%	8.6%	10.7%	2.1%	10.8%	6.1%	-4.7%	11.3%	8.5%	-2.8%	14.6%	9.0%	-5.6%	11.4%	8.5%	-2.9%
家族との触れ合い	4.4%	0.0%	-4.4%	7.8%	11.5%	3.7%	5.2%	6.7%	1.5%	0.6%	3.5%	2.9%	1.0%	2.1%	1.1%	1.9%	1.4%	-0.5%	3.5%	3.8%	0.3%
ダイエット	13.2%	9.8%	-3.4%	14.5%	14.1%	-0.4%	12.9%	14.7%	1.8%	15.6%	10.5%	-5.1%	7.8%	7.1%	-0.7%	7.3%	6.3%	-1.0%	11.1%	9.6%	-1.5%
仕事のつきあい	4.4%	7.3%	2.9%	2.2%	2.6%	0.4%	4.3%	2.7%	-1.6%	5.4%	2.6%	-2.8%	2.5%	2.8%	0.3%	0.0%	0.7%	0.7%	2.7%	2.5%	-0.2%
地域の行事	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	-1.1%	1.0%	0.0%	-1.0%	0.0%	2.6%	2.6%	1.0%	0.7%	-0.3%	3.1%	0.0%	-3.1%	1.2%	0.6%	-0.6%
試合・技術向上	3.7%	9.8%	6.1%	3.9%	1.3%	-2.6%	4.3%	2.7%	-1.6%	1.8%	2.6%	0.8%	3.4%	2.8%	-0.6%	2.7%	2.1%	-0.6%	3.1%	2.7%	-0.4%

●問4 スポーツをしなかった理由（複数回答）

スポーツをしなかった理由で最も多かったのが「仕事や家事・育児等」で、全体の約30%近くを占める結果であった。年代別で見ると、60代以下の世代で最も多い理由となっており、特に若い世代ほど「仕事や家事・育児等」の割合が高くなっているのがわかる。若い世代のスポーツに親しむ機会をいかに提供していくかが今後の課題である。

	18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			不明			合計		
嫌い、興味がない	1	12.5%		6	12.8%		4	11.8%		4	7.7%		6	8.8%		5	5.7%		2	18.2%		28	9.1%	
仕事や家事・育児等で忙しい	3	37.5%		14	29.8%		14	41.2%		19	36.5%		18	26.5%		9	10.3%		3	27.3%		80	26.1%	
一緒にする仲間がない	1	12.5%		3	6.4%		1	2.9%		4	7.7%		4	5.9%		6	6.9%		1	9.1%		20	6.5%	
病気・けが、高齢等	1	12.5%		1	2.1%		1	2.9%		4	7.7%		12	17.6%		23	26.4%		1	9.1%		43	14.0%	
お金がかかる	0	0.0%		3	6.4%		3	8.8%		4	7.7%		2	2.9%		4	4.6%		0	0.0%		16	5.2%	
近くに場所や施設がない	0	0.0%		1	2.1%		0	0.0%		2	3.8%		3	4.4%		5	5.7%		0	0.0%		11	3.6%	
家族で楽しめる場所や施設がない	0	0.0%		2	4.3%		2	5.9%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		4	1.3%	
はじめるきっかけがない	2	25.0%		4	8.5%		4	11.8%		6	11.5%		7	10.3%		6	6.9%		3	27.3%		32	10.4%	
指導者がいない	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		1	1.5%		2	2.3%		0	0.0%		3	1.0%	
教室や講座がない	0	0.0%		1	2.1%		0	0.0%		2	3.8%		3	4.4%		3	3.4%		0	0.0%		9	2.9%	
情報がない	0	0.0%		2	4.3%		1	2.9%		0	0.0%		1	1.5%		5	5.7%		0	0.0%		9	2.9%	
施設の開館時間が合わない	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		1	1.5%		1	1.1%		0	0.0%		2	0.7%	
参加したいスポーツイベントがない	0	0.0%		5	10.6%		1	2.9%		1	1.9%		0	0.0%		4	4.6%		0	0.0%		11	3.6%	
コロナによる日常生活の変化	0	0.0%		3	6.4%		1	2.9%		5	9.6%		8	11.8%		7	8.0%		1	9.1%		25	8.1%	
その他	0	0.0%		2	4.3%		2	5.9%		1	1.9%		2	2.9%		7	8.0%		0	0.0%		14	4.6%	
合計	8			47			34			52			68			87			11			307		

※その他：別の趣味があるため。運動する発注がなかった。疲れるから。

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			合計		
	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
嫌い、興味がない	7.1%	12.5%	5.4%	10.9%	12.8%	1.9%	9.6%	11.8%	2.2%	11.3%	7.7%	-3.6%	9.6%	8.8%	-0.8%	10.6%	5.7%	-4.9%	10.1%	9.1%	-1.0%
仕事や家事・育児等で忙しい	41.1%	37.5%	-3.6%	37.2%	29.8%	-7.4%	35.1%	41.2%	6.1%	29.2%	36.5%	7.3%	24.0%	26.5%	2.5%	20.2%	10.3%	-9.9%	30.3%	26.1%	-4.2%
一緒にする仲間がない	10.7%	12.5%	1.8%	9.3%	6.4%	-2.9%	6.1%	2.9%	-3.2%	7.5%	7.7%	0.2%	7.2%	5.9%	-1.3%	3.2%	6.9%	3.7%	7.3%	6.5%	-0.8%
病気・けが・高齢等	1.8%	12.5%	10.7%	0.8%	2.1%	1.3%	4.4%	2.9%	-1.5%	11.3%	7.7%	-3.6%	24.0%	17.6%	-6.4%	31.9%	26.4%	-5.5%	12.5%	14.0%	1.5%
お金がかかる	12.5%	0.0%	-12.5%	10.1%	6.4%	-3.7%	9.6%	8.8%	-0.8%	6.6%	7.7%	1.1%	5.6%	2.9%	-2.7%	7.4%	4.6%	-2.8%	8.5%	5.2%	-3.3%
近くに場所や施設がない	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	2.1%	0.5%	5.3%	0.0%	-5.3%	3.8%	3.8%	0.0%	4.0%	4.4%	0.4%	2.1%	5.7%	3.6%	3.1%	3.6%	0.5%
家族で楽しめる場所や施設がない	1.8%	0.0%	-1.8%	2.3%	4.3%	2.0%	2.6%	5.9%	3.3%	2.8%	0.0%	-2.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	1.3%	-0.3%
はじめるきっかけがない	17.9%	25.0%	7.1%	12.4%	8.5%	-3.9%	15.8%	11.8%	-4.0%	14.2%	11.5%	-2.7%	14.4%	10.3%	-4.1%	10.6%	6.9%	-3.7%	14.0%	10.4%	-3.6%
指導者がいない	1.8%	0.0%	-1.8%	2.3%	0.0%	-2.3%	0.9%	0.0%	-0.9%	0.9%	0.0%	-0.9%	0.8%	1.5%	0.7%	0.0%	2.3%	2.3%	1.0%	1.0%	0.0%
教室や講座がない	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	2.1%	0.5%	1.8%	0.0%	-1.8%	0.0%	3.8%	3.8%	2.4%	4.4%	2.0%	2.1%	3.4%	1.3%	1.6%	2.9%	1.3%
情報がない	3.6%	0.0%	-3.6%	3.1%	4.3%	1.2%	2.6%	2.9%	0.3%	2.8%	0.0%	-2.8%	1.6%	1.5%	-0.1%	3.2%	5.7%	2.5%	2.7%	2.9%	0.2%
施設の開館時間が合わない	0.0%	0.0%	0.0%	3.9%	0.0%	-3.9%	2.6%	0.0%	-2.6%	3.8%	0.0%	-3.8%	1.6%	1.5%	-0.1%	0.0%	1.1%	1.1%	2.4%	0.7%	-1.7%
参加したいスポーツイベントがない	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	10.6%	8.3%	3.5%	2.9%	-0.6%	3.8%	1.9%	-1.9%	1.6%	0.0%	-1.6%	1.1%	4.6%	3.5%	2.2%	3.6%	1.4%
コロナによる日常生活の変化	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.4%	6.4%	0.0%	2.9%	2.9%	0.0%	9.6%	9.6%	0.0%	11.8%	11.8%	0.0%	8.0%	8.0%	0.0%	8.1%	8.1%

●問5 今後やってみたい（続けたい）スポーツがあるか

「今後やってみたいスポーツがある」と回答した人は63.5%であり、およそ3人に2人は何らかのスポーツをしたいと考えているようである。また、やってみたいスポーツの種目では、ウォーキング・ジョギング・ランニング・水泳・ヨガなど、比較的簡単にできる種目が多かった。スポーツをしたいと思っっているが、実際はスポーツをする時間が取れないなどの理由により、スポーツができていない傾向が伺える。

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
ある	18	69.2%	39	69.6%	39	76.5%	48	67.6%	59	67.8%	55	49.5%	12	52.2%	270	63.5%
ない	8	30.8%	15	26.8%	10	19.6%	19	26.8%	27	31.0%	47	42.3%	6	26.1%	132	31.1%
無回答	0	0.0%	2	3.6%	2	3.9%	4	5.6%	1	1.1%	9	8.1%	5	21.7%	23	5.4%
合計	26		56		51		71		87		111		23		425	

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			合計		
	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
ある	77.3%	69.2%	-8.1%	75.4%	69.6%	-5.8%	72.8%	76.5%	3.7%	70.2%	67.6%	-2.6%	65.1%	67.8%	2.7%	57.7%	49.5%	-8.2%	68.4%	63.5%	-4.9%
ない	22.7%	30.8%	8.1%	24.6%	26.8%	2.2%	27.2%	19.6%	-7.6%	29.8%	26.8%	-3.0%	34.9%	31.0%	-3.9%	42.3%	42.3%	0.0%	31.6%	31.1%	-0.5%

●問5-1 今後やってみたい（続けたい）スポーツの種目（複数回答）

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
ウォーキング・散歩	1	3.2%	8	11.4%	5	7.1%	15	17.4%	18	18.8%	14	16.1%	4	18.2%	65	14.1%
ジョギング・ランニング	2	6.5%	8	11.4%	7	10.0%	11	12.8%	6	6.3%	17	19.5%	4	18.2%	55	11.9%
ヨガ	1	3.2%	10	14.3%	10	14.3%	6	7.0%	10	10.4%	4	4.6%	2	9.1%	43	9.3%
テニス	3	9.7%	9	12.9%	3	4.3%	5	5.8%	5	5.2%	2	2.3%	2	9.1%	29	6.3%
水泳	1	3.2%	2	2.9%	3	4.3%	6	7.0%	7	7.3%	7	8.0%	0	0.0%	26	5.6%
ゴルフ	2	6.5%	1	1.4%	3	4.3%	5	5.8%	9	9.4%	2	2.3%	3	13.6%	25	5.4%
卓球	4	12.9%	1	1.4%	3	4.3%	4	4.7%	1	1.0%	5	5.7%	1	4.5%	19	4.1%
スポーツジム	0	0.0%	1	1.4%	2	2.9%	5	5.8%	4	4.2%	6	6.9%	0	0.0%	18	3.9%
筋力トレーニング	2	6.5%	3	4.3%	4	5.7%	3	3.5%	4	4.2%	2	2.3%	0	0.0%	18	3.9%
ダンス	3	9.7%	2	2.9%	4	5.7%	3	3.5%	3	3.1%	1	1.1%	1	4.5%	17	3.7%
バドミントン	1	3.2%	3	4.3%	4	5.7%	0	0.0%	1	1.0%	2	2.3%	0	0.0%	11	2.4%
登山	0	0.0%	3	4.3%	3	4.3%	1	1.2%	3	3.1%	1	1.1%	0	0.0%	11	2.4%
その他	11	35.5%	19	27.1%	19	27.1%	22	25.6%	25	26.0%	24	27.6%	5	22.7%	125	27.1%
合計	31		70		70		86		96		87		22		462	

※その他：バレーボール、バスケットボール、野球、サッカー、グラウンドゴルフ、ボウリング
スキー・スノーボード、サイクリング、乗馬等

●問6 この1年間でどのようなスポーツイベントやスポーツ教室に参加したか（複数回答）

スポーツイベントやスポーツ教室への参加状況については、約80%の市民が何にも参加していない状況となっている。参加していると回答した人の多くは、各自が取り組んでいる競技種目大会が中心であり、市やスポーツ協会が主催しているスポーツイベントやスポーツ教室への参加は、ごく僅かという結果であった。今後はスポーツイベントやスポーツ教室に多くの市民が参加したくなるような工夫が必要である。

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
まどかスポーツ教室	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	1	1.4%	2	2.3%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.9%
いこいの森ロードレース	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.3%	1	0.2%
市民水泳大会	1	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	2	0.5%
県民スポーツ大会	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	2	1.8%	0	0.0%	3	0.7%
まどかリンピック（陸上大会）	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
まどかリンピック（綱引大会）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
MADOKAれくスポ祭	0	0.0%	1	1.8%	0	0.0%	1	1.4%	1	1.1%	3	2.7%	1	4.3%	7	1.6%
各種競技大会	1	3.8%	0	0.0%	3	5.9%	2	2.7%	1	1.1%	4	3.5%	0	0.0%	11	2.6%
その他	1	3.8%	3	5.4%	0	0.0%	4	5.5%	5	5.7%	5	4.4%	0	0.0%	18	4.2%
何も参加しなかった	23	88.5%	51	91.1%	43	84.3%	64	87.7%	77	88.5%	90	79.6%	15	65.2%	363	84.6%
無回答	0	0.0%	1	1.8%	3	5.9%	1	1.4%	0	0.0%	8	7.1%	6	26.1%	19	4.4%
合計	26		56		51		73		87		113		23		429	

その他：グラウンドゴルフ大会、区の運動会、職場のバレーボール大会、市民ゴルフ大会、福岡マラソン

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			合計		
	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
まどかスポーツ教室	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	2.0%	0.6%	2.5%	1.4%	-1.1%	1.2%	2.3%	1.1%	3.2%	0.0%	-3.2%	1.6%	0.9%	-0.7%
いこいの森ロードレース	2.6%	0.0%	-2.6%	0.8%	0.0%	-0.8%	2.9%	0.0%	-2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	-1.3%	1.1%	0.2%	-0.9%
市民水泳大会	0.0%	3.8%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	-0.6%	0.0%	0.9%	0.9%	0.1%	0.5%	0.4%
県民体育大会	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	-0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	1.1%	0.5%	0.0%	1.8%	1.8%	0.2%	0.7%	0.5%
まどかリンピック（陸上大会）	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	-0.8%	0.7%	2.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	-0.6%	0.4%	0.2%	-0.2%
まどかリンピック（綱引大会）	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	-0.8%	0.7%	0.0%	-0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	-0.6%	0.4%	0.0%	-0.4%
MADOKAれくスポ祭	0.0%	0.0%	0.0%	4.1%	1.8%	-2.3%	10.1%	0.0%	-10.1%	4.2%	1.4%	-2.8%	2.5%	1.1%	-1.4%	10.1%	2.7%	-7.4%	5.3%	1.6%	-3.7%
各種競技大会	0.0%	3.8%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	5.9%	0.0%	2.7%	2.7%	0.0%	1.1%	1.1%	0.0%	3.5%	3.5%	0.0%	2.6%	2.6%
その他	0.0%	3.8%	3.8%	0.0%	5.4%	5.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.5%	5.5%	0.0%	5.7%	5.7%	0.0%	4.4%	4.4%	0.0%	4.2%	4.2%
何も参加しなかった	87.2%	88.5%	1.3%	85.2%	91.1%	5.9%	77.0%	84.3%	7.3%	88.3%	87.7%	-0.6%	86.3%	88.5%	2.2%	67.1%	79.6%	12.5%	81.7%	84.6%	2.9%

●問7 新型コロナ感染症の発生前後の運動・スポーツの面での影響

屋内、単独での運動を行うようになったという意見も一部見られたが「特に影響はなかった」という意見が61.9%を占めた。しかし、「活動が自粛された」「運動を止めた」という意見も見られた。

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
屋内でスポーツを実施することが多くなった	2	7.7%	7	12.5%	3	5.9%	6	8.5%	11	12.6%	8	7.2%	2	8.7%	39	9.2%
活動が自粛された	3	11.5%	3	5.4%	6	11.8%	8	11.3%	6	6.9%	10	9.0%	1	4.3%	37	8.7%
運動を止めた	0	0.0%	4	7.1%	3	5.9%	5	7.0%	8	9.2%	11	9.9%	4	17.4%	35	8.2%
単独で運動するようになった	2	7.7%	3	5.4%	0	0.0%	1	1.4%	3	3.4%	6	5.4%	4	17.4%	19	4.5%
運動を意識的に行うようになった	1	3.8%	1	1.8%	2	3.9%	2	2.8%	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	7	1.6%
その他	0	0.0%	1	1.8%	2	3.9%	3	4.2%	1	1.1%	3	2.7%	0	0.0%	10	2.4%
特に影響はなかった	18	69.2%	35	62.5%	33	64.7%	45	63.4%	57	65.5%	65	58.6%	10	43.5%	263	61.9%
無回答	0	0.0%	2	3.6%	2	3.9%	1	1.4%	1	1.1%	7	6.3%	2	8.7%	15	3.5%
合計	26		56		51		71		87		111		23		425	

※その他：外に出ることに抵抗感がでて散歩が減った。

自宅でラジオ体操を義務付けるようにした。

閉鎖的な場所（ジムなど）に行くことを躊躇するようになった。

3. 部活動・スポーツクラブについて

●問8 学生時代に部活動やスポーツクラブ、スポーツ系サークルに加入していたか（複数回答）

小学校時代のスポーツクラブ加入状況は、若い世代になるにつれ加入率が上昇している。以前に比べ多種多様なスポーツクラブが存在し、子どもたちがスポーツをする選択の幅が広がってきたことが要因であると考えられる。成人に近づくにつれ、何もしなかった割合が増えている。子ども時代に出会ったスポーツを成人になっても続けたいと思うような支援が必要である。

		18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			不明			合計		
小学校	加入した	15	57.7%	29	51.8%	29	56.9%	34	47.9%	16	18.4%	8	7.2%	4	17.4%	135	31.8%								
	何もしなかった	10	38.5%	26	46.4%	22	43.1%	31	43.7%	55	63.2%	72	64.9%	9	39.1%	225	52.9%								
	無回答	1	3.8%	1	1.8%	0	0.0%	6	8.5%	16	18.4%	31	27.9%	10	43.5%	65	15.3%								
	合計	26	56	51	71	87	111	23	425																
中学校	運動部	15	57.7%	38	67.9%	35	68.6%	57	80.3%	62	71.3%	56	50.5%	8	34.8%	271	65.5%								
	社会体育	3	11.5%	0	0.0%	3	5.9%	2	2.8%	0	0.0%	3	2.7%	2	8.7%	13	3.1%								
	文化部	8	30.8%	13	23.2%	7	13.7%	5	7.0%	8	9.2%	13	11.7%	3	13.0%	57	13.8%								
	何もしなかった	0	0.0%	5	8.9%	6	11.8%	7	9.9%	15	17.2%	34	30.6%	6	26.1%	73	17.6%								
	無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.3%	5	4.5%	4	17.4%	11	—								
合計	26	56	51	71	87	111	23	425																	
高校	運動部	10	38.5%	23	41.1%	20	39.2%	31	43.7%	28	32.2%	37	33.3%	7	30.4%	156	39.9%								
	社会体育	2	7.7%	0	0.0%	2	3.9%	3	4.2%	1	1.1%	1	0.9%	0	0.0%	9	2.3%								
	文化部	5	19.2%	16	28.6%	10	19.6%	10	14.1%	20	23.0%	19	17.1%	4	17.4%	84	21.5%								
	何もしなかった	7	26.9%	16	28.6%	19	37.3%	25	35.2%	31	35.6%	39	35.1%	5	21.7%	142	36.3%								
	無回答	2	7.7%	1	1.8%	0	0.0%	2	2.8%	7	8.0%	15	13.5%	7	30.4%	34	—								
合計	26	56	51	71	87	111	23	425																	
大学・短大等	運動部	6	23.1%	14	25.0%	8	15.7%	14	19.7%	13	14.9%	7	6.3%	2	8.7%	64	22.9%								
	社会体育	1	3.8%	0	0.0%	1	2.0%	3	4.2%	1	1.1%	1	0.9%	1	4.3%	8	2.9%								
	文化部	1	3.8%	5	8.9%	5	9.8%	2	2.8%	8	9.2%	8	7.2%	1	4.3%	30	10.7%								
	何もしなかった	11	42.3%	29	51.8%	28	54.9%	34	47.9%	39	44.8%	32	28.8%	5	21.7%	178	63.6%								
	無回答	7	26.9%	8	14.3%	9	17.6%	18	25.4%	26	29.9%	63	56.8%	14	60.9%	145	—								
合計	26	56	51	71	87	111	23	425																	

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

		18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			合計		
		前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
小学校	加入した	66.2%	57.7%	-8.5%	57.4%	51.8%	-5.6%	53.8%	56.9%	3.1%	31.2%	47.9%	16.7%	14.3%	18.4%	4.1%	4.9%	7.2%	2.3%	37.1%	31.8%	-5.3%
	何もしなかった	33.8%	38.5%	4.7%	42.6%	46.4%	3.8%	46.2%	43.1%	-3.1%	68.8%	43.7%	-25.1%	85.7%	63.2%	-22.5%	95.1%	64.9%	-30.2%	62.9%	52.9%	-10.0%
中学校	運動部	57.5%	57.7%	0.2%	66.1%	67.9%	1.8%	73.4%	68.6%	-4.8%	66.4%	80.3%	13.9%	65.4%	71.3%	5.9%	49.0%	50.5%	1.5%	63.6%	65.5%	1.9%
	社会体育	6.3%	11.5%	5.2%	1.6%	0.0%	-1.6%	1.4%	5.9%	4.5%	2.5%	2.8%	0.3%	0.6%	0.0%	-0.6%	2.1%	2.7%	0.6%	1.9%	3.1%	1.2%
	文化部	18.8%	30.8%	12.0%	22.6%	23.2%	0.6%	11.5%	13.7%	2.2%	14.3%	7.0%	-7.3%	12.8%	9.2%	-3.6%	17.5%	11.7%	-5.8%	15.5%	13.8%	-1.7%
	何もしなかった	17.5%	0.0%	-17.5%	9.7%	8.9%	-0.8%	13.7%	11.8%	-1.9%	16.8%	9.9%	-6.9%	21.2%	17.2%	-4.0%	31.5%	30.6%	-0.9%	19.0%	17.6%	-1.4%
高校	運動部	42.9%	38.5%	-4.4%	28.5%	41.1%	12.6%	44.2%	39.2%	-5.0%	40.3%	43.7%	3.4%	35.7%	32.2%	-3.5%	40.9%	33.3%	-7.6%	38.1%	39.9%	1.8%
	社会体育	1.3%	7.7%	6.4%	3.3%	0.0%	-3.3%	0.0%	3.9%	3.9%	1.7%	4.2%	2.5%	0.7%	1.1%	0.4%	1.6%	0.9%	-0.7%	1.4%	2.3%	0.9%
	文化部	22.1%	19.2%	-2.9%	25.2%	28.6%	3.4%	19.6%	19.6%	0.0%	31.1%	14.1%	-17.0%	29.4%	23.0%	-6.4%	22.0%	17.1%	-4.9%	25.3%	21.5%	-3.8%
	何もしなかった	33.8%	26.9%	-6.9%	43.1%	28.6%	-14.5%	36.2%	37.3%	1.1%	26.9%	35.2%	8.3%	34.3%	35.6%	1.3%	35.4%	35.1%	-0.3%	35.3%	36.3%	1.0%
大学・短大等	運動部	31.0%	23.1%	-7.9%	24.3%	25.0%	0.7%	23.6%	15.7%	-7.9%	23.5%	19.7%	-3.8%	23.7%	14.9%	-8.8%	13.8%	6.3%	-7.5%	23.1%	22.9%	-0.2%
	社会体育	2.8%	3.8%	1.0%	2.6%	0.0%	-2.6%	3.3%	2.0%	-1.3%	3.5%	4.2%	0.7%	2.2%	1.1%	-1.1%	3.4%	0.9%	-2.5%	3.1%	2.9%	-0.2%
	文化部	16.9%	3.8%	-13.1%	14.8%	8.9%	-5.9%	7.3%	9.8%	2.5%	18.8%	2.8%	-16.0%	16.1%	9.2%	-6.9%	20.7%	7.2%	-13.5%	14.6%	10.7%	-3.9%
	何もしなかった	49.3%	42.3%	-7.0%	58.3%	51.8%	-6.5%	65.9%	54.9%	-11.0%	54.1%	47.9%	-6.2%	58.1%	44.8%	-13.3%	62.1%	28.8%	-33.3%	59.2%	63.6%	4.4%

●問9 中学校時代に部活動（運動部・文化部）や社会体育等のスポーツクラブに加入しなかった理由（複数回答）

中学校時代の部活動に加入しなかった理由として「スポーツが嫌い」という意見が最も多い結果であった。スポーツをすることに対して「きつい」「おもしろくない」などのイメージがあり、結果スポーツが嫌いになる子どもが増えていくように思われる。小さい頃からスポーツが楽しいものと思ってもらえるように、また自分に合ったスポーツを早く見つけ興味を持ってもらえるような取り組みが必要であると考えます。

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
希望するクラブ等がなかった	0	0.0%	1	11.1%	1	12.5%	1	14.3%	3	15.8%	4	11.8%	0	0.0%	10	11.8%
指導者がいなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	2	5.9%	0	0.0%	3	3.5%
スポーツが嫌いだった	1	100.0%	6	66.7%	4	50.0%	2	28.6%	9	47.4%	15	44.1%	3	42.9%	40	47.1%
お金がかかった	0	0.0%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	1	2.9%	0	0.0%	3	3.5%
その他	0	0.0%	1	11.1%	3	37.5%	4	57.1%	5	26.3%	12	35.3%	4	57.1%	29	34.1%
合計	1		9		8		7		19		34		7		85	

※その他：受験勉強で多忙、体力が続かなかった、病気の為、
両親が共稼ぎだったため家事をさせられたため部活動に入らせてもらえなかった。

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			合計		
	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
希望するクラブ等がなかった	35.3%	0.0%	-35.3%	21.4%	11.1%	-10.3%	13.0%	12.5%	-0.5%	26.1%	14.3%	-11.8%	26.3%	15.8%	-10.5%	22.2%	11.8%	-10.4%	23.2%	11.8%	-11.4%
指導者がいなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	5.3%	7.9%	5.9%	-2.0%	3.5%	3.5%	0.0%
スポーツが嫌いだった	41.2%	100.0%	58.8%	50.0%	66.7%	16.7%	47.8%	50.0%	2.2%	34.8%	28.6%	-6.2%	42.1%	47.4%	5.3%	44.4%	44.1%	-0.3%	43.4%	47.1%	3.7%
お金がかかった	5.9%	0.0%	-5.9%	7.1%	11.1%	4.0%	8.7%	0.0%	-8.7%	4.3%	0.0%	-4.3%	5.3%	5.3%	0.0%	1.6%	2.9%	1.3%	4.0%	3.5%	-0.5%

4. スポーツ観戦について

●問10 この1年間にスポーツ観戦を行ったか（複数回答）

全体で70%以上がスポーツ観戦をしており、多くの人々がスポーツを見ることでスポーツに関わっていることがわかる。観戦手段としてはテレビ観戦が多い中、試合会場に行って間近でスポーツを観戦している人もおよそ4人に1人はいることがわかった。また観戦しているスポーツの種目も「野球」「サッカー」が多くなっている。両種目とも福岡にプロチームがあることで、スポーツ観戦がしやすい環境ができているものと思われる。

		18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
観戦した	テレビ	22	50.0%	52	72.2%	45	60.8%	87	70.7%	94	72.3%	131	86.8%	19	61.3%	450	72.0%
	YouTube	7	15.9%	11	15.3%	7	9.5%	8	6.5%	16	12.3%	2	1.3%	3	9.7%	54	8.6%
	スタジアム	12	27.3%	8	11.1%	16	21.6%	25	20.3%	17	13.1%	18	11.9%	8	25.8%	104	16.6%
	有料配信	3	6.8%	1	1.4%	6	8.1%	3	2.4%	3	2.3%	0	0.0%	1	3.2%	17	2.7%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	観戦した実人数	20	76.9%	36	64.3%	34	66.7%	59	83.1%	67	77.0%	82	73.9%	16	69.6%	314	73.9%
観戦しなかった		6	23.1%	19	33.9%	17	33.3%	12	16.9%	20	23.0%	23	20.7%	5	21.7%	102	24.0%
無回答		0	0.0%	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	5.4%	2	8.7%	9	2.1%
合計		26		56		51		71		87		111		23		425	

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

		18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			合計		
		前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
観戦した	テレビ	62.3%	50.0%	-12.3%	55.7%	72.2%	16.5%	67.7%	60.8%	-6.9%	73.7%	70.7%	-3.0%	78.7%	72.3%	-6.4%	82.5%	86.8%	4.3%	72.7%	72.0%	-0.7%
	YouTube	5.2%	15.9%	10.7%	5.4%	15.3%	9.9%	4.5%	9.5%	5.0%	1.8%	6.5%	4.7%	0.7%	12.3%	11.6%	0.0%	1.3%	1.3%	2.4%	8.6%	6.2%
	スタジアム	31.3%	27.3%	-4.0%	38.9%	11.1%	-27.8%	27.7%	21.6%	-6.1%	24.4%	20.3%	-4.1%	20.2%	13.1%	-7.1%	17.2%	11.9%	-5.3%	24.7%	16.6%	-8.1%
	有料配信	0.0%	6.8%	6.8%	0.0%	1.4%	1.4%	0.0%	8.1%	8.1%	0.0%	2.4%	2.4%	0.0%	2.3%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	2.7%
	その他	0.9%	0.0%	-0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	-0.4%	0.4%	0.0%	-0.4%	0.2%	0.0%	-0.2%
	観戦した実人数	67.9%	76.9%	9.0%	64.2%	64.3%	0.1%	71.2%	66.7%	-4.5%	74.8%	83.1%	8.3%	74.7%	77.0%	2.3%	74.7%	73.9%	-0.8%	71.3%	73.9%	2.6%
観戦しなかった		32.1%	23.1%	-9.0%	35.8%	33.9%	-1.9%	28.8%	33.3%	4.5%	25.2%	16.9%	-8.3%	25.3%	23.0%	-2.3%	25.3%	20.7%	-4.6%	28.7%	24.0%	-4.7%

●問10-1 観戦したスポーツの種目（複数回答）

		18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
野球	16	48.5%	23	38.3%	24	40.7%	44	41.9%	44	39.3%	63	46.7%	6	35.3%	220	42.2%	
サッカー	7	21.2%	12	20.0%	13	22.0%	17	16.2%	24	21.4%	16	11.9%	2	11.8%	91	17.5%	
バスケットボール	4	12.1%	11	18.3%	6	10.2%	7	6.7%	5	4.5%	8	5.9%	1	5.9%	42	8.1%	
ラグビー	0	0.0%	3	5.0%	4	6.8%	8	7.6%	7	6.3%	5	3.7%	2	11.8%	29	5.6%	
卓球	2	6.1%	1	1.7%	3	5.1%	6	5.7%	5	4.5%	8	5.9%	1	5.9%	26	5.0%	
ゴルフ	0	0.0%	0	0.0%	2	3.4%	4	3.8%	8	7.1%	7	5.2%	2	11.8%	23	4.4%	
バレーボール	2	6.1%	2	3.3%	1	1.7%	6	5.7%	4	3.6%	2	1.5%	2	11.8%	19	3.6%	
陸上	0	0.0%	1	1.7%	1	1.7%	1	1.0%	1	0.9%	8	5.9%	0	0.0%	12	2.3%	
相撲	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	3.8%	1	0.9%	7	5.2%	0	0.0%	12	2.3%	
水泳	1	3.0%	0	0.0%	1	1.7%	1	1.0%	2	1.8%	3	2.2%	0	0.0%	8	1.5%	
マラソン・駅伝	1	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.7%	3	2.2%	1	5.9%	8	1.5%	
ボクシング	0	0.0%	2	3.3%	0	0.0%	0	0.0%	4	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	6	1.2%	
テニス	0	0.0%	2	3.3%	1	1.7%	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.8%	
フィギュアスケート	0	0.0%	1	1.7%	1	1.7%	0	0.0%	1	0.9%	1	0.7%	0	0.0%	4	0.8%	
格闘技	0	0.0%	1	1.7%	0	0.0%	1	1.0%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.6%	
柔道	0	0.0%	1	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	1	0.7%	0	0.0%	3	0.6%	
モータースポーツ	0	0.0%	0	0.0%	1	1.7%	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%	
スケート	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.5%	0	0.0%	2	0.4%	
その他	0	0.0%	0	0.0%	1	1.7%	4	3.8%	1	0.9%	1	0.7%	0	0.0%	7	1.3%	
合計	33		60		59		105		112		135		17		521		

※その他：ハンドボール、アメリカンフットボール、プロレス、体操、アーティスティックスイミングダンス、剣道

5. スポーツ施設について

●問11 主にスポーツをしている場所

スポーツを行っている場所については「公園・広場」が最も多い結果となっている。ジョギングやウォーキングなどで、いつでも誰もが気軽に利用できる点が人気の要因であると思われる。一方で市内の公共スポーツ施設の利用が少なく、民間のスポーツ施設を利用している傾向が高くなっている。室内プールやゴルフ場など特定のスポーツ種目が公共スポーツ施設ではできないことが考えられるが、今後は利用しやすい公共スポーツ施設の整備をめざす必要があると思われる。

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
各コミュニティセンター	3	11.5%	4	7.1%	2	3.9%	3	4.2%	4	4.6%	7	6.3%	2	8.7%	25	5.9%
大野城総合公園内施設	2	7.7%	0	0.0%	4	7.8%	5	7.0%	5	5.7%	6	5.4%	2	8.7%	24	5.6%
市内学校開放施設	1	3.8%	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.5%
赤坂・旭ヶ丘テニスコート	0	0.0%	1	1.8%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.3%	3	0.7%
市外の公共スポーツ施設	1	3.8%	4	7.1%	3	5.9%	3	4.2%	4	4.6%	6	5.4%	1	4.3%	22	5.2%
民間スポーツ施設	3	11.5%	5	8.9%	5	9.8%	7	9.9%	10	11.5%	7	6.3%	1	4.3%	38	8.9%
公園・広場	5	19.2%	15	26.8%	7	13.7%	7	9.9%	20	23.0%	20	18.0%	2	8.7%	76	17.9%
その他	3	11.5%	6	10.7%	6	11.8%	16	22.5%	7	8.0%	18	16.2%	2	8.7%	58	13.6%
スポーツを行っていない	8	30.8%	20	35.7%	22	43.1%	28	39.4%	34	39.1%	40	36.0%	6	26.1%	158	37.2%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	3.9%	1	1.4%	3	3.4%	7	6.3%	6	26.1%	19	4.5%
合計	26		56		51		71		87		111		23		425	

※その他：自宅、自宅周辺、ゴルフ場、病院

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			合計		
	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
各コミュニティセンター	6.5%	11.5%	5.0%	5.7%	7.1%	1.4%	9.4%	3.9%	-5.5%	9.2%	4.2%	-5.0%	6.4%	4.6%	-1.8%	12.6%	6.3%	-6.3%	8.6%	5.9%	-2.7%
大野城総合公園内施設	10.4%	7.7%	-2.7%	1.6%	0.0%	-1.6%	5.0%	7.8%	2.8%	5.0%	7.0%	2.0%	3.8%	5.7%	1.9%	7.5%	5.4%	-2.1%	5.6%	5.6%	0.0%
市内学校開放施設	5.2%	3.8%	-1.4%	0.8%	1.8%	1.0%	2.9%	0.0%	-2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	-1.3%	1.3%	0.0%	-1.3%	1.7%	0.5%	-1.2%
赤坂・旭ヶ丘テニスコート	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	1.4%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	-0.6%	0.2%	0.7%	0.5%
市外の公共スポーツ施設	6.5%	3.8%	-2.7%	7.3%	7.1%	-0.2%	6.5%	5.9%	-0.6%	4.2%	4.2%	0.0%	3.8%	4.6%	0.8%	5.7%	5.4%	-0.3%	5.4%	5.2%	-0.2%
民間スポーツ施設	10.4%	11.5%	1.1%	8.9%	8.9%	0.0%	7.9%	9.8%	1.9%	15.1%	9.9%	-5.2%	16.7%	11.5%	-5.2%	13.2%	6.3%	-6.9%	12.6%	8.9%	-3.7%
公園・広場	16.9%	19.2%	2.3%	26.0%	26.8%	0.8%	18.7%	13.7%	-5.0%	14.3%	9.9%	-4.4%	16.0%	23.0%	7.0%	14.5%	18.0%	3.5%	16.9%	17.9%	1.0%
スポーツを行っていない	33.8%	30.8%	-3.0%	43.1%	35.7%	-7.4%	40.3%	43.1%	2.8%	40.3%	39.4%	-0.9%	39.7%	39.1%	-0.6%	30.8%	36.0%	5.2%	38.3%	37.2%	-1.1%

●問12 市内の公共スポーツ施設を利用しない理由（複数回答）

市内の公共スポーツ施設を利用しない理由について「やりたいスポーツができない」「利用方法がわからない」と回答した人が最も高い結果であった。施設に行かなくてもできるスポーツもあるが、対応できるよう検討する必要がある。また、利用方法については、施設によって様々なルールを設けてはいるが、最も大きな要因は、施設を利用する人に情報が届いていないことが考えられる。

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
利用方法がわからない	3	25.0%	5	13.9%	8	25.8%	2	6.9%	6	13.3%	9	20.5%	0	0.0%	33	16.2%
施設が空いていない	0	0.0%	4	11.1%	1	3.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%	6	2.9%
利用料金が高い	1	8.3%	4	11.1%	1	3.2%	0	0.0%	2	4.4%	1	2.3%	0	0.0%	9	4.4%
指導者がいない	0	0.0%	1	2.8%	1	3.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%	3	1.5%
駐車場がない	0	0.0%	0	0.0%	1	3.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%
利用可能時間が短い	0	0.0%	1	2.8%	2	6.5%	1	3.4%	0	0.0%	1	2.3%	1	14.3%	6	2.9%
スポーツ教室等の開催が少ない	0	0.0%	2	5.6%	3	9.7%	3	10.3%	7	15.6%	2	4.5%	1	14.3%	18	8.8%
やりたいスポーツができない	2	16.7%	2	5.6%	5	16.1%	7	24.1%	13	28.9%	8	18.2%	3	42.9%	40	19.6%
設備が整っていない	0	0.0%	4	11.1%	2	6.5%	1	3.4%	4	8.9%	2	4.5%	0	0.0%	13	6.4%
その他	6	50.0%	13	36.1%	7	22.6%	15	51.7%	13	28.9%	21	47.7%	0	0.0%	75	36.8%
合計	12		36		31		29		45		44		7		204	

※その他：チームが他の市にあるため。アクセスが悪い。自宅でする内容であるため。ランニングであるため施設である必要はない。人と交流するのが嫌。ゴルフ場、プールがない。職場でするため。忙しく家にいる合間でしか運動できない。時間が合わない。自分の空き時間に運動したい。

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			合計		
	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
利用方法がわからない	37.8%	25.0%	-12.8%	33.8%	13.9%	-19.9%	27.5%	25.8%	-1.7%	16.7%	6.9%	-9.8%	14.4%	13.3%	-1.1%	17.6%	20.5%	2.9%	22.1%	16.2%	-5.9%
施設が空いていない	6.7%	0.0%	-6.7%	6.5%	11.1%	4.6%	5.0%	3.2%	-1.8%	5.1%	0.0%	-5.1%	4.4%	0.0%	-4.4%	4.4%	0.0%	-4.4%	5.3%	2.9%	-2.4%
利用料金が高い	2.2%	8.3%	6.1%	3.9%	11.1%	7.2%	3.8%	3.2%	-0.6%	3.8%	0.0%	-3.8%	3.3%	4.4%	1.1%	0.0%	2.3%	2.3%	3.2%	4.4%	1.2%
指導者がいない	6.7%	0.0%	-6.7%	0.0%	2.8%	2.8%	0.0%	3.2%	3.2%	7.7%	0.0%	-7.7%	6.7%	0.0%	-6.7%	4.4%	0.0%	-4.4%	4.2%	1.5%	-2.7%
駐車場がない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	3.2%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	-1.1%	1.5%	0.0%	-1.5%	0.8%	0.5%	-0.3%
利用可能時間が短い	13.3%	0.0%	-13.3%	3.9%	2.8%	-1.1%	7.5%	6.5%	-1.0%	11.5%	3.4%	-8.1%	8.9%	0.0%	-8.9%	2.9%	2.3%	-0.6%	7.8%	2.9%	-4.9%
スポーツ教室等の開催が少ない	0.0%	0.0%	0.0%	10.4%	5.6%	-4.8%	1.3%	9.7%	8.4%	6.4%	10.3%	3.9%	8.9%	15.6%	6.7%	5.9%	4.5%	-1.4%	6.7%	8.8%	2.1%
やりたいスポーツができない	6.7%	16.7%	10.0%	10.4%	5.6%	-4.8%	16.3%	16.1%	-0.2%	12.8%	24.1%	11.3%	18.9%	28.9%	10.0%	10.3%	18.2%	7.9%	14.1%	19.6%	5.5%
設備が整っていない	4.4%	0.0%	-4.4%	6.5%	11.1%	4.6%	7.5%	6.5%	-1.0%	14.1%	3.4%	-10.7%	5.6%	8.9%	3.3%	11.8%	4.5%	-7.3%	8.6%	6.4%	-2.2%

●問13 公共スポーツ施設に望むことは何か（複数回答）

公共スポーツ施設に求められているものとして最も多かった回答が「施設数の増加」であった。新たなスポーツ施設の整備は容易ではないが、施設が身近にあればスポーツをするという声も聞かれている。また「初心者向けスポーツ教室等の充実」や「利用時間帯の拡大」といった回答も多かった。

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
施設数の増加	7	15.9%	19	15.0%	19	16.2%	25	17.1%	30	20.7%	31	19.1%	7	18.9%	138	17.7%
利用時間帯の拡大	7	15.9%	12	9.4%	18	15.4%	23	15.8%	7	4.8%	8	4.9%	6	16.2%	81	10.4%
初心者向けスポーツ教室等の充実	1	2.3%	11	8.7%	13	11.1%	20	13.7%	19	13.1%	21	13.0%	3	8.1%	88	11.3%
指導者の配置	0	0.0%	3	2.4%	3	2.6%	5	3.4%	6	4.1%	5	3.1%	1	2.7%	23	3.0%
手続き、支払方法等の簡略化	6	13.6%	18	14.2%	10	8.5%	11	7.5%	9	6.2%	10	6.2%	4	10.8%	68	8.7%
利用案内等の広報の充実	5	11.4%	12	9.4%	12	10.3%	10	6.8%	16	11.0%	17	10.5%	4	10.8%	76	9.8%
駐車場の拡大	2	4.5%	10	7.9%	12	10.3%	8	5.5%	6	4.1%	8	4.9%	3	8.1%	49	6.3%
既存施設の改修・整備	4	9.1%	6	4.7%	5	4.3%	11	7.5%	4	2.8%	4	2.5%	1	2.7%	35	4.5%
健康やスポーツの情報充実	0	0.0%	4	3.1%	4	3.4%	6	4.1%	15	10.3%	12	7.4%	1	2.7%	42	5.4%
託児施設の充実	1	2.3%	10	7.9%	3	2.6%	2	1.4%	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	17	2.2%
レストラン等の施設充実	1	2.3%	6	4.7%	5	4.3%	9	6.2%	6	4.1%	6	3.7%	1	2.7%	34	4.4%
その他	1	2.3%	5	3.9%	5	4.3%	1	0.7%	2	1.4%	3	1.9%	1	2.7%	18	2.3%
特にない	9	20.5%	11	8.7%	8	6.8%	15	10.3%	24	16.6%	37	22.8%	5	13.5%	109	14.0%
合計	44		127		117		146		145		162		37		778	

※その他：春日のクローバープラザを利用しています。室内プールを！

料金的にも安く、何度も利用しやすくまどかぴあの中に設けて頂いたら、行動しやすくなります。

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			合計		
	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
施設数の増加	21.1%	15.9%	-5.2%	16.1%	15.0%	-1.1%	17.9%	16.2%	-1.7%	14.4%	17.1%	2.7%	14.2%	20.7%	6.5%	20.5%	19.1%	-1.4%	17.3%	17.7%	0.4%
利用時間帯の拡大	18.9%	15.9%	-3.0%	14.4%	9.4%	-5.0%	15.1%	15.4%	0.3%	12.4%	15.8%	3.4%	10.3%	4.8%	-5.5%	1.9%	4.9%	3.0%	12.1%	10.4%	-1.7%
初心者向けスポーツ教室の充実	7.4%	2.3%	-5.1%	12.7%	8.7%	-4.0%	11.0%	11.1%	0.1%	13.6%	13.7%	0.1%	13.8%	13.1%	-0.7%	10.0%	13.0%	3.0%	11.9%	11.3%	-0.6%
指導者の配置	2.9%	0.0%	-2.9%	3.8%	2.4%	-1.4%	3.4%	2.6%	-0.8%	3.6%	3.4%	-0.2%	4.6%	4.1%	-0.5%	6.7%	3.1%	-3.6%	4.4%	3.0%	-1.4%
手続き、支払方法等の簡略化	10.9%	13.6%	2.7%	8.2%	14.2%	6.0%	10.3%	8.5%	-1.8%	11.6%	7.5%	-4.1%	7.8%	6.2%	-1.6%	4.8%	6.2%	1.4%	9.1%	8.7%	-0.4%
利用案内等の広報の充実	9.1%	11.4%	2.3%	10.6%	9.4%	-1.2%	12.4%	10.3%	-2.1%	12.0%	6.8%	-5.2%	8.5%	11.0%	2.5%	7.6%	10.5%	2.9%	10.1%	9.8%	-0.3%
駐車場の拡大	5.1%	4.5%	-0.6%	5.5%	7.9%	2.4%	7.6%	10.3%	2.7%	6.4%	5.5%	-0.9%	5.3%	4.1%	-1.2%	4.3%	4.9%	0.6%	5.6%	6.3%	0.7%
既存施設の改修・整備	8.0%	9.1%	1.1%	2.1%	4.7%	2.6%	1.7%	4.3%	2.6%	4.4%	7.5%	3.1%	2.1%	2.8%	0.7%	2.4%	2.5%	0.1%	2.9%	4.5%	1.6%
健康やスポーツの情報充実	2.3%	0.0%	-2.3%	4.8%	3.1%	-1.7%	4.5%	3.4%	-1.1%	9.2%	4.1%	-5.1%	8.5%	10.3%	1.8%	11.9%	7.4%	-4.5%	6.9%	5.4%	-1.5%
託児施設の充実	5.1%	2.3%	-2.8%	12.7%	7.9%	-4.8%	3.8%	2.6%	-1.2%	0.4%	1.4%	1.0%	0.0%	0.7%	0.7%	1.0%	0.0%	-1.0%	3.8%	2.2%	-1.6%
レストラン等の施設充実	4.0%	2.3%	-1.7%	3.1%	4.7%	1.6%	2.7%	4.3%	1.6%	2.4%	6.2%	3.8%	4.3%	4.1%	-0.2%	2.4%	3.7%	1.3%	3.2%	4.4%	1.2%
特にない	4.0%	20.5%	16.5%	5.5%	8.7%	3.2%	7.9%	6.8%	-1.1%	7.6%	10.3%	2.7%	19.1%	16.6%	-2.5%	22.9%	22.8%	-0.1%	10.8%	14.0%	3.2%

6. スポーツ指導者について

●問14 スポーツを推進していく上で、どのような指導者が必要か（複数回答）

スポーツ指導者に必要な要素として、「健康・体力づくりのための指導」「スポーツの楽しみや興味関心を持たせる」との回答が高い結果であった。「健康・体力づくりのための指導」は50代以降の中高齢層で最も多い回答となっており、健康意識の高さが伺える。また20代から40代の世代では「スポーツの楽しみや興味関心を持たせる」との回答が最も多くなっており、仕事や育児等で忙しい中でも、楽しくスポーツをしたいと思っている人が多いことが伺える。

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
スポーツの楽しみや興味関心を持たせる	19	38.8%	32	34.8%	30	33.0%	44	34.6%	50	34.5%	43	26.5%	7	25.0%	225	31.2%
健康・体力づくりのための指導	8	16.3%	31	33.7%	29	31.9%	46	36.2%	60	41.4%	62	38.3%	9	32.1%	245	34.0%
競技力向上のための高度な運動技術の指導	6	12.2%	3	3.3%	5	5.5%	5	3.9%	4	2.8%	6	3.7%	1	3.6%	30	4.2%
障がい者や高齢者の指導	4	8.2%	5	5.4%	7	7.7%	8	6.3%	17	11.7%	23	14.2%	4	14.3%	68	9.4%
青少年のスポーツ活動を積極的に進める	3	6.1%	8	8.7%	6	6.6%	11	8.7%	4	2.8%	9	5.6%	2	7.1%	43	6.0%
スポーツイベントの企画運営ができる	6	12.2%	6	6.5%	6	6.6%	5	3.9%	6	4.1%	5	3.1%	2	7.1%	36	5.0%
いろいろなニュースポーツの指導	3	6.1%	4	4.3%	2	2.2%	7	5.5%	4	2.8%	7	4.3%	2	7.1%	29	4.0%
その他	0	0.0%	3	3.3%	6	6.6%	1	0.8%	0	0.0%	7	4.3%	1	3.6%	45	6.2%
合計	49		92		91		127		145		162		28		721	

※その他：フレンドリーな人、下手な人に寄り添える人、勝利至上主義でない人、健康・病気を治す指導をしてくれる人、その人の目的に合った指導方法・アドバイスができる人

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			合計		
	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
スポーツの楽しみや興味関心を持たせる	36.8%	38.8%	2.0%	38.5%	34.8%	-3.7%	32.8%	33.0%	0.2%	34.6%	34.6%	0.0%	31.3%	34.5%	3.2%	29.7%	26.5%	-3.2%	34.2%	31.2%	-3.0%
健康・体力づくりのための指導	30.9%	16.3%	-14.6%	29.9%	33.7%	3.8%	30.2%	31.9%	1.7%	36.4%	36.2%	-0.2%	40.5%	41.4%	0.9%	38.0%	38.3%	0.3%	34.7%	34.0%	-0.7%
競技力向上のための高度な運動技術の指導	8.6%	12.2%	3.6%	6.0%	3.3%	-2.7%	5.7%	5.5%	-0.2%	3.7%	3.9%	0.2%	3.8%	2.8%	-1.0%	1.7%	3.7%	2.0%	4.5%	4.2%	-0.3%
障がい者や高齢者の指導	4.6%	8.2%	3.6%	6.0%	5.4%	-0.6%	9.2%	7.7%	-1.5%	7.9%	6.3%	-1.6%	10.3%	11.7%	1.4%	17.5%	14.2%	-3.3%	9.5%	9.4%	-0.1%
青少年のスポーツ活動を積極的に進める	5.3%	6.1%	0.8%	6.4%	8.7%	2.3%	6.9%	6.6%	-0.3%	5.1%	8.7%	3.6%	3.4%	2.8%	-0.6%	1.7%	5.6%	3.9%	4.8%	6.0%	1.2%
スポーツイベントの企画運営ができる	8.6%	12.2%	3.6%	7.7%	6.5%	-1.2%	11.1%	6.6%	-4.5%	4.7%	3.9%	-0.8%	4.2%	4.1%	-0.1%	2.6%	3.1%	0.5%	6.2%	5.0%	-1.2%
いろいろなニュースポーツの指導	4.6%	6.1%	1.5%	3.0%	4.3%	1.3%	2.7%	2.2%	-0.5%	3.7%	5.5%	1.8%	2.3%	2.8%	0.5%	3.5%	4.3%	0.8%	3.1%	4.0%	0.9%

●問15 スポーツの指導を行ってみたいか

スポーツ指導については、若い世代ほど「指導を行ってみたい」という回答が多かったが、約90%で「やりたくない・できない」と回答している。スポーツ指導者の多くは競技種目の技術的指導が中心となるため、ある程度経験したスポーツでないと指導は難しいものと思われる。指導したいスポーツ種目も水泳・バスケットボールなどの競技人口が高い種目が多くなっている傾向が伺えることから、自分がこれまで経験してきたスポーツ種目の指導を行いたいと思っている人が僅かながらいるものと考えられる。

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
指導を行ってみたい	8	30.8%	6	10.7%	3	5.9%	6	8.5%	2	2.3%	2	1.8%	1	4.3%	28	6.6%
やりたくない・できない	18	69.2%	49	87.5%	48	94.1%	64	90.1%	80	92.0%	95	85.6%	19	82.6%	373	87.8%
無回答	0	0.0%	1	1.8%	0	0.0%	1	1.4%	5	5.7%	14	12.6%	3	13.0%	24	5.6%
合計	26		56		51		71		87		111		23		425	

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			合計		
	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
指導を行ってみたい	11.5%	30.8%	19.3%	12.3%	10.7%	-1.6%	6.0%	5.9%	-0.1%	6.9%	8.5%	1.6%	6.5%	2.3%	-4.2%	5.4%	1.8%	-3.6%	7.9%	6.6%	-1.3%
やりたくない・できない	88.5%	69.2%	-19.3%	87.7%	87.5%	-0.2%	94.0%	94.1%	0.1%	93.1%	90.1%	-3.0%	93.5%	92.0%	-1.5%	94.6%	85.6%	-9.0%	92.1%	87.8%	-4.3%

●問15-1 指導を行ってみたいスポーツの種目（複数回答）

	18歳~20代		30代		40代		50代		60代		70代~		不明		合計	
水泳	2	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%	1	33.3%	1	33.3%	1	100.0%	6	18.8%
バスケットボール	1	12.5%	1	16.7%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	9.4%
ヨガ	0	0.0%	1	16.7%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	9.4%
テニス	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	6.3%
サッカー	2	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	6.3%
ラグビー	0	0.0%	1	16.7%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	6.3%
ダンス	1	12.5%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	6.3%
卓球	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%
柔道	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%
ピラティス	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%
アーティスティックスイミング	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	1	3.1%
剣道	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	1	3.1%
陸上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%
ブラインドマラソン伴走	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%
バドミントン	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%
ソフトテニス	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%
少林寺拳法	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%
スキー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%
気功	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%
合計	8		6		4		7		3		3		1		32	

7. スポーツボランティア活動について

●問16 この1年間でスポーツにかかわるボランティア活動を行ったか（複数回答）

スポーツボランティア活動に携わっていない人が圧倒的に多い結果となっている。一方で、スポーツボランティア活動をした人で最も多い回答が「大会・イベント等支援」であった。本市の競技種目団体やスポーツ少年団については、市・スポーツ協会主催のスポーツイベントへのスタッフ参加を必須条件としていることが最も大きな要因であると考えられる。

		18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
行 っ た	指導やコーチ	1	20.0%	1	16.7%	0	#DIV/0!	0	0.0%	1	33.3%	1	25.0%	0	0.0%	4	18.2%
	審判	0	0.0%	1	16.7%	0	#DIV/0!	1	33.3%	1	33.3%	1	25.0%	0	0.0%	4	18.2%
	クラブや団体の運営、世話	0	0.0%	2	33.3%	0	#DIV/0!	0	0.0%	1	33.3%	1	25.0%	0	0.0%	4	18.2%
	施設管理	0	0.0%	0	0.0%	0	#DIV/0!	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	大会・イベント等支援	3	60.0%	2	33.3%	0	#DIV/0!	2	66.7%	0	0.0%	1	25.0%	1	100.0%	9	40.9%
	障がい者スポーツの支援	0	0.0%	0	0.0%	0	#DIV/0!	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	その他	1	20.0%	0	0.0%	0	#DIV/0!	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.5%
	行った実人数	4	15.4%	6	10.7%	0	0.0%	3	4.2%	3	3.4%	2	1.8%	1	4.3%	19	4.5%
行わなかった	22	84.6%	48	85.7%	51	100.0%	68	95.8%	82	93.2%	100	90.9%	20	87.0%	391	92.0%	
無回答	0	0.0%	2	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	3	3.4%	8	7.3%	2	8.7%	15	3.5%	
合計		26		56		51		71		88		110		23		425	

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

		18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			合計		
		前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
行 っ た	指導やコーチ	50.0%	20.0%	-30.0%	18.2%	16.7%	-1.5%	14.3%	0.0%	-14.3%	11.8%	0.0%	-11.8%	40.0%	33.3%	-6.7%	21.4%	25.0%	3.6%	18.6%	18.2%	-0.4%
	審判	0.0%	0.0%	0.0%	36.4%	16.7%	-19.7%	14.3%	0.0%	-14.3%	29.4%	33.3%	3.9%	0.0%	33.3%	33.3%	14.3%	25.0%	10.7%	18.6%	18.2%	-0.4%
	クラブや団体の運営、世話	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	33.3%	24.2%	28.6%	0.0%	-28.6%	11.8%	0.0%	-11.8%	0.0%	33.3%	33.3%	7.1%	25.0%	17.9%	14.3%	18.2%	3.9%
	施設管理	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	-5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	-7.1%	4.3%	0.0%	-4.3%
	大会・イベント等支援	50.0%	60.0%	10.0%	36.4%	33.3%	-3.1%	42.9%	0.0%	-42.9%	35.3%	66.7%	31.4%	40.0%	0.0%	-40.0%	50.0%	25.0%	-25.0%	40.0%	40.9%	0.9%
	障がい者スポーツの支援	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	-5.9%	20.0%	0.0%	-20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%	0.0%	-4.3%
	行った実人数	2.6%	15.4%	12.8%	6.6%	10.7%	4.1%	5.8%	0.0%	-5.8%	9.3%	4.2%	-5.1%	2.6%	3.4%	0.8%	6.6%	1.8%	-4.8%	5.6%	4.5%	-1.1%
行わなかった	97.4%	84.6%	-12.8%	93.4%	85.7%	-7.7%	94.2%	100.0%	5.8%	90.7%	95.8%	5.1%	97.4%	93.2%	-4.2%	93.4%	90.9%	-2.5%	94.4%	92.0%	-2.4%	

●問16-1 ボランティア活動を行ったスポーツの種目（複数回答）

	スポーツの種目
指導やコーチ	剣道、柔道、ソフトボール、卓球
審判	剣道、ソフトボール、野球、バドミントン
クラブや団体の運営、世話	剣道、ソフトボール、バドミントン、れくスポ
施設管理	-
大会・イベント等支援	陸上、サッカー、世界水泳、ドッチビー、グランドゴルフ、いこいの森ロードレース れくスポ
障がい者スポーツの支援	-

●問17 今後スポーツボランティア活動に携わりたいと思うか（複数回答）

今後、スポーツボランティア活動に携わりたいと考えている人は、約3割いることがわかった。現在スポーツボランティア活動を行っている人が【問15】で約4.5%であったため、スポーツボランティア活動の機会があれば、したいと思っている人がいるものと考えられる。

		18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			不明			合計		
行った	指導やコーチ	3	11.5%	1	1.8%	1	2.0%	4	5.6%	1	1.1%	1	0.9%	0	0.0%	11	2.6%								
	審判	0	0.0%	1	1.8%	1	2.0%	1	1.4%	1	1.1%	1	0.9%	0	0.0%	5	1.2%								
	クラブや団体の運営、世話	4	15.4%	3	5.4%	4	7.8%	4	5.6%	5	5.7%	2	1.8%	1	4.3%	23	5.4%								
	施設管理	1	3.8%	2	3.6%	6	11.8%	6	8.5%	7	8.0%	4	3.6%	1	4.3%	27	6.4%								
	大会・イベント等支援	6	23.1%	9	16.1%	6	11.8%	11	15.5%	6	6.8%	2	1.8%	1	4.3%	41	9.6%								
	障がい者スポーツの支援	1	3.8%	3	5.4%	5	9.8%	7	9.9%	2	2.3%	2	1.8%	1	4.3%	21	4.9%								
	その他	0	0.0%	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%								
	行った実人数	9	34.6%	12	21.4%	10	19.6%	19	26.8%	12	13.6%	8	7.3%	1	4.3%	129	30.4%								
携わるつもりはない	16	61.5%	42	75.0%	41	80.4%	50	70.4%	68	77.3%	85	77.3%	16	69.6%	318	74.8%									
無回答	1	3.8%	2	3.6%	0	0.0%	2	2.8%	7	8.0%	18	16.4%	6	26.1%	36	8.5%									
合計	26	56	51	71	87	111	23	483																	

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

		18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			合計		
		前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
携わりたい	指導やコーチ	16.3%	11.5%	-4.8%	18.0%	1.8%	-16.2%	15.1%	2.0%	-13.1%	10.2%	5.6%	-4.6%	6.6%	1.1%	-5.5%	10.3%	0.9%	-9.4%	12.2%	2.6%	-9.6%
	審判	4.1%	0.0%	-4.1%	10.0%	1.8%	-8.2%	5.7%	2.0%	-3.7%	8.5%	1.4%	-7.1%	4.9%	1.1%	-3.8%	6.9%	0.9%	-6.0%	6.4%	1.2%	-5.2%
	クラブや団体の運営、世話	16.3%	15.4%	-0.9%	12.0%	5.4%	-6.6%	9.4%	7.8%	-1.6%	5.1%	5.6%	0.5%	6.6%	5.7%	-0.9%	10.3%	1.8%	-8.5%	10.1%	5.4%	-4.7%
	施設管理	18.4%	3.8%	-14.6%	20.0%	3.6%	-16.4%	15.1%	11.8%	-3.3%	16.9%	8.5%	-8.4%	19.7%	8.0%	-11.7%	17.2%	3.6%	-13.6%	17.1%	6.4%	-10.7%
	大会・イベント等支援	28.6%	23.1%	-5.5%	30.0%	16.1%	-13.9%	35.8%	11.8%	-24.0%	39.0%	15.5%	-23.5%	44.3%	6.8%	-37.5%	31.0%	1.8%	-29.2%	37.0%	9.6%	-27.4%
	障がい者スポーツの支援	16.3%	3.8%	-12.5%	10.0%	5.4%	-4.6%	18.9%	9.8%	-9.1%	20.3%	9.9%	-10.4%	18.0%	2.3%	-15.7%	24.1%	1.8%	-22.3%	17.1%	4.9%	-12.2%
	携わりたい実人数	32.1%	34.6%	2.5%	24.4%	21.4%	-3.0%	29.5%	19.6%	-9.9%	28.6%	26.8%	-1.8%	26.3%	13.6%	-12.7%	21.0%	7.3%	-13.7%	26.2%	30.4%	4.2%
携わるつもりはない	67.9%	61.5%	-6.4%	75.6%	75.0%	-0.6%	70.5%	80.4%	9.9%	71.4%	70.4%	-1.0%	73.8%	77.3%	3.5%	79.0%	77.3%	-1.7%	73.8%	74.8%	1.0%	

●問18 今後スポーツボランティア活動を行わない理由（複数回答）

今後、スポーツボランティア活動を行わない理由については「その他（時間がない、忙しいなど）」の理由が最も多くなっている。今後はスポーツボランティア活動を通じて、スポーツを支える面からスポーツに携わる人が一人でも多く増えるような検討を行う必要がある。

		18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			不明			合計		
自分がスポーツをしたい	7	36.8%	18	36.7%	10	22.2%	4	6.9%	16	21.3%	8	8.7%	5	27.8%	68	19.1%									
他のボランティア活動を既に行っている	0	0.0%	2	4.1%	2	4.4%	6	10.3%	2	2.7%	5	5.4%	0	0.0%	17	4.8%									
始めるきっかけがない	2	10.5%	9	18.4%	10	22.2%	10	17.2%	7	9.3%	5	5.4%	2	11.1%	45	12.6%									
他にやりたいことがある	9	47.4%	9	18.4%	12	26.7%	16	27.6%	27	36.0%	30	32.6%	7	38.9%	110	30.9%									
その他	1	5.3%	11	22.4%	11	24.4%	22	37.9%	23	30.7%	44	47.8%	4	22.2%	116	32.6%									
合計	19	49	45	58	75	92	18	356																	

その他：仕事で忙しい、日常の時間的余裕がないため、体調不良のため出来ない、高齢のため、興味がない

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

		18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			合計		
		前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
自分がスポーツをしたい	24.6%	36.8%	12.2%	30.1%	36.7%	6.6%	23.4%	22.2%	-1.2%	19.4%	6.9%	-12.5%	14.6%	21.3%	6.7%	16.7%	8.7%	-8.0%	19.7%	19.1%	-0.6%	
他のボランティア活動を既に行っている	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	4.1%	2.2%	2.7%	4.4%	1.7%	5.8%	10.3%	4.5%	6.6%	2.7%	-3.9%	13.0%	5.4%	-7.6%	6.2%	4.8%	-1.4%	
始めるきっかけがない	12.3%	10.5%	-1.8%	14.6%	18.4%	3.8%	14.4%	22.2%	7.8%	25.2%	17.2%	-8.0%	15.3%	9.3%	-6.0%	7.2%	5.4%	-1.8%	14.6%	12.6%	-2.0%	
他にやりたいことがある	40.4%	47.4%	7.0%	23.3%	18.4%	-4.9%	24.3%	26.7%	2.4%	24.3%	27.6%	3.3%	37.2%	36.0%	-1.2%	20.3%	32.6%	12.3%	27.5%	30.9%	3.4%	

8. eスポーツについて

●問19 eスポーツについて知っているか

「経験がある」「内容を知っている」で24.7%、「名称だけ知っている」で45.2%を占めた。若い年代ほど認知度の高さが伺える。

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
経験がある	3	11.5%	2	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.3%	4	3.6%	1	4.3%	12	2.8%
内容を知っている	4	15.4%	19	33.9%	18	35.3%	24	33.8%	13	14.9%	10	9.0%	5	21.7%	93	21.9%
名称だけ知っている	15	57.7%	24	42.9%	21	41.2%	37	52.1%	45	51.7%	43	38.7%	7	30.4%	192	45.2%
知らない	4	15.4%	10	17.9%	10	19.6%	9	12.7%	24	27.6%	45	40.5%	5	21.7%	107	25.2%
無回答	0	0.0%	1	1.8%	2	3.9%	1	1.4%	3	3.4%	9	8.1%	5	21.7%	21	4.9%
合計	26		56		51		71		87		111		23		425	

◆前回（令和元年7月）調査項目なし

●問20 eスポーツの有益性について、どのように考えているか （問19で経験がある、内容を知っていると答えた方のみ）

eスポーツを通して、イベントや教室の開催が見込まれるとの回答が多くを占めている。一方、スポーツではないとの意見も一部見られた。

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
選手との交流などのイベント開催	2	28.6%	10	47.6%	6	33.3%	8	33.3%	3	20.0%	2	14.3%	4	66.7%	35	33.3%
子ども向けのスポーツ教室	3	42.9%	5	23.8%	3	16.7%	6	25.0%	4	26.7%	3	21.4%	1	16.7%	25	23.8%
観戦チケットの優先申込や割引	1	14.3%	2	9.5%	3	16.7%	3	12.5%	3	20.0%	1	7.1%	0	0.0%	13	12.4%
地域のスポーツ振興活性化	0	0.0%	1	4.8%	1	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.9%
学校への選手や関係者の訪問等	0	0.0%	0	0.0%	2	11.1%	3	12.5%	1	6.7%	3	21.4%	0	0.0%	9	8.6%
チーム経由での大野城市の情報発信	1	14.3%	0	0.0%	1	5.6%	1	4.2%	2	13.3%	1	7.1%	0	0.0%	6	5.7%
その他	0	0.0%	3	14.3%	2	11.1%	3	12.5%	2	13.3%	3	21.4%	0	0.0%	13	12.4%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.1%	1	16.7%	2	1.9%
合計	7		21		18		24		15		14		6		105	

※その他：自分自身のやりたいこと、スポーツと思わない、
座ってコントローラーを扱っている状況はスポーツに値しない

◆前回（令和元年7月）調査項目なし

9. 障がい者スポーツについて

●問21 障がい者スポーツにどのように関わったことがあるか（複数回答）

「見たことがない」という意見が44.2%となっており、まだまだ普及活動が必要であると思われる。このことから、身近なところから体験できる機会や情報提供に努めていく必要があるものとする。

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
したり体験したことがある	3	11.5%	0	0.0%	1	2.0%	2	2.8%	1	1.1%	3	2.7%	0	0.0%	10	2.4%
会場で観戦したことがある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	5.6%	0	0.0%	3	2.7%	0	0.0%	7	1.6%
テレビ等で観戦したことがある	5	19.2%	11	19.6%	17	33.3%	21	29.6%	34	39.1%	30	27.0%	9	39.1%	127	29.9%
ボランティアで参加したことがある	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	4	5.6%	0	0.0%	2	1.8%	0	0.0%	7	1.6%
見たことがない	15	57.7%	40	71.4%	23	45.1%	29	40.8%	36	41.4%	38	34.2%	7	30.4%	188	44.2%
その他	0	0.0%	1	1.8%	0	0.0%	4	5.6%	3	3.4%	10	9.0%	0	0.0%	18	4.2%
無回答	3	11.5%	4	7.1%	9	17.6%	7	9.9%	13	14.9%	25	22.5%	7	30.4%	68	16.0%
合計	26		56		51		71		87		111		23		425	

その他：講演を聞いたことがある。

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			合計		
	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
したり体験したことがある	1.4%	11.5%	10.1%	3.4%	0.0%	-3.4%	2.9%	2.0%	-0.9%	3.5%	2.8%	-0.7%	2.7%	1.1%	-1.6%	1.6%	2.7%	1.1%	2.6%	2.4%	-0.2%
会場で観戦したことがある	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	-3.4%	2.1%	0.0%	-2.1%	1.7%	5.6%	3.9%	2.0%	0.0%	-2.0%	3.1%	2.7%	-0.4%	2.2%	1.6%	-0.6%
テレビ等で観戦したことがある	31.0%	19.2%	-11.8%	24.4%	19.6%	-4.8%	36.4%	33.3%	-3.1%	44.3%	29.6%	-14.7%	45.6%	39.1%	-6.5%	55.5%	27.0%	-28.5%	39.8%	29.9%	-9.9%
ボランティアで参加したことがある	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	-0.8%	0.0%	2.0%	2.0%	0.0%	5.6%	5.6%	0.7%	0.0%	-0.7%	1.6%	1.8%	0.2%	0.6%	1.6%	1.0%
見たことがない	67.6%	57.7%	-9.9%	66.4%	71.4%	5.0%	53.6%	45.1%	-8.5%	45.2%	40.8%	-4.4%	46.3%	41.4%	-4.9%	33.6%	34.2%	0.6%	51.3%	44.2%	-7.1%

●問21-1 障がい者スポーツで関わったスポーツの種目（複数回答）

	スポーツの種目
したり体験したことがある	ボッチャ、ブラインドサッカー、ソフトバレーボール、風船バレー、バドミントン、運動会
会場で観戦したことがある	テニス、陸上、ラグビー、バスケットボール
テレビ等で観戦したことがある	陸上、マラソン、水泳、ボッチャ、バスケットボール、ブラインドサッカー、ゴールボール、テニス、卓球、ラグビー、柔道
ボランティアで参加したことがある	運動会、マラソン、テニス、バスケットボール、ボーリング、れくスポ

10. 大野城市におけるスポーツの推進について

●問22 大野城市のスポーツ推進について力を入れてもらいたいこと（複数回答）

「公共スポーツ施設の整備」「スポーツ機会の充実」を求める意見が多く伺える。本市の公共スポーツ施設は老朽化が顕著にみられるようになっているため、安全安心な施設整備を行うとともに、利用しやすい施設をめざす必要がある。

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
スポーツ機会の充実	8	16.7%	19	19.0%	13	13.8%	13	11.6%	21	14.7%	24	14.5%	6	17.6%	104	14.9%
中学校運動部活動の活性化	4	8.3%	13	13.0%	11	11.7%	10	8.9%	7	4.9%	6	3.6%	4	11.8%	55	7.9%
スポーツに関する情報発信	6	12.5%	6	6.0%	6	6.4%	10	8.9%	25	17.5%	25	15.2%	2	5.9%	80	11.5%
地域のクラブ等の育成支援	2	4.2%	8	8.0%	5	5.3%	8	7.1%	4	2.8%	6	3.6%	2	5.9%	35	5.0%
スポーツ行事・大会・教室の開催	3	6.3%	10	10.0%	8	8.5%	3	2.7%	19	13.3%	14	8.5%	0	0.0%	57	8.2%
学校体育施設の開放・整備	6	12.5%	8	8.0%	8	8.5%	5	4.5%	6	4.2%	4	2.4%	4	11.8%	41	5.9%
公共スポーツ施設整備	6	12.5%	13	13.0%	21	22.3%	20	17.9%	18	12.6%	26	15.8%	6	17.6%	110	15.8%
スポーツ指導者の育成支援	0	0.0%	3	3.0%	2	2.1%	5	4.5%	7	4.9%	4	2.4%	0	0.0%	21	3.0%
スポーツボランティアの育成支援	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	1	0.9%	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	3	0.4%
大規模大会で活躍できる選手の育成支援	1	2.1%	2	2.0%	1	1.1%	6	5.4%	4	2.8%	5	3.0%	0	0.0%	19	2.7%
プロスポーツチーム等との交流等	2	4.2%	6	6.0%	7	7.4%	10	8.9%	5	3.5%	6	3.6%	2	5.9%	38	5.5%
障がい者スポーツの推進	2	4.2%	2	2.0%	5	5.3%	4	3.6%	7	4.9%	7	4.2%	0	0.0%	27	3.9%
その他	0	0.0%	2	2.0%	1	1.1%	2	1.8%	0	0.0%	4	2.4%	0	0.0%	9	1.3%
特になし	8	16.7%	8	8.0%	5	5.3%	15	13.4%	20	14.0%	33	20.0%	8	23.5%	97	13.9%
合計	48		100		94		112		143		165		34		696	

※その他：夏でも冬でも使える室内プール、民間運動施設の利用補助金

各町内会区域によるスポーツ教室、ネットでの決済

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	18歳～20代			30代			40代			50代			60代			70代～			合計		
	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
スポーツ機会の充実	14.6%	16.7%	2.1%	24.1%	19.0%	-5.1%	18.9%	13.8%	-5.1%	14.7%	11.6%	-3.1%	13.9%	14.7%	0.8%	11.8%	14.5%	2.7%	16.8%	14.9%	-1.9%
中学校運動部活動の活性化	1.9%	8.3%	6.4%	4.5%	13.0%	8.5%	5.4%	11.7%	6.3%	3.0%	8.9%	5.9%	2.4%	4.9%	2.5%	2.7%	3.6%	0.9%	3.6%	7.9%	4.3%
スポーツに関する情報発信	9.6%	12.5%	2.9%	4.1%	6.0%	1.9%	5.7%	6.4%	0.7%	5.7%	8.9%	3.2%	6.6%	17.5%	10.9%	4.3%	15.2%	10.9%	5.8%	11.5%	5.7%
地域のクラブ等の育成支援	3.2%	4.2%	1.0%	7.9%	8.0%	0.1%	6.4%	5.3%	-1.1%	6.8%	7.1%	0.3%	3.5%	2.8%	-0.7%	5.1%	3.6%	-1.5%	5.6%	5.0%	-0.6%
スポーツ行事・大会・教室の開催	7.0%	6.3%	-0.7%	5.9%	10.0%	4.1%	7.4%	8.5%	1.1%	7.5%	2.7%	-4.8%	6.6%	13.3%	6.7%	4.7%	8.5%	3.8%	6.3%	8.2%	1.9%
学校体育施設の開放・整備	5.1%	12.5%	7.4%	3.4%	8.0%	4.6%	4.1%	8.5%	4.4%	4.5%	4.5%	0.0%	1.4%	4.2%	2.8%	1.6%	2.4%	0.8%	3.2%	5.9%	2.7%
公共スポーツ施設整備	17.2%	12.5%	-4.7%	9.0%	13.0%	4.0%	10.5%	22.3%	11.8%	17.7%	17.9%	0.2%	12.5%	12.6%	0.1%	10.6%	15.8%	5.2%	12.5%	15.8%	3.3%
スポーツ指導者の育成支援	1.9%	0.0%	-1.9%	3.8%	3.0%	-0.8%	3.4%	2.1%	-1.3%	4.2%	4.5%	0.3%	4.2%	4.9%	0.7%	3.1%	2.4%	-0.7%	3.5%	3.0%	-0.5%
スポーツボランティアの育成支援	1.3%	0.0%	-1.3%	1.0%	0.0%	-1.0%	1.4%	1.1%	-0.3%	1.9%	0.9%	-1.0%	1.7%	0.0%	-1.7%	1.6%	0.6%	-1.0%	1.4%	0.4%	-1.0%
大規模大会で活躍できる選手の育成支援	1.9%	2.1%	0.2%	2.8%	2.0%	-0.8%	2.4%	1.1%	-1.3%	2.3%	5.4%	3.1%	2.1%	2.8%	0.7%	2.0%	3.0%	1.0%	2.3%	2.7%	0.4%
プロスポーツチーム等との交流等	2.5%	4.2%	1.7%	1.0%	6.0%	5.0%	1.7%	7.4%	5.7%	1.5%	8.9%	7.4%	0.3%	3.5%	3.2%	2.0%	3.6%	1.6%	1.5%	5.5%	4.0%
障がい者スポーツの推進	3.8%	4.2%	0.4%	2.1%	2.0%	-0.1%	3.7%	5.3%	1.6%	3.4%	3.6%	0.2%	3.8%	4.9%	1.1%	3.9%	4.2%	0.3%	3.3%	3.9%	0.6%
特になし	7.6%	16.7%	9.1%	6.2%	8.0%	1.8%	9.8%	5.3%	-4.5%	4.5%	13.4%	8.9%	11.1%	14.0%	2.9%	14.1%	20.0%	5.9%	9.0%	13.9%	4.9%

11. プロスポーツチーム等との交流・連携について

●問23 プロスポーツチーム等の団体との交流・連携について

「交流・連携を行ってほしい」が約4割を占め、「交流・連携を行わないでほしい」は1.9%であった。このことから、交流に対して否定的な意見は少なく、交流について検討を行う必要がある。

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
交流・連携を行ってほしい	11	42.3%	26	46.4%	24	47.1%	35	49.3%	38	43.7%	31	27.9%	4	17.4%	169	39.8%
交流・連携を行わないでほしい	0	0.0%	3	5.4%	2	3.9%	0	0.0%	1	1.1%	2	1.8%	0	0.0%	8	1.9%
どちらでもよい	15	57.7%	26	46.4%	24	47.1%	32	45.1%	46	52.9%	64	57.7%	15	65.2%	222	52.2%
無回答	0	0.0%	1	1.8%	1	2.0%	4	5.6%	2	2.3%	14	12.6%	4	17.4%	26	6.1%
合計	26		56		51		71		87		111		23		425	

◆前回（令和元年7月）調査項目なし

●問24 大野城市と交流・連携をしてほしい福岡県内のスポーツチームについて

（問23で「交流・連携を行ってほしい」と回答した方のみ）

交流してほしいチームについては、福岡ソフトバンクホークスが65.1%であった。また、若い世代は、アビスパ福岡、ライジングゼファー福岡との交流を望む意見も見られた。

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
福岡ソフトバンクホークス	7	63.6%	16	61.5%	13	54.2%	19	54.3%	29	76.3%	23	74.2%	3	75.0%	110	65.1%
アビスパ福岡	4	36.4%	4	15.4%	5	20.8%	4	11.4%	5	13.2%	1	3.2%	0	0.0%	23	13.6%
ライジングゼファー福岡	0	0.0%	4	15.4%	3	12.5%	2	5.7%	2	5.3%	3	9.7%	0	0.0%	14	8.3%
宗像サニックスブルース	0	0.0%	1	3.8%	1	4.2%	4	11.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	3.6%
イコールワン福岡SUNS	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ゴールデンウルヴス福岡	0	0.0%	0	0.0%	1	4.2%	1	2.9%	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.8%
九州アスティーダ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.2%	0	0.0%	1	0.6%
九州ハニーズ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	8.6%	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.4%
その他	0	0.0%	1	3.8%	0	0.0%	2	5.7%	0	0.0%	1	3.2%	1	25.0%	5	3.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	2	6.5%	0	0.0%	3	1.8%
合計	11		26		24		35		38		31		4		169	

※その他：どのチームでも良い

◆前回（令和元年7月）調査項目なし

●問25 大野城市とスポーツチームが交流・連携をすることで期待することは何か

（問23で「交流・連携を行ってほしい」と回答した方のみ）

問20のeスポーツの有益性に関する質問と同様、「イベント開催」「子ども向けのスポーツ教室」が多くを占める結果となった。

	18歳～20代		30代		40代		50代		60代		70代～		不明		合計	
選手との交流などのイベント開催	2	18.2%	12	46.2%	9	37.5%	17	48.6%	14	36.8%	5	16.1%	3	75.0%	62	36.7%
子ども向けのスポーツ教室	3	27.3%	10	38.5%	7	29.2%	9	25.7%	10	26.3%	7	22.6%	1	25.0%	47	27.8%
観戦チケットの優先申込や割引	4	36.4%	1	3.8%	3	12.5%	0	0.0%	5	13.2%	3	9.7%	0	0.0%	16	9.5%
地域のスポーツ振興活性化	1	9.1%	3	11.5%	2	8.3%	7	20.0%	7	18.4%	11	35.5%	0	0.0%	31	18.3%
学校への選手や関係者の訪問等	1	9.1%	0	0.0%	2	8.3%	2	5.7%	2	5.3%	3	9.7%	0	0.0%	10	5.9%
チーム経由での大野城市の情報発信	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.2%	0	0.0%	1	0.6%
その他	0	0.0%	0	0.0%	1	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.2%	0	0.0%	1	0.6%
合計	11		26		24		35		38		31		4		169	

その他：プロのアスリートの考え方などを発信してほしい。

◆前回（令和元年7月）調査項目なし

運動・スポーツに関する アンケート調査報告書 (小中学生)

I 調査概要

1. 調査目的

本市民のスポーツの実態及びスポーツ推進に係る市民ニーズを把握することで、大野城市スポーツ推進計画（後期計画）の改定に必要な基礎資料を得ることを目的としたもの。

2. 調査対象

令和5年度の市内の小中学校に在学する小学校2年生、小学校5年生、中学校2年生の児童・生徒（各学校の対象学年1クラスを抽出）

3. 調査方法

市内の小中学校に協力依頼

4. 調査期間

令和6年3月1日～令和6年3月15日

5. 回収状況

834人（小学校2年生：313人 小学校5年生：375人 中学校2年生：146人）

6. 調査結果の注意事項

- ・ 端数処理の関係で合計100%にならない場合がある
- ・ 端数処理は小数点第2位を四捨五入
- ・ 学年によって回答項目に違いがある場合は合計を算出していない

Ⅱ 調査結果

1. 基本項目

(1) 性別

	小学2年		小学5年		中学2年		合計	
男	151	48.2%	181	48.3%	73	50.0%	405	48.6%
女	162	51.8%	194	51.7%	73	50.0%	429	51.4%
合計	313		375		146		834	

2. 運動やスポーツの実施状況

(1) この1年間に学校の授業以外で運動（部活動や外遊びを含む）やスポーツを行ったか

週3日以上の実施率は59.5%であり、5年前に行った調査（58.8%）に比べ0.7%増加した。また、週1日以上の実施率は85.3%と前回調査（85.8%）に比べ0.5%減少しており、スポーツを実施する頻度は多い実施率となっている。しかし、「スポーツをしなかった」と回答した子どもが6.2%と前回調査（6.3%）に比べ0.1%微減となっており、スポーツを実施する割合をあげる必要がある。

	小学2年		小学5年		中学2年		合計	
週3日以上	182	58.1%	220	58.7%	94	64.4%	496	59.5%
週1～2日	87	27.8%	112	29.9%	16	11.0%	215	25.8%
月1～3日	21	6.7%	15	4.0%	8	5.5%	44	5.3%
3ヶ月に1～2日	6	1.9%	7	1.9%	4	2.7%	17	2.0%
年1～3日	6	1.9%	1	0.3%	2	1.4%	9	1.1%
しなかった	10	3.2%	20	5.3%	22	15.1%	52	6.2%
無回答	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
合計	313		375		146		834	

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	小学2年			小学5年			中学2年			合計		
	前回	今回	増減									
週3日以上	50.2%	58.1%	7.9%	61.0%	58.7%	-2.3%	69.9%	64.4%	-5.5%	58.8%	59.5%	0.7%
週1日以上	85.5%	85.9%	0.4%	91.7%	88.6%	-3.1%	75.0%	75.4%	0.4%	85.8%	85.3%	-0.5%
しなかった	4.7%	3.2%	-1.5%	1.8%	5.3%	3.5%	17.9%	15.1%	-2.8%	6.3%	6.2%	-0.1%

◆行った運動・スポーツの種目【複数回答】

小学2年 (N=678)		小学5年 (N=697)		中学2年 (N=217)	
外遊び	30.8%	外遊び	20.4%	サッカー	12.9%
水泳	17.8%	ドッチボール	15.8%	バレーボール	12.9%
サッカー	11.2%	水泳	9.5%	バスケットボール	11.1%
ダンス	8.8%	サッカー	8.2%	バドミントン	10.6%
体操	7.7%	バスケットボール	6.9%	野球・ソフトボール	8.8%
野球・ソフトボール	3.8%	野球・ソフトボール	5.2%	陸上	7.8%
バレー	2.9%	バドミントン	4.6%	卓球	7.4%
バドミントン	2.8%	バレーボール	3.9%	水泳	4.1%
バスケットボール	2.7%	ダンス	3.0%	テニス	3.2%
空手	1.3%	ランニング	1.7%	剣道	2.8%
その他	10.2%	その他	20.9%	ジョギング・ランニング	2.3%
				ダンス	1.8%
				その他	14.3%

(2) 学校の授業以外に、どこで運動（部活動や外遊びを含む）やスポーツを行ったか

〔(1)で運動・スポーツを行ったと回答した人のみ〕

運動・スポーツを行う場所として最も多い回答が、「学校の運動場や体育館」、次いで「公園・広場」となっている。共に家から近く自由に使えるなどの利便性を重要視していることが伺える。その他にも、中学校の運動部活動で学校施設を使用していることも回答が多い要因であり、より身近な場所での運動・スポーツの実施が有効であると考えられる。

	小学2年 (N=302)		小学5年 (N=355)		中学2年 (N=124)		合計 (N=781)	
コミュニティセンター	12	4.0%	35	9.9%	15	12.1%	62	7.9%
まどかパーク	7	2.3%	13	3.7%	6	4.8%	26	3.3%
学校の運動場・体育館	143	47.4%	96	27.0%	51	41.1%	290	37.1%
民間スポーツクラブ	0	0.0%	39	11.0%	6	4.8%	45	5.8%
他市の運動場・体育館	14	4.6%	23	6.5%	10	8.1%	47	6.0%
公園・広場	82	27.2%	114	32.1%	24	19.4%	220	28.2%
その他	41	13.6%	35	9.9%	11	8.9%	87	11.1%
無回答	3	1.0%	0	0.0%	1	0.8%	4	0.5%

※「その他」…公民館、自宅等

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	小学2年			小学5年			中学2年			合計		
	前回	今回	増減									
学校の運動場・体育館	36.0%	47.4%	11.4%	28.4%	27.0%	-1.4%	49.7%	41.1%	-8.6%	35.8%	37.1%	1.3%
公園・広場	35.1%	27.2%	-7.9%	31.0%	32.1%	1.1%	13.6%	19.4%	5.8%	28.8%	28.2%	-0.6%
その他	12.7%	13.6%	0.9%	5.5%	9.9%	4.4%	3.4%	8.9%	5.5%	7.7%	11.1%	3.4%

(3) 学校の授業以外で、運動（部活動や外遊びを含む）やスポーツをしなかった理由は【複数回答】

〔(1)で運動・スポーツをしなかったと回答した人のみ〕

小学生・中学生の運動・スポーツをしなかった理由としては、「運動・スポーツが嫌い」と回答した割合が最も多く、前回と比較し上昇している。また中学生では、「希望する運動部活動がない」、運動部活動以外の「文化系部活動に入っている」との回答が多かった。これらのことから、スポーツの魅力発信や気軽に様々なスポーツが始められる取り組みが必要と考えられる。

	小学2年 (N=11)		小学5年 (N=33)		中学2年 (N=41)		合計 (N=85)	
運動・スポーツが嫌い	5	45.5%	14	42.4%	12	29.3%	31	36.5%
勉強や習い事で忙しい	2	18.2%	5	15.2%	3	7.3%	10	11.8%
一緒にする友達がいない	0	0.0%	5	15.2%	6	14.6%	11	12.9%
病気やケガ等のため	0	0.0%	1	3.0%	2	4.9%	3	3.5%
教えてくれる人がいない	1	9.1%	2	6.1%	0	0.0%	3	3.5%
近くでする場所がない	1	9.1%	1	3.0%	0	0.0%	2	2.4%
希望する運動部活動がない	—	設問なし	—	設問なし	8	19.5%	8	19.5%
文科系の部活動に入っている	—	設問なし	—	設問なし	8	19.5%	8	19.5%
その他	0	0.0%	5	15.2%	2	4.9%	7	8.2%
無回答	2	18.2%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.4%

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	小学2年			小学5年			中学2年			合計		
	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
運動・スポーツが嫌い	26.3%	45.5%	19.2%	55.6%	42.4%	-13.2%	24.0%	29.3%	5.3%	28.2%	36.5%	8.3%
希望する運動部活動がない	—	—	—	—	—	—	4.0%	19.5%	15.5%	—	—	—
文科系部活動に入っている	—	—	—	—	—	—	42.0%	19.5%	-22.5%	—	—	—

(4) 学校の授業以外で、どうすれば運動（部活動や外遊びを含む）やスポーツをするか【複数回答】

〔(1)で運動・スポーツをしなかったと回答した人のみ〕

運動・スポーツをする条件として、「気軽に誘ってくれる友達がいればする」「家族と一緒に楽しめる施設やクラブがあればする」との回答が多かった。中学生では、「入りたい運動部活動ができればする」が最も高く、子どもたちは、友人や家族と一緒に運動・スポーツを行うことを望んでいることが伺える。

	小学2年 (N=11)		小学5年 (N=35)		中学2年 (N=43)		全体 (N=89)	
近くで気軽に参加できるスポーツイベントがあればする	—	設問なし	3	8.6%	3	7.0%	—	—
近くに運動・スポーツ教室があればする	—	設問なし	2	5.7%	0	0.0%	—	—
近くに施設があればする	1	9.1%	1	2.9%	3	7.0%	5	5.9%
近くで簡単に入れる運動・スポーツのクラブがあればする	1	9.1%	0	0.0%	2	4.7%	3	3.5%
入りたい運動部活動ができればする	—	設問なし	—	設問なし	8	18.6%	—	—
やりたい時に施設が開いてればする	—	設問なし	2	5.7%	2	4.7%	—	—
やりたい運動・スポーツができる施設があればする	—	設問なし	5	14.3%	6	14.0%	—	—
気軽にできる地域の運動・スポーツの案内があればする	—	設問なし	2	5.7%	1	2.3%	—	—
楽しく教えてくれる人がいればする	1	9.1%	0	0.0%	2	4.7%	3	3.5%
家族と一緒に楽しめる施設やクラブがあればする	3	27.3%	5	14.3%	4	9.3%	12	14.1%
気軽に誘ってくれる友達がいればする	1	9.1%	8	22.9%	4	9.3%	13	15.3%
運動・スポーツ用具の貸出があればする	—	設問なし	1	2.9%	2	4.7%	—	—
その他	0	0.0%	2	5.7%	2	4.7%	4	4.7%
運動・スポーツはしたくない	1	9.1%	4	11.4%	4	9.3%	9	10.6%
無回答	3	27.3%	0	0.0%	0	0.0%	3	3.5%

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	小学2年			小学5年			中学2年			合計		
	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
入りたい運動部活動ができればする	—	—	—	—	—	—	7.1%	18.6%	11.5%	—	—	—
家族と一緒に楽しめる施設やクラブがあればする	16.1%	27.3%	11.2%	14.0%	14.3%	0.3%	7.1%	9.3%	2.2%	10.8%	14.1%	3.3%
気軽に誘ってくれる友達がいればする	6.5%	9.1%	2.6%	14.0%	22.9%	8.9%	16.5%	9.3%	-7.2%	13.9%	15.3%	1.4%

(5) 今後やってみたい（続けたい）運動・スポーツはあるか

今後行いたい又は続けたい運動・スポーツはあるかとの質問に対して、全体の77.1%が「行いたい、続けたい」と回答しているが、前回調査時と比較して、8.5%減少している。年齢を重ねていくにつれて、減少傾向にあることから、幼少期の頃から続けていける環境や取り組みを実施していく必要があると考えられる。

	小学2年		小学5年		中学2年		合計	
ある	282	90.1%	275	73.3%	86	58.9%	643	77.1%
ない	20	6.4%	100	26.7%	60	41.1%	180	21.6%
無回答	11	3.5%	0	0.0%	0	0.0%	11	1.3%
合計	313		375		146		834	

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	小学2年			小学5年			中学2年			合計		
	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
ある	86.3%	90.1%	3.8%	89.2%	73.3%	-15.9%	77.1%	58.9%	-18.2%	85.6%	77.1%	-8.5%
ない	13.7%	6.4%	-7.3%	10.8%	26.7%	15.9%	22.9%	41.1%	18.2%	14.4%	21.6%	7.2%

◆今後やってみたい運動・スポーツの種目【複数回答】

小学2年 (N=630)		小学5年 (N=419)		中学2年 (N=130)	
外遊び	18.3%	水泳	11.5%	バレーボール	11.5%
水泳	18.1%	バスケットボール	11.5%	サッカー	10.8%
サッカー	11.3%	サッカー	11.0%	バスケットボール	10.8%
ダンス	10.6%	バドミントン	9.3%	バドミントン	10.8%
体操	7.5%	ドッチボール	8.1%	野球・ソフトボール	10.8%
バスケットボール	5.6%	バレー	8.1%	卓球	7.7%
野球・ソフトボール	5.4%	野球・ソフトボール	7.9%	陸上	6.2%
バレーボール	4.6%	テニス	6.2%	テニス	3.8%
空手	4.0%	ダンス	3.6%	ダンス	3.8%
バドミントン	3.7%	鬼ごっこ	3.3%	水泳	3.1%
卓球	3.5%	卓球	3.1%	弓道	3.1%
テニス	2.5%	体操・新体操	2.1%	体操	1.5%
その他	4.9%	その他	14.3%	剣道	1.5%
				スキー	1.5%
				スケート	1.5%
				その他	11.5%

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）※参考上位

小学2年	小学5年	中学2年
①外遊び (22.7%)	①水泳 (15.1%)	①サッカー (12.6%)
②水泳 (19.7%)	②外遊び (12.8%)	②バドミントン (10.9%)
③サッカー (12.3%)	③サッカー (10.9%)	③バスケットボール (10.5%)
		④野球・ソフトボール (10.1%)
		⑦バレーボール (6.5%)

(6) この1年間にどのようなスポーツイベントやスポーツ教室に参加したか【複数回答】

スポーツイベント等への参加状況では、各種競技大会への参加が24.1%と最も高く、運動部活動やスポーツ少年団等のスポーツクラブの競技大会に参加する機会が多いものと思われる。また、「参加しなかった」と回答した割合も56.3%と、前年度と比較して6.9%も上昇しており、コロナ後においてもスポーツ大会やイベント・教室への参加機会が少ない現状となっていることが伺える。

	小学2年 (N=302)		小学5年 (N=426)		中学2年 (N=169)		合計 (N=897)	
まどかスポーツ教室	3	1.0%	2	0.5%	0	0.0%	5	0.6%
いこいの森ロードレース	0	0.0%	53	12.4%	9	5.3%	62	6.9%
中学校対抗駅伝	—	設問なし	—	設問なし	11	6.5%	11	1.2%
市民水泳大会	18	6.0%	11	2.6%	2	1.2%	31	3.5%
県民体育大会	0	0.0%	6	1.4%	2	1.2%	8	0.9%
まどかりンピック	3	1.0%	14	3.3%	7	4.1%	24	2.7%
MADOKAれくスポ祭	1	0.3%	13	3.1%	2	1.2%	16	1.8%
各種競技大会	79	26.2%	93	21.8%	44	26.0%	216	24.1%
その他	7	2.3%	9	2.1%	3	1.8%	19	2.1%
参加しなかった	191	63.2%	225	52.8%	89	52.7%	505	56.3%

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	小学2年			小学5年			中学2年			合計		
	前回	今回	増減									
いこいの森ロードレース	0.0%	0.0%	0.0%	10.3%	12.4%	2.1%	8.0%	5.3%	-2.7%	6.3%	6.9%	0.6%
MADOKAれくスポ祭	0.7%	0.3%	-0.4%	8.5%	3.1%	-5.4%	6.4%	1.2%	-5.2%	5.4%	1.8%	-3.6%
各種競技大会	33.3%	26.2%	-7.1%	29.2%	21.8%	-7.4%	35.6%	26.0%	-9.6%	32.0%	24.1%	-7.9%
参加しなかった	64.2%	63.2%	-1.0%	43.5%	52.8%	9.3%	38.3%	52.7%	14.4%	49.4%	56.3%	6.9%

3. 運動部活動やスポーツクラブの加入状況

(1) 運動部活動またはスポーツクラブ（スポーツ少年団等）に加入しているか

小学2年生の加入率は、前回調査時と比較し、4.0%上昇しているものの、小学5年生では9.9%の大幅減となっている。中学生においても加入率が減少しており、学年が上がるにつれて加入率をあげていく取り組みが必要と考える。

	小学2年		小学5年		中学2年		合計	
加入している	196	62.6%	229	61.1%	98	67.1%	523	62.7%
加入していない	99	31.6%	146	38.9%	48	32.9%	293	35.1%
					24	50.0%		
無回答	18	5.8%	0	0.0%	0	—	18	2.2%
合計	313		375		146		834	

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	小学2年			小学5年			中学2年			合計		
	前回	今回	増減									
加入している	58.6%	62.6%	4.0%	71.0%	61.1%	-9.9%	69.6%	67.1%	-2.5%	66.1%	62.7%	-3.4%
加入していない	41.4%	31.6%	-9.8%	29.0%	38.9%	9.9%	30.4%	32.9%	2.5%	33.9%	35.1%	1.2%

◆加入している運動・スポーツの種目【複数回答】

小学2年 (N=196)		小学5年 (N=253)		中学2年 (N=98)	
水泳	48.4%	水泳	28.9%	バレーボール	14.3%
ダンス	16.8%	サッカー	11.9%	バスケットボール	13.3%
サッカー	15.7%	ダンス	10.3%	野球・ソフトボール	12.2%
バスケットボール	4.1%	バスケットボール	10.3%	陸上	11.2%
空手	3.6%	野球・ソフトボール	8.3%	卓球	10.2%
野球・ソフトボール	3.6%	体操・新体操	4.7%	サッカー	9.2%
その他	7.8%	空手	4.0%	バドミントン	8.2%
		バドミントン	2.8%	テニス	7.1%
		バレー	2.4%	剣道	6.1%
		バレエ	1.6%	水泳	5.1%
		ラグビー	1.2%	体操・新体操	1.0%
		剣道	1.2%	無回答	2.0%
		その他	12.6%		

4. スポーツ観戦

(1) この1年間にプロスポーツの試合を見たか

プロスポーツの試合観戦率は全体で68.8%となっており、高い関心がうかがえる。主にテレビ観戦の回答が多いが、4人に1人は試合会場に行って直接観戦している状況であり、福岡県内のプロチームが多いことや国際大会の実施など、スポーツイベントが充実しており、また、本市が観戦しやすい立地であることなど、スポーツを直接観戦できる機会が多いことが伺える。

	小学2年		小学5年		中学2年		合計	
見た	255	81.5%	225	60.0%	94	64.4%	574	68.8%
見なかった	55	17.6%	150	40.0%	52	35.6%	257	30.8%
無回答	3	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.4%
合計	313		375		146		834	

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	小学2年			小学5年			中学2年			合計		
	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
見た	76.1%	81.5%	5.4%	83.0%	60.0%	-23.0%	82.0%	64.4%	-17.6%	80.2%	68.8%	-11.4%
見なかった	23.9%	17.6%	-6.3%	17.0%	40.0%	23.0%	18.0%	35.6%	17.6%	19.8%	30.8%	11.0%

◆観戦手段【複数回答】 [プロスポーツの試合を見たと回答した人のみ]

	小学2年		小学5年		中学2年		合計	
会場観戦	80	25.8%	95	30.7%	27	27.8%	202	28.3%
テレビ観戦	208	67.1%	186	60.2%	64	66.0%	458	64.2%
動画観戦	22	7.1%	28	9.1%	6	6.2%	56	7.9%

◆前回調査との比較（前回調査：令和元年7月）

	小学2年			小学5年			中学2年			合計		
	前回	今回	増減									
会場観戦	31.3%	25.8%	-5.5%	25.2%	30.7%	5.5%	21.4%	27.8%	6.4%	26.4%	28.3%	1.9%
テレビ観戦	66.2%	67.1%	0.9%	69.6%	60.2%	-9.4%	63.6%	66.0%	2.4%	67.1%	64.2%	-2.9%
動画観戦	2.5%	7.1%	4.6%	5.1%	9.1%	4.0%	15.0%	6.2%	-8.8%	6.6%	7.9%	1.3%

◆観戦したスポーツの種目【複数回答】

小学2年 (N=555)		小学5年 (N=407)		中学2年 (N=130)	
野球	34.1%	野球	29.3%	野球	28.5%
サッカー	23.8%	サッカー	23.1%	サッカー	17.7%
バスケットボール	11.4%	バスケットボール	16.0%	バスケットボール	16.2%
水泳	11.0%	バレーボール	6.1%	バレーボール	13.8%
卓球	9.2%	卓球	6.1%	卓球	9.2%
テニス	3.2%	水泳	3.9%	水泳	3.8%
陸上	2.7%	ラグビー	2.2%	テニス	1.5%
その他	4.6%	テニス	1.7%	その他	9.2%
		バドミントン	1.5%		
		その他	10.1%		

5. eスポーツについて ※新規項目

(1) eスポーツについてどのように思っているか

約1割が経験済みで、約3割が内容まで知っており、約8割が名称だけなら知っていると回答しており、認知度の高さが伺える。一方で、「とても興味がある・どちらかというに興味がある」の割合は、54.3%にとどまっており、認知度はあるが、関心度についてはそこまで高くないことが伺える。

◆eスポーツについて知っているか

	小学5年		中学2年		合計	
経験したことがある	34	9.1%	16	3.1%	50	9.6%
内容を知っている	101	26.9%	61	11.7%	162	31.1%
名称だけ知っている	150	40.0%	53	10.2%	203	39.0%
知らない	90	24.0%	16	3.1%	106	20.3%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	375		146		521	

◆eスポーツについてどう思うか

	小学5年		中学2年		合計	
とても興味がある	70	18.7%	25	17.1%	95	18.2%
どちらかというに興味がある	131	34.9%	57	39.0%	188	36.1%
どちらかというに興味がない	63	16.8%	44	30.1%	107	20.5%
まったく興味がない	18	4.8%	16	11.0%	34	6.5%
知らない	90	24.0%	3	2.1%	93	17.9%
その他	3	0.8%	1	0.7%	4	0.8%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	375		146		521	

6. 障害者スポーツについて ※新規項目

(1) 障害者スポーツについてどのように思っているか

「障害者スポーツを見たことがない」という回答が約6割を占める結果となっており、「障がい者スポーツを体験したことがある」割合や「試合会場で大会を観戦したことがある」割合が合わせて約1割と低い結果となった。学年が低いほど、見たことがなく、経験したことがないことから、小学生時に体験や大会の周知等を行うことは重要であることが伺える。

◆障害者スポーツについてどのように関わったことがあるか

	小学5年		中学2年		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
障害者スポーツをしたり体験したことがある	20	5.0%	29	18.2%	49	8.8%
試合会場に行って、大会を観戦したことがある	6	1.5%	1	0.6%	7	1.3%
テレビや動画等で大会を観戦したことがある	113	28.4%	43	27.0%	156	28.0%
大会のボランティアとして参加したことがある	4	1.0%	0	0.0%	4	0.7%
障害者スポーツを見たことがない	247	62.1%	82	51.6%	329	59.1%
その他	8	2.0%	4	2.5%	12	2.2%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	398		159		557	

7. プロスポーツ団体等との連携について ※新規項目

(1) プロスポーツ団体等との連携についてどのように思っているか

約3割が交流・連携を行ってほしいと回答しており、プロスポーツの関心度が低いことが伺える。一方で、期待することとしては、「選手との交流などのイベント開催」が55.3%、「子ども向けのスポーツ教室」が21.6%と、約7割以上で選手とのふれあいやスポーツ体験が期待されている状況となっている。

◆プロスポーツ団体等との連携について

	小学5年		中学2年		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
交流・連携を行ってほしい	137	36.5%	53	36.3%	190	36.5%
交流・連携を行わないでほしい	7	1.9%	6	4.1%	13	2.5%
どちらでもよい	231	61.6%	87	59.6%	318	61.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	375		146		521	

◆交流を行ってほしい福岡県内のスポーツチーム

	小学5年		中学2年		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
福岡ソフトバンクホークス	68	49.6%	27	50.9%	95	50.0%
アビスパ福岡	21	15.3%	8	15.1%	29	15.3%
ライジングゼファー福岡	28	20.4%	6	11.3%	34	17.9%
宗像サニックスブルース	2	1.5%	0	0.0%	2	1.1%
イコールワン福岡SUNS	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ゴールデンウルブス福岡	2	1.5%	1	1.9%	3	1.6%
九州アスティータ	7	5.1%	6	11.3%	13	6.8%
九州ハニーズ	1	0.7%	2	3.8%	3	1.6%
その他	8	5.8%	3	5.7%	11	5.8%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	137		53		190	

◆交流することで期待すること

	小学5年		中学2年		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
選手との交流などのイベント開催	76	55.5%	29	54.7%	105	55.3%
子ども向けのスポーツ教室	33	24.1%	8	15.1%	41	21.6%
観戦チケットの優先申込や割引	12	8.8%	4	7.5%	16	8.4%
地域のスポーツの活性化	3	2.2%	4	7.5%	7	3.7%
小中学校への選手や関係者の訪問や講義	10	7.3%	5	9.4%	15	7.9%
チーム経由での大野城市の情報発信	1	0.7%	2	3.8%	3	1.6%
その他	2	1.5%	1	1.9%	3	1.6%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	137		53		190	

資料3 【スポーツ推進計画後期計画達成度評価一覽】

S…目標達成 A…現状値より上昇・目標未達成 B…現状値より下降 C…未実施 D…評価不可

基本理念	基本施策	施策の方向性	目標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	R5達成値	評価	
自分を、家族を、地域を豊かにするスポーツライフの創造 ～「市民皆スポーツ」の実現～	1	子どものスポーツ機会の充実	子どもの運動遊びの推進	小中学生の週3回以上のスポーツ実施率	58.8%	70%以上	59.5%	A
			学校体育への支援	★中学生の運動部活動又は社会体育加入率	69.6%	70%以上	67.1%	B
	2	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	スポーツ少年団及び運動部活動への支援	★小学生のスポーツ少年団又はスポーツクラブ加入率	65.1%	75%以上	62.5%	B
			スポーツを始める機会の創出	成人の週1回以上のスポーツ実施率	39.8%	50%以上	42.0%	A
			スポーツを通じた健康・生きがいづくりの推進	★健康運動増進室の年間利用者数	のべ8,252人	のべ9,000人以上	のべ6,317人	B
	3	競技スポーツの推進	共生社会の実現に向けたスポーツの推進	★障がい者大運動会参加者数	255人	300人以上	コロナにより中止	C
			スポーツ大会の開催・支援	★市・体育協会のスポーツ大会参加者数	8,963人	10,000人以上	20,599人	S
	4	スポーツ環境の整備・充実	競技団体等の育成・支援	県民体育大会総合成績 体育協会加盟登録者数	9位 3,766人	6位以内 4,000人以上	11位 3,152人	B
			スポーツ施設の整備・維持管理	★総合公園施設利用者数	163,609人	165,000人以上	204,326人	S
			スポーツ施設の有効活用	★赤坂・旭ヶ丘テニスコート利用者数	37,288人	40,000人以上	30,744人	B
	5	スポーツを活用した地域活性化	スポーツ情報の充実	(目標なし)	—	—	—	D
			総合型地域スポーツクラブの支援・充実	★総合型地域スポーツクラブのスポーツ教室数	27教室	35教室以上	41教室	S
	6	国際的なスポーツイベントを契機としたスポーツ振興	地域スポーツを支える人材の確保・育成	リーダーバンク登録者数	63人	70人以上	62人	B
			ニュースポーツの普及	★MADOKAねくスポ祭来場者数	6,377人	7,000人以上	4,855人	B
			東京2020オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツ機運の醸成	★国際的なスポーツイベントに関心がある人	41.50%	60%以上	—	D
			その他国際的スポーツイベントを契機としたスポーツ機運の醸成	★国際的なスポーツイベントにボランティアなどで携わりたい人	10.70%	30%以上	—	D
			東京2020オリンピック・パラリンピックを好機とした次の世代に繋がるレガシー ^(※) の創出	★国際的なスポーツイベントにボランティアなどで携わりたい人	10.70%	30%以上	—	D

★…後期計画新規目標指数

資料4 策定体制

大野城市スポーツ推進審議会委員

役 職	氏 名	所 属【選出区分】
会 長	井上 順吾	公益財団法人大野城市スポーツ協会 会長 【第2号委員】
副会長	大隈 和彦	大野城市立御笠の森小学校 校長 【第4号委員】
委 員	高場 三恵子	大野城市スポーツ推進委員 【第1号委員】
委 員	辻 純子	大野城市スポーツ推進委員 【第1号委員】
委 員	見城 俊昭	公益財団法人大野城市スポーツ協会 参与 【第2号委員】
委 員	飛永 時子	北地区コミュニティ運営協議会 【第3号委員】
委 員	國分 慎二	大野城市立大和中学校 校長 【第4号委員】
委 員	若山 純哉	大野城市教育委員会教育部長 【第5号委員】
委 員	佐藤 紀子	一般社団法人日本スロージョギング協会 【第6号委員】

○大野城市スポーツ推進審議会設置条例

昭和60年3月26日条例第14号

改正

平成13年6月25日条例第10号

平成23年12月19日条例第20号

平成30年3月22日条例第4号

令和3年3月24日条例第7号

大野城市スポーツ推進審議会設置条例

(設置)

第1条 スポーツ基本法（平成23年法律第78号）第31条の規定に基づき、大野城市スポーツ推進審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 審議会は、大野城市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議し、及びこれらの事項に関して教育委員会に建議する。

- (1) コミュニティスポーツの充実
- (2) 社会体育施設の整備と運営管理の適正化
- (3) 社会体育指導者の育成
- (4) スポーツクラブの健全育成

(組織)

第3条 審議会は、9名以内の委員で組織し、次に掲げる者の中から教育委員会が委嘱する。

- (1) スポーツ推進委員
- (2) スポーツ協会の代表者
- (3) コミュニティ運営協議会の代表者
- (4) 市立小学校及び中学校の校長
- (5) 関係行政機関の職員

(6) 学識経験者

(7) その他教育委員会が必要と認める者

(委任)

第4条 この条例に定めるもののほか、審議会に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則 (平成13年条例第10号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成23年12月19日条例第20号)

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の大野城市スポーツ振興審議会設置条例第3条の規定により委嘱されている委員は、その任期が満了するまでの間、この条例による改正後の大野城市スポーツ推進審議会設置条例第3条の規定により委嘱された委員とみなす。

附 則 (平成30年3月22日条例第4号)

(施行期日)

1 この条例は、平成30年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の大野城市スポーツ推進審議会設置条例第3条第3号の委員に委嘱されている者は、その任期が満了するまでの間、この条例による改正後の大野城市スポーツ推進審議会設置条例第3条の規定により同条第3号の委員に委嘱されたものとみなす。

附 則 (令和3年3月24日条例第7号)

(施行期日)

1 この条例は、令和3年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の大野城市スポーツ推進審議会設置条例第3条第2号の委員に委嘱されている者は、その任期が満了するまでの間、この条例による改正後の大野城市スポーツ推進審議会設置条例第3条の規定により同条第2号の委員に委嘱されたものとみなす。

大野城市スポーツ推進委員

役 職	氏 名	所 属【選出区分】
委員長	森 茂行	南地区コミュニティ運営協議会 【第3号委員】
副委員長	山下 義幸	南地区コミュニティ運営協議会 【第3号委員】
委 員	大倉 國廣	公益財団法人大野城市スポーツ協会 【第1号委員】
委 員	段浦 佳恋	南地区コミュニティ運営協議会 【第3号委員】
委 員	木村 誠司	南地区コミュニティ運営協議会 【第3号委員】
委 員	伊藤 裕司	大野城市身体障害者福祉協会 【第4号委員】
委 員	小森 和久	中央地区コミュニティ運営協議会 【第3号委員】
委 員	高倉 浩二	中央地区コミュニティ運営協議会 【第3号委員】
委 員	高場 三恵子	中央地区コミュニティ運営協議会 【第3号委員】
委 員	岩本 恭次	中央地区コミュニティ運営協議会 【第3号委員】
委 員	藤本 道也	東地区コミュニティ運営協議会 【第3号委員】
委 員	唯松 ゆかり	東地区コミュニティ運営協議会 【第3号委員】
委 員	岩田 浩二	東地区コミュニティ運営協議会 【第3号委員】
委 員	辻 純子	東地区コミュニティ運営協議会 【第3号委員】
委 員	五郎丸 守	公益財団法人大野城市スポーツ協会 【第1号委員】
委 員	飛永 時子	北地区コミュニティ運営協議会 【第3号委員】
委 員	岡部 茂	北地区コミュニティ運営協議会 【第3号委員】
委 員	吉田 康一	北地区コミュニティ運営協議会 【第3号委員】
委 員	三木 聖隆	北地区コミュニティ運営協議会 【第3号委員】

○大野城市スポーツ推進委員に関する規則

昭和38年3月13日教委規則第14号

改正

昭和47年4月3日教委規則第7号

昭和49年3月13日教委規則第2号

昭和51年10月13日教委規則第11号

昭和54年6月13日教委規則第3号

昭和62年4月25日教委規則第6号

平成8年12月25日教委規則第12号

平成12年2月29日教委規則第3号

平成23年3月25日教委規則第3号

平成23年11月24日教委規則第7号

平成24年5月30日教委規則第4号

平成29年10月31日教委規則第5号

平成30年3月26日教委規則第4号

令和3年3月26日教委規則第3号

大野城市スポーツ推進委員に関する規則

(目的)

第1条 この規則は、スポーツ基本法（平成23年法律第78号）第32条の規定に基づきスポーツ推進委員（以下「推進委員」という。）の職務その他推進委員に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(職務)

第2条 推進委員は、市におけるスポーツの普及及び推進に関し、次の職務を行う。

(1) 市民のスポーツの推進に係る諸行事等の企画及び立案に参画し、指導助言を行うこと。

(2) スポーツに関する理解と関心をひろく市民にひろめること。

- (3) 行政機関、公益財団法人大野城市スポーツ協会及び地区コミュニティ等の団体が行うスポーツ行事又は事業に協力すること。
- (4) 市民の求めに応じてスポーツの実技指導を行うこと。
- (5) スポーツの推進のための事業の実施に係る連絡調整を行うこと。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、スポーツの推進のための指導及び助言を行うこと。

(定数)

第3条 推進委員の定数は、20人以内とする。

(委嘱)

第4条 推進委員は、次の各号に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

ただし、暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第6号に規定する暴力団員（以下「暴力団員」という。）又は暴力団員と密接な関係を有する者には委嘱しないものとする。

- (1) 公益財団法人大野城市スポーツ協会から推薦された者
- (2) スポーツ少年団から推薦された者
- (3) 各地区コミュニティ運営協議会から推薦された者
- (4) 障害者福祉団体から推薦された者
- (5) 小・中学校の教諭を含む学識経験者等

(任期)

第5条 推進委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の推進委員の任期は前任者の残任期間とする。

2 教育委員会は、前項の規定にかかわらず、前条ただし書に規定する事由のほか特別の事由があるときは、前項の期間中においても推進委員を解嘱することができる。

3 推進委員は、再任されることができる。

(服務)

第6条 推進委員は、相互に連絡し協力しなければならない。

2 推進委員は、その職務を遂行するに当たって法令、条例並びに教育委員会の定める規則及び規程に従わなければならない。

3 推進委員は、その職の信用を傷つけ、又はその職全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

(研修)

第7条 推進委員は、常にその職務を行う上に必要な知識及び技術の修得に努めなければならない。

(報酬等)

第8条 推進委員には、大野城市特別職の職員の給与等に関する条例（昭和40年条例第2号）に定めるところにより報酬及び費用弁償を支給する。

(ユニフォームの貸与)

第9条 推進委員に貸与するユニフォームの品目、数量及び貸与期間は、次の表のとおりとする。

品目	数量	貸与期間
ユニフォーム上（ポロシャツ半袖）	1	4年
ユニフォーム下	1	6年
ユニフォーム（防寒服）	1	6年

備考 ユニフォーム上（ポロシャツ半袖）及びユニフォーム（防寒服）には大野城市スポーツ推進委員と記すものとする。

2 ユニフォームの着用、保全、弁償、返還及び管理等については、大野城市職員作業服貸与規則（昭和56年規則第17号）の例による。

(委任)

第10条 この規則の施行に関し、必要な事項は教育長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（昭和47年教委規則第7号）

この規則は、公布の日から施行し、昭和47年4月1日から適用する。

附 則（昭和49年教委規則第2号）

この規則は、公布の日から施行し、昭和49年4月1日から適用する。

附 則（昭和51年教委規則第11号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（昭和54年教委規則第3号）

この規則は、公布の日から施行し、改正後の大野城市体育指導委員に関する規則の規定は、昭和54年5月1日から適用する。

附 則（昭和62年教委規則第6号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成8年教委規則第12号）

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則（平成12年教委規則第3号）

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成23年3月25日教委規則第3号）

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成23年11月24日教委規則第7号）抄

（施行期日）

- 1 この規則は、公布の日（以下「施行日」という。）から施行する。

（経過措置）

- 3 この規則の施行の際現に第3条の規定による改正前の大野城市体育指導委員に関する規則（以下この項において「改正前の規則」という。）第4条の規定により委嘱されている体育指導委員は、第3条の規定による改正後の大野城市スポーツ推進委員に関する規則（以下この項において「改正後の規則」という。）第4条の規定により委嘱された推進委員とみなす。この場合において、当該委嘱された推進委員とみなされる者の任期は、改正後の規則第5条の規定にかかわらず、施行日における改正前の規則第5条の規定により委嘱されている体育指導委員としての任期の残任期間と同一の期間とする。

附 則（平成24年 5 月30日教委規則第 4 号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成29年10月31日教委規則第 5 号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成30年 3 月26日教委規則第 4 号）

（施行期日）

- 1 この規則は、平成30年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

- 2 この規則の施行の際現に改正前の大野城市スポーツ推進委員に関する規則第 4 条第 3 号の委員に委嘱されている者は、その任期が満了するまでの間、改正後の大野城市スポーツ推進委員に関する規則第 4 条の規定により同条第 3 号の委員に委嘱されたものとみなす。

附 則（令和 3 年 3 月26日教委規則第 3 号）

（施行期日）

- 1 この規則は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

- 2 この規則の施行の際現に第 1 条の規定による改正前の大野城市スポーツ推進委員に関する規則第 4 条の推進委員に委嘱されている者は、その任期が満了するまでの間、第 1 条の規定による改正後の大野城市スポーツ推進委員に関する規則第 4 条の規定により同条第 1 号の推進委員に委嘱されたものとみなす。



大野城市

第2期大野城市スポーツ推進計画

令和8年2月

大野城市教育委員会 スポーツ課

TEL 092-580-1914 FAX 092-501-2270

E-mail : sports@city.onojo.fukuoka.jp